

愛知学院大学

教養部紀要

第59巻 第1号

論文

- 山 野 明 男：東日本大震災を通して東海地域の防災を考える…………… (1)
- 清 水 義 和：ヴァン・ゴッホと寺山修司—— M. C. エッシャーによって“ひまわり”を
『田園に死す』の中に読む…………… (23)
- 鷲 嶽 正 道：学生が「読める」英文の測定法——語彙密度、名詞化、節どうしの関係——… (59)
- Glenn D. GAGNE：Improving Language Acquisition Through Better Task Design…………… (73)
- 北 田 豊 治：大学生における飲酒行動と態度に関する研究…………… (81)
- 松 浦 國 弘：名古屋市営屠場開設に至るまでの経緯と部落問題…………… (144)

資料

- 川 口 高 風：名古屋の寺院に関する木版資料について(七)…………… (124)

公開講座記録

- 清 忠 師：温暖化と私たちの未来…………… (91)

2011

愛知学院大学教養部

東日本大震災を通して東海地域の防災を考える

山 野 明 男

はじめに

地理学を専門とする者にとって、防災を検討することは大変重要な責務と思われる。なぜかという、地理学は各専門分野の地形とか地質、気候などの自然環境面と、人間活動の生活や産業などの人文環境面の両者を総合的に把握する学問と思われるからである。

最近、改定された高等学校の学習指導要領（平成25年度から実施）の地理Aに防災の項目が初めて登場した。それまで、環境問題は現代社会や地理で扱われていたが、防災問題は皆無であったといってよい。教育の現場に教科・科目として登場すべきであると筆者は考えている。多発する自然災害を防災の面からとらえる科目を造りたいと考えていたところ、大学の初年次教育の一環で設けられた教養セミナーの担当を依頼されたときに「防災」をテーマに選びセミナーを展開している。

防災の「災」字の語源をみると、災いの字は川の字がㄩに曲げられていることから洪水を連想し、部首の火へんから火事を連想できる。その災害は、地震、津波、火山噴火、台風、高潮、豪雨、洪水、竜巻、雹害、冷害、干害などがあげられる。わが国はこれら自然災害が多発する災害大国といって過言ではない。

そこで、この報告では自然災害を防ぐという防災について考察したいと思う。まず、防災の捉え方を示し災害が生起する前の防災対策の必要性をつかみたい。次に、2011年3月11日に発生した東日本大震災の被害の特徴を示し、東海地域の防災の在り方を地震・津波だけではなく、風水害なども加え検討しようとした。この地域も過去に濃尾地震や伊勢湾台風といった巨大な災害に遭遇している。これらの実態から考えられる防災対策をいくつか提起したい。

第1章 災害の捉え方

わが国は災害が多発し災害のたびごとに目覚ましい復旧を遂げ、災害に立ち向かってきたといえる。このような災害の復興・再建を地理学者の清水馨八郎は「天災進化論」と表現した。一見なるほどと思われるが、あまり人間の犠牲が考慮に入れられていないことに気付く。清水馨八郎著『日本列島再発見』角川文庫1973年の中の「災害の国 日本」の一節である。

「光と水と土、この豊かな恵まれた国土の自然にはぐくまれた日本民族が長い歴史の間になぜ怠け者にならなかったか。それは日本が天災国日本だったからである。日本は古来「地震・雷・火事・おやじ」といわれるほど宿命的な天災を風土として与えられていたのである。せっかく丹精こめた秋の取り入れも、台風一過根こそぎ失われることもある。農民はその翌日から営々として立ち上がらねばならない。つねに存在する災害の脅威が人々に貯蓄心を教え、それに対抗するためのさまざまな知恵を学んだのであろう。……一般に天災にしる人災にしる、災害は困ったことに違いない。ところが日本ではこれが皮肉にも社会進歩の原動力になっている場合がある。適度の災害、ほどよき逆境は民族にとって大きな刺激となり人間に知恵を授け、眠っていた政治を目覚めさせて、災害復興の至上命令のもとにその都度社会生活を段階的に前進させるもととなった。特に近年の日本ではこの傾向が強い。「災い転じて福となす」からである。してみると天災を否定するばかりが能ではなく積極的にこれを活用すれば、社会の進展に役立つのである。伊勢湾台風が災害対策基本法を、集中豪雨による宅地災害が「宅地造成基準法」を一気に通過させたりしたのも災害による進歩の例だ。……日本人は長い間に災害の都度「経験的な知恵」を生んで日本文化を段階的に前進させてきた。これをもって「天災進化論」ということが出来る。いまや「天災」も近代の「科学的知恵」をもってすれば「天恵」に置き換えられる可能性の時代を迎えたのである。」(点線部は別事例を筆者が挿入)

この文章をどうとらえるか。本当にそうだと納得するところもあるが、この考え方に異議を唱える人も多い。地理同志会編『新しい世界認識を求めて』教育出版によると、次のようなコメントがある。

「第一に人間無視の理論であり、過去に災害にあい被害を受けた人々の問題を無視している。第二に社会の発展の原動力を、「災い転じて福となす」として災害に求めるわけだが、過去の歴史を丁寧に跡付けた時事実をゆがめているのではないか。都合のよい過去の事実を短絡的に結び付けているといえよう。第三に、災害を肯定化することにより何が災害の原因だったのか追求せず、災害の責任を転嫁し、逆に積極的にこれまでの資本の論理を評価している。安全性を無視し、どんどん災害を起こした方が社会が発展するのだと……。」

このコメントも一部に偏りがみられるが、的を射るものとなっている。財政が窮屈な中で

ここに重点を置くかも問題である。災害がいつ来るか不明なのに途方もない予算をつけて万里の長城のようなものを建設するか。それとも、合理的な案でまとめるかは住民の知恵である。しかし、災害が来る前に効率的で犠牲者を出来るだけ少なくする方策を考え、それを実行することは、われわれの重要な責務であると思われる。

第2章 わが国における自然災害の地理的位置

1 複雑な地体構造

世界の地体構造は、地球表面を厚さ約100kmのプレート、すなわち岩板（盤）が覆っているというプレートテクトニクス説で捉えられ、日本は4つの岩盤の境に位置しているため地殻変動が多い（図1）。その理由は、プレートがその境界部でぶつかり合っているため、地震や火山活動が活発となっている。

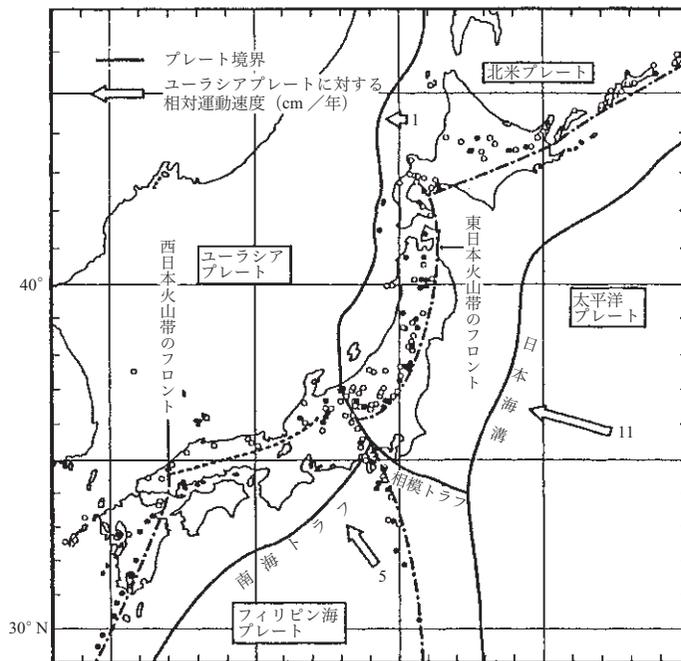


図1 日本付近のプレートの分布と火山帯（杉村による）

詳しく述べると、東北日本では大陸のプレートである北アメリカプレートが海洋のプレートである太平洋プレートによって地球の内部に引きずり込まれ、その限界が来たときに大地震

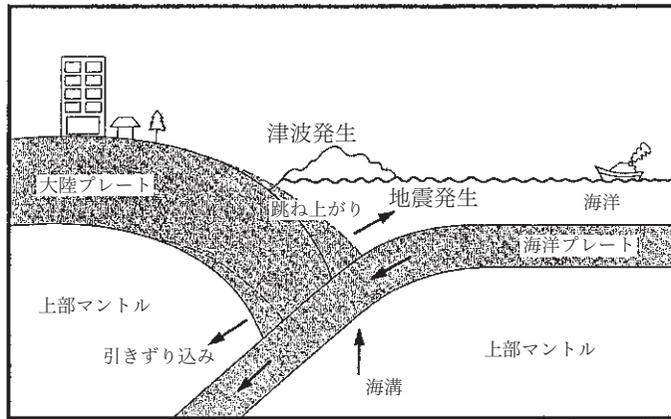


図2 海溝型地震の発生模式図 (大矢雅彦による)

を発生させると考えられている (図2)。今回の東北地方太平洋岸地震も、このような形で生じたものと考えられている。よって、このような関係はこの東海地域にもみられ、大陸のプレートであるユーラシアプレートが海洋のプレートのフィリピン海プレートに引きずり込まれて東海・東南海・南海地震が発生すると考えられている。

このプレートの境界部から100km 陸地側には、火山フロントと呼ばれる火山が帯をなしてみられる。これは海洋のプレートが地球内部に潜り込んだ所にマグマが発生しやすいためともいわれている。そのため、北海道から東北にかけて火山がみられる。東北に例をとると、北から恐山、八甲田山、十和田湖 (火山によるカルデラ湖)、岩手山、八幡平、栗駒山、蔵王山、磐梯山、那須岳、男体山などが続いて、また九州でも北から九重連山、阿蘇山、霧島山、桜島、硫黄島などが並んでいる。

活発な火山活動がみられるのもそのためであり、過去には北海道の有珠山、伊豆諸島の伊豆大島や三宅島、九州の雲仙普賢岳など多くの被害を出した火山がある。霧島山の一つ新燃岳が2011年1月19日に噴火したことも記憶に新しい。この噴火では火山灰の被害や空振による被害が問題となった。

2 多雨地域

わが国は多雨地域で年間降水量が世界平均の2倍である。降水量の多さは地理的位置による。まずはモンスーン (季節風) の地域に当たり、夏は南東の、冬は北西の風を受け、その際周りを海に囲まれ暖流が取り囲んでいるから、湿潤な風が吹く。

世界的にみれば、熱帯雨林地域以外で多雨地域といえば、モンスーンアジアと呼ばれるイン

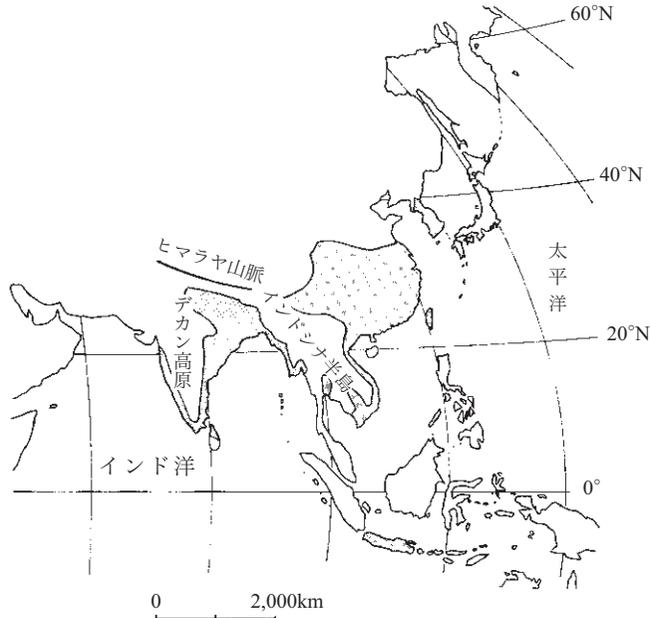


図3 モンスーンアジアの多雨（稲作）地域（筆者作成）

ド、インドシナ半島、その島嶼部、東アジアのそれぞれ大洋と大陸の接する海岸部が該当する（図3）。この地域は洪水等の災害に見舞われるが、水田が発達し米作が盛んに行われ、人口稠密な地域をつくりだしている。

わが国では、モンスーン以外に、季節の変わり目に停滞前線が発達し梅雨前線と秋雨前線が雨を多くしている原因である。また、地形が降雨を生む。中央高地を中心に3,000mを超える山がそびえ立ち、海から来た湿った風が山にぶつかり、急上昇して冷やされるため前面に雨をもたらすのである。降った雨は急傾斜の斜面を下りてくるため下流部の沖積平野では洪水を起こす。

また夏から秋にかけては、熱帯性低気圧である台風の通り道となり、たびたび暴風雨が襲ってくる。台風は、多量の降雨をもたらす、暴風を伴うため大災害をもたらす。その代表例が伊勢湾台風である。

第3章 東日本大震災についての課題

この東日本大震災は、2011年3月11日午後2時46分の「東北地方太平洋沖地震」によるものである。この地震のマグニチュードは9.0と国内観測史上最大で、2004年12月のスマトラ沖

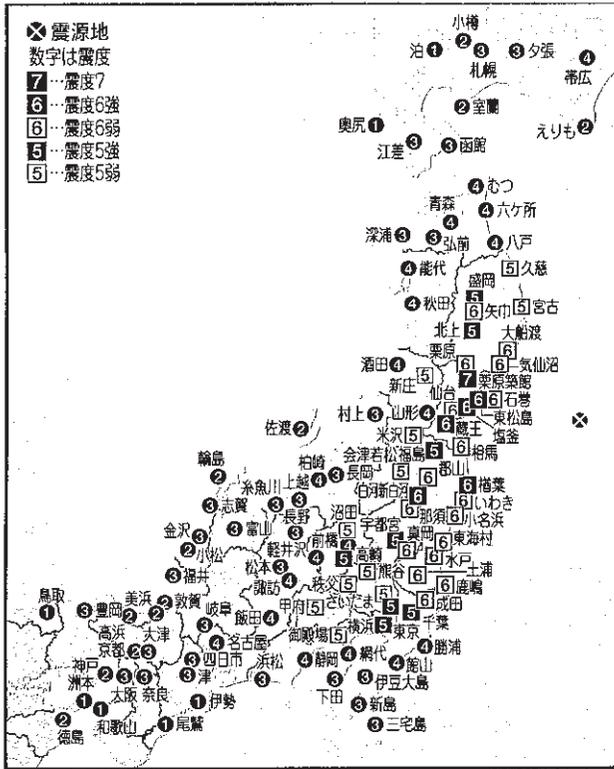


図4 東北地方太平洋沖地震による各地の震度
—2011年3月11日14時46分発生—
(共同通信社「東日本大震災」による)

地震の9.1に次ぐ大きな地震である。震度は宮城県栗原市で7を記録し、1000年に一度の破壊力であるという(図4)。これにより大津波が東北・関東の太平洋岸を襲った。この災害全体が「東日本大震災」と名付けられた。

東北地方太平洋沖地震の被害の大きな特徴は、東北から関東の沿岸部における大津波の被害と、液状化現象、福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の問題があげられる。それぞれ被害について次に論述する。

1 大津波の被害

津波とは、通常の波と異なり沖合を航行する船舶の被害は少ないのに、港(津)では大きな被害をもたらすために名付けられたという。この津波という言葉

は TUNAMI と表記され国際学術用語でもある。一方、アメリカ合衆国などではまだ一般に知られておらず、キラー・ウェーブ killer wave 「殺人波」と呼ばれている。『津波と防災』を著した山下文雄はスピードとエネルギーの塊による大量殺人波と呼んでいる。

津波の原因は、地震だけではない。例えば、1792(寛政4)年に火山活動で山体の崩壊した雲仙の眉山は麓の島原の街を越え有明海に大量の土砂を流し込み、この結果対岸の熊本県(肥後の国)に大津波を起こし死者15,000人に及ぶ甚大な被害を与えた。これを地域の人々は「島原大変肥後迷惑」と呼び代々語り継がれている。

津波は、高い波を伴うよりも波長が長く連続して多量の水量を持ち圧力を持ってくる。このため、インド洋大津波の時の映像を見ると、多くの人が普通の風で起こる波と勘違いしていた感がある。津波のスピードは、洋上では時速約700kmといわれ、上陸しても時速約20~40km

となり逃げ遅れることが多い。これにより多くの犠牲者を出す。

今回の津波被害の分布は、地理的にみて大きく2つに分けてみることができる。それは沖積平野から平坦地が続く比較的直線の海岸線の砂浜海岸と、三陸海岸に代表される鋸歯状のリアス式海岸である。

砂浜海岸は、これまで比較的津波の被害が少なかった場所である。今回の地震では、宮城県石巻平野の石巻、東松島、仙台平野の仙台、名取、岩沼、亘理、山元、福島県の新地、相馬、南相馬などの地が大きな被害を受けた。これらの地域は過去100年で津波の被害がなかったところである。それが油断につながったのか、約5km内陸まで津波が押し寄せてきている。(図5)

これは過去の例を見ると、

869年(貞観^{じょうがん}11年)の貞観津波では多賀城下まで浸水したことが記録に残っている。この地震はM8.3の規模と推定されているが、三陸沿岸も津波が襲い溺死者が約1,000名との記録がある。詳しくこの地震を研究している政府の特別機関である地震調査研究推進本部の報告によると、この貞観津波は、石巻平野において現在の海岸線から内陸0.8~1.3kmに存在した当時の海岸線から2.5~3.0km内陸まで浸水させた(穴倉ほか、2007)。仙台平野では、仙台市から名取市にかけて現在の海岸線から3km程度内陸まで、貞観津波の津波堆積物とみられる砂層が確認されている(澤井ほか、2007)。福島県北部の松川浦では内陸約2km、浪江では内陸約1.5km、標高3.6mの地点まで津波が到達したものと考えられている。これらの資料から石巻平

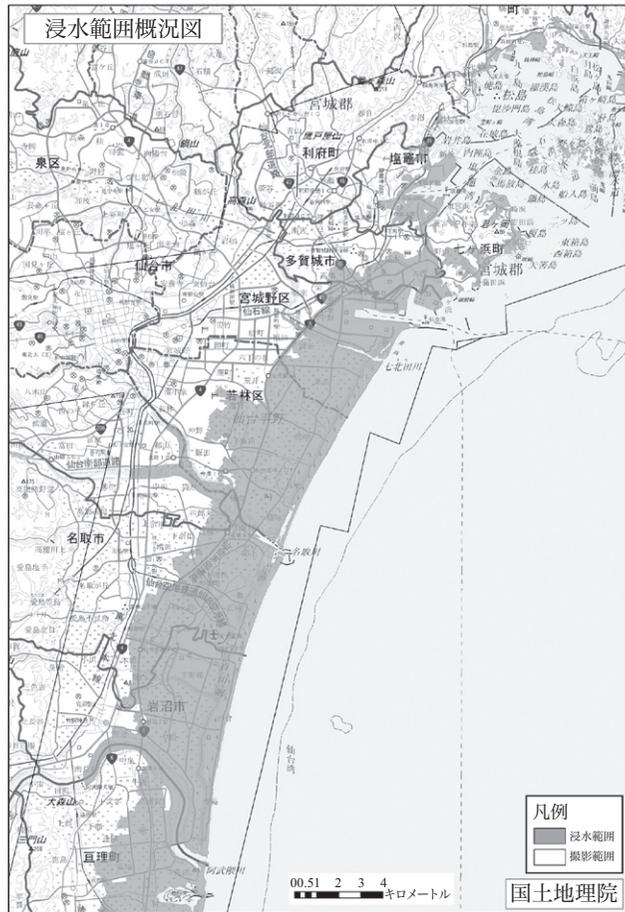


図5 東北地方太平洋沖地震における仙台平野の津波浸水域 (国土地理院による)

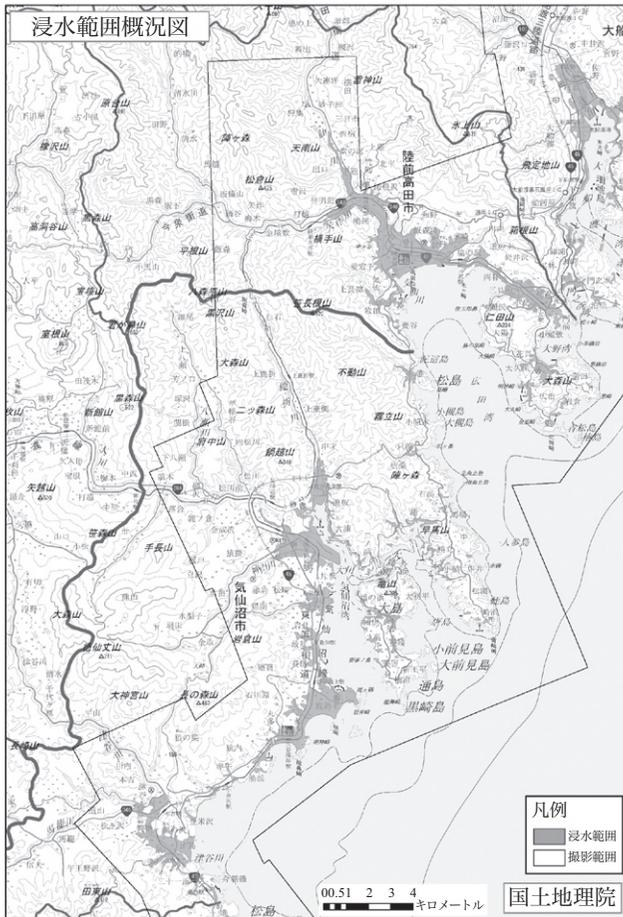


図6 東北地方太平洋沖地震におけるリアス式海岸
 (大船渡, 陸前高田, 気仙沼付近)の津波浸水域
 (国土地理院による)

野・仙台平野・常磐海岸北部での貞観津波が今回の津波に匹敵する規模であったことを示している。

また、1611年（慶長16年）の慶長三陸地震は、M8.1の規模でこれも津波により仙台平野と福島県北部に高さ6～8mの津波が押し寄せて甚大な被害をもたらした。記録によると三陸海岸と北海道東岸に被害が多く、犠牲は伊達領内で1,783名、南部・津軽藩で人馬3,000余りとなっている。これらの津波は歴史的記録が少ないため、津波被害の想定に取り入れられることはなかった。これら平野部は、大規模地震が最近なかったことから油断したきらいがある。

他方、三陸海岸のリアス式海岸は入り江が多く存在し、湾の奥に港町が発達していた。ここは津波銀座ともいわれ、過去多くの津波被害のあったところ

である。先の慶長三陸津波とよばれるものと、1896（明治29）年の明治三陸津波、1933（昭和8）年の昭和三陸津波、1960（昭和35）年のチリ地震津波など多くの津波被害を出している。そのため、各所に津波対策が実施されてきたが、今回の大津波に対応できなかった（図6）。

しかし、岩手県宮古市田老町では二度にわたる激甚被災地となったため、「万里の長城」と呼ばれる長大な防潮堤が全国に先駆けて町を取り囲むように建設され1958年に完成している。防潮堤は海面から10.45mの高さで総延長が約1,350mに造成されていたが、今回の大津波はそれを乗り越えてきた。

また、岩手県釜石市では釜石湾の入り口に南北からせり出した防潮堤は、全長約2kmで海上に高さ8m、厚さ20mでそびえ、港湾を守っていた。この防波堤は沖にあるため最深部は63mの海底に700万 m³の巨大なコンクリート塊を沈め、その上部にコンクリート壁が構築され、2009年に完成したばかりであった。国土交通省によると、明治三陸地震の揺れや津波に耐えられるように設計され、「世界最深」の防波堤としてギネス記録に認定されていた。これも乗り越えて釜石の町を津波が襲ったが、この堤防の存在が約6分津波の到達時間を遅らせ、勢いを緩めた働きがあったという。

今回の津波は、巨大な津波のため過去100年の被害想定では食い止めることができなかったといえよう。過去1000年の被害想定に変えなければならない。

しかし、過去の教訓も読み取れる。私財を投じて地震の研究を続けた地震学者の今村明恒は1933年に三陸沖地震が発生した際に、その復興の際に津波被害を防ぐための住民の高所移転を提案した。その結果、高所に家を移したものの多くの人々が再び沿岸部に住むようになったが、そこに留まった人は今回の津波から難を逃れた。

2 液状化現象

液状化は低湿地で地盤が軟弱な砂層で発生する。それは、地震の揺れで水分を多く含む地盤が液体化し、液体と同様な揺れを起こすからである。よって大地がアスファルトで覆われたところなどでは割れた間から砂を伴った水が噴砂現象を起こし、大地は沈降し建物は不等沈下する（図7）。

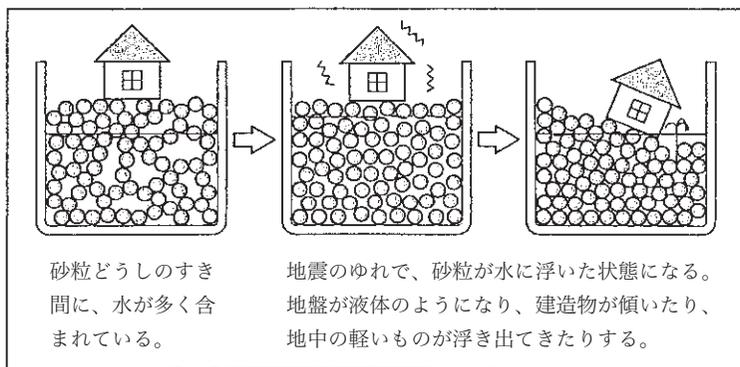


図7 液状化現象の模式図（浜島書店「地学図表」による）

この現象がクローズアップされたのは、1964年6月16日の新潟地震である。この地震は、新潟を中心に山形・秋田に被害があり、死者26人、住家全壊1,960戸、半壊6,640戸であった

が、新潟市内の各所で噴砂水がみられ、公営アパートの横倒しや橋の橋桁の落下など地盤の液状化による被害が著しかった。石油タンクの火災が発生し、津波が日本海を襲い、波高は新潟県沿岸で4m以上に達した。粟島が約1m隆起した。1995年の阪神大震災でも神戸港周辺でこの液状化現象が多くみられた。

今回の東日本大震災でも、液状化現象は軟弱な地盤の海岸部で生じ、津波と合わせ港湾施設が軒並み使用不能になっている。また、東北地方太平洋沖地震の震源地からは遠く離れた東京湾沿岸とくに千葉県浦安市や、利根川中流域の埼玉県久喜市や幸手市などの埋め立て地や低湿地に、その液状化現象が現れ建物が傾くなど被害が多く出た。しかし、浦安市に位置するリゾート施設の東京ディズニーランドは液状化対策が行われており、被害は周囲にある広大な駐車場にのみ現れた。

このような現象による不当沈下での建物の傾きについては、建物の倒壊などと異なり被害があっても補償がこれまで十分に検討されておらず問題視されている。

3 原子力発電所の事故

今回の津波でもう一つの重大な被害は、東京電力福島第一原子力発電所の事故であろう。よく想定外の津波のためといわれるが、過去の先のデータでも津波はもっと大きく予測しておかなければならない。津波による被害で、すべての電源が遮断され、原子炉が過熱しそのため水素が発生し水素爆発を起こして建物上部が倒壊、放射性物質が大量に飛散したものである。現在は、原子炉を冷却する前の段階で復旧作業が足踏みしている状態である(図8)。

筆者は、これまでも原子力発電所はわが国にとって危険なものであると主張してきた。なぜならば、日本の国土は地殻の安定したところでないこと、また狭い国土であること、いまだ放射性廃棄物の処理が不十分であることなどである。

まず、食料問題においては、原子力発電所

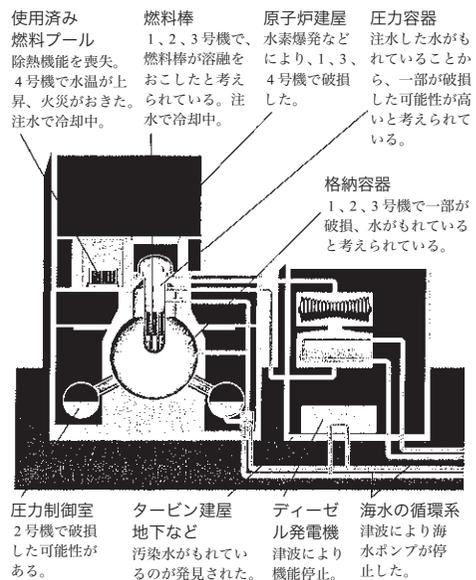


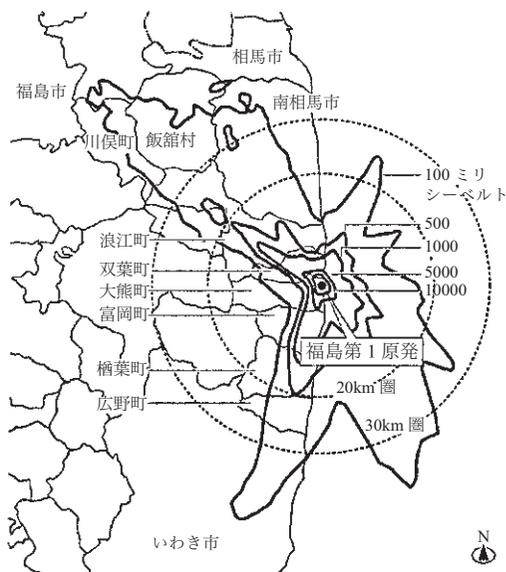
図8 東京電力福島第一原子力発電所の事故による1～4号機の状況
(2011年4月14日現在)

(ニュートン2011年6月号60p.による)

の事故による放射能汚染により作物の栽培ができなくなることを主張した（愛知学院大学教養部紀要54-1）。チェルノブイリの事故により周囲約30km圏はいまだに立ち入り禁止であり、風向きによって被害を受けた地域は広大である。国土面積の狭いわが国では甚大な影響を受ける。今回の福島第一原発では、5月現在炉心の爆発などが起きていないが、もしこれが生起すると東日本一帯の農作物が収穫できなくなると思われる（図9）。

また、ウランを伴うため資源問題でも、発電に約30%に達する原子力発電に疑問を呈してきた（愛知学院大学教養部紀要55-3）。それは、単純に事故の危険が察知できるからである。電力は使用されるところで発電されるのが理想である。遠隔地から送電線を経由してくると、その分送電ロスが発生するからである。そのため、安全な火力発電所は大都市の周辺に立地していることから読み取れる（図10）。

しかし、福島第一原子力発電所をはじめ日本の原子力発電所はすべて僻地にあり、冷却水を海水に求めるため海岸線に存在する。原子力発電所は不採算な配置



(注) 3月12～23日に1歳児が1日中屋外で過ごしたと仮定した場合の積算値

図9 福島第一原子力発電所からの甲状腺が受ける放射線量の積算値の分布 (SPEEDIによる)

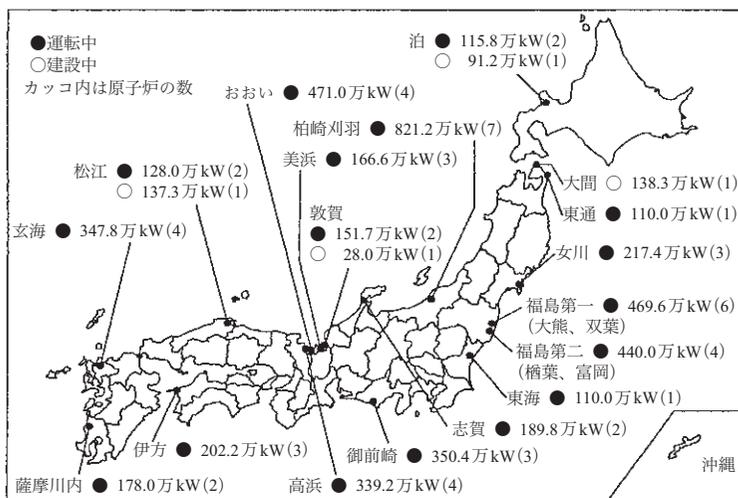


図10 わが国における原子力発電所の分布 (2009年3月現在) (日本原子力産業会議「世界の原子力発電開発の動向」による)

であることが読み取れる。これは危険物を人口密集地に置けないためである。電力各社は、これまで原子力発電の安全性を盛んにPRしてきたが、本当に安全なものであれば大都市に持つてくるのが妥当であろう。

このようなことから、今回の原発事故は起こるべくして起こった問題で、地盤の不安定なわが国において今後の原子力発電を見直し、廃止の方向に向かうべきである。

第4章 東海地域の地形と過去の災害例

1 この地域の地形

この地域の地形を紹介すると、濃尾平野の沖積平野と熱田台地の洪積台地と愛岐丘陵の丘陵地で構成されている（図11）。濃尾平野は、過去1万年前から次第に埋め立てられて形成された。完新世（沖積世）の時代の濃尾平野をみると、約5000年前に縄文海進と呼ばれる時代の温暖期があり、その時代には濃尾平野の奥の方まで海が前進していたことが分かる。この事実を今後高潮や津波の想定の際に考慮す

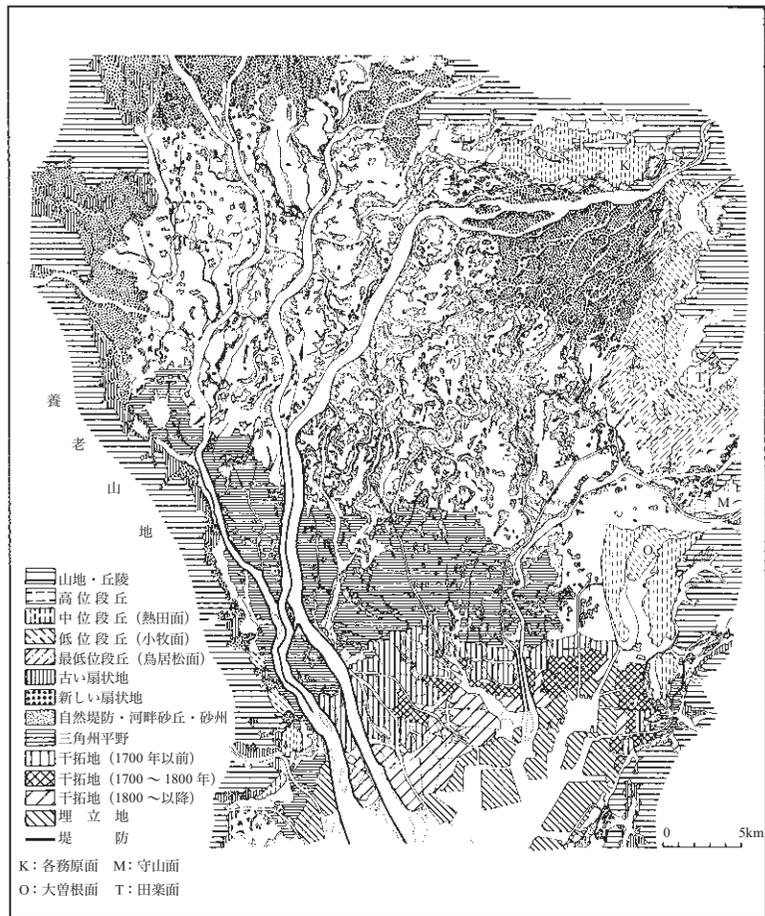


図11 濃尾平野の地形分類図

(名古屋大学出版会『濃尾平野の地盤沈下と地下水』による)

べきと思われる。また、濃尾平野は西低東高の地形である。西に傾斜する形なので木曾三川の木曾川、長良川、揖斐川が西によっている。これにより、洪水は西濃地域に多く輪中の発達をみた。また、江戸時代初期に木曾川左岸に御囲い堤という強固な堤防を造ったため、美濃側に洪水が多発した。

地質でみると、地形での区分とほぼ同じとみることができ、沖積層、洪積層、第三紀層（丘陵地）に分けられ、山地の多くは花崗岩質の硬い地層となっている。特に沖積層は低湿で軟弱なため地震や水害に弱いところである。洪積層の台地は、沖積層よりも10~20mの台地のため沖積層よりは地震や洪水の被害を受けにくい。丘陵はそれ以上に硬くなっている。

これを名古屋付近でみると、熱田台地上に名古屋の中心部が乗っている。名古屋の母都市は清洲である。江戸時代初めに清洲から引越して名古屋城を中心に発展してきたのである。徳川家康の政策で「清洲越し」と呼ばれている。名古屋城周辺は、台地状のため水害にあいにくく徳川家康は東海豪雨を予知していたと言えよう。

2 この地域の過去の災害例

東海地域では今までにいくつかの災害に見舞われていた。この自然災害は、明治以降でみると、濃尾地震（1891）、東南海地震（1944）、三河地震（1945）、伊勢湾台風（1959）、安八水害（1986）、東海豪雨（2000）があげられる。このように、地震と気象災害がみられるが、被害の大きいのは地震、津波、台風であろう。

まず、地震では濃尾地震（1891年10月28日）があげられる。内陸地震としては日本最大のM8.0の地震であり、愛知・岐阜県を中心に7,273人の死者があり、住宅の全壊14万戸、半壊8万戸の計22万戸



写真1 濃尾地震による根尾谷の水鳥に出現した地震の断層崖
(Kotoによる)

で、1万か所余りで山崩れ・地すべりが発生した。この地震の震源地は、根尾谷断層水鳥で大断層上下6m、水平に2m ずれた（写真1）。

この被害の図によると、根尾谷断層周辺とそれに続く可児までの断層沿い、濃尾平野の大垣と羽島と岐阜を結ぶ範囲に被害が集中している点が注目される（図12）。名古屋市付近でも洪積台地を下りた西部が倒壊率60%となっていることに注目すべきである。

津波は、東南海地震で太平洋岸のこの地域で甚大な被害があった。この地震は1944年12月に紀伊半島沖でM7.9の海溝型地震であり、津波が各地に来襲し波高は熊野灘沿岸で6～8mであり、死者行方不明者は1,223人、家屋の全壊は17,599戸を数えた。また、古くは明応地震（1498年）で、推定でM8.2～8.6の規模であり、古文書を解析した飯田汲事によると被害地の範囲や標高から大津波が押し寄せたことが判明し、志摩半島では8m～15m、渥美半島では5～8mと分析し、大津波によって沿岸一帯で死者は5万1千人を超えたと結論付けた（中日新聞2011.4.7による）。

台風では、わが国最大の犠牲者を出した伊勢湾台風（1959年9月26日）があげられる。伊

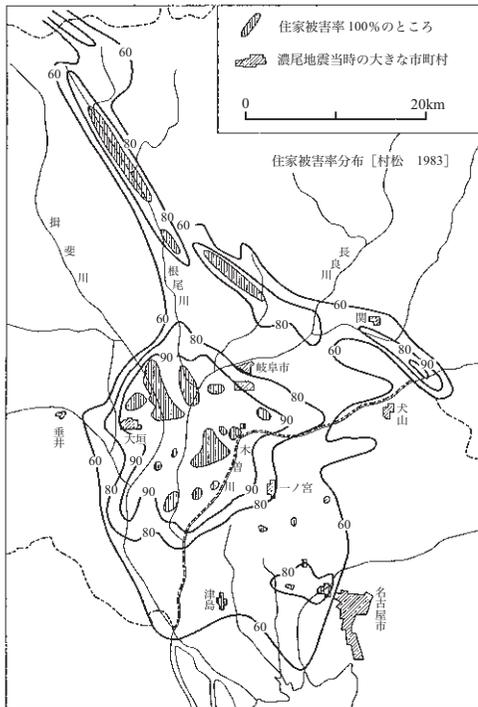


図12 濃尾地震における激震域の住家被害率分布
（村松郁栄1983による）

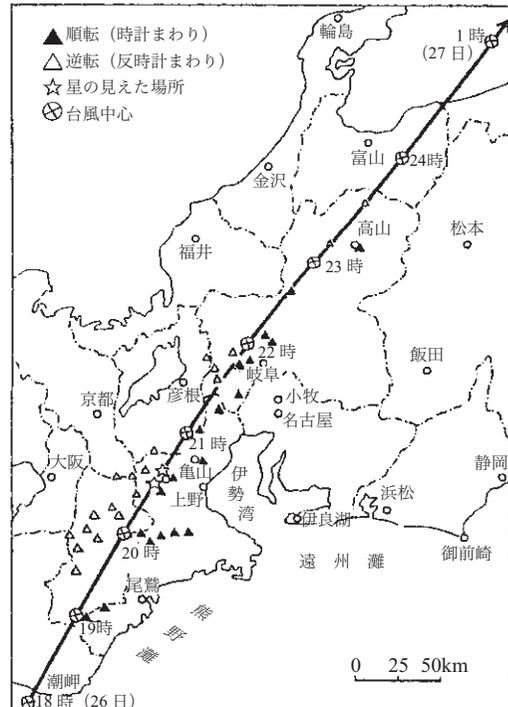


図13 伊勢湾台風における台風の進路
（名古屋气象台1960年による）

勢湾岸地域に高潮が襲い、死者不明者5,098人、負傷者38,921人、住家の倒壊833,965戸、浸水家屋363,611戸とけた違いに多い。当時の名古屋市域の半分が冠水したという。

この台風の特徴は、伊勢湾の湾奥へ吹く風と低気圧による海面上昇が一体となって伊勢湾岸奥の低湿地に、高潮となって襲来したことである（図13）。また、名古屋港付近では、貯木場が完備せず輸入の丸太（原木）がそのまま、かつて伊勢湾岸の干拓新田であったところにできた中小企業の工場と住家を襲ったので、建物の倒壊や死者の被害を大きくしたといわれている。



写真2 中部日本新聞に掲載された水害地形分類図
(1959年10月11日付, 中部日本新聞(現中日新聞)による)

特徴の第二は、この程度の台風による洪水範囲が3年ほど前に予知されていたことである。地元名古屋出身の地理学者大矢雅彦が国土地理院にいた時に完成していた。中日新聞のサンデー版にも「地図は知っていた」と災害対策の重要性を指摘した（写真2）。実際、伊勢湾台風では、高潮の限界線が江戸初期の海岸線まで到達し、これは干拓新田ができる前の海岸線であり、海水の浸入はもっと高所の三角州と自然堤防帯の境まで達していたといわれている。この線は、名古屋北部から碓目寺、津島を結ぶ線である。

最近の災害例としては、2000年9月11～12日の東海豪雨があげられる。この災害はこの地域において死者を伴っていない点が特徴としてあげられる。日本列島に停滞していた秋雨前線に台風14号が刺激し、各地に集中豪雨をもたらしたものである（図14・15）。

この災害での特徴的なものの一つは、新川左岸が決壊し名古屋市西区の一部と当時の西枇杷島町が浸水したものである。この新川は、庄内川の洪水対策で江戸時代建設されていたものである。庄内川が矢田川と接する地点に溢流堤を造り、水位が上昇して洪水の危険性が出てくると新川へ落とすという計画であった。ところが、新川も一杯となり破堤した。これは、上流部に当たる春日井市や小牧市が都市化で水田を潰したため、急な増水に耐えられなかったためである。

もう一つの特徴は、名古屋市南部の野並地区の内水氾濫である。この野並地区は天白川の中流域で藤川と合流するところに位置する。河川の合流する付近は洪水の危険性が高いので以前

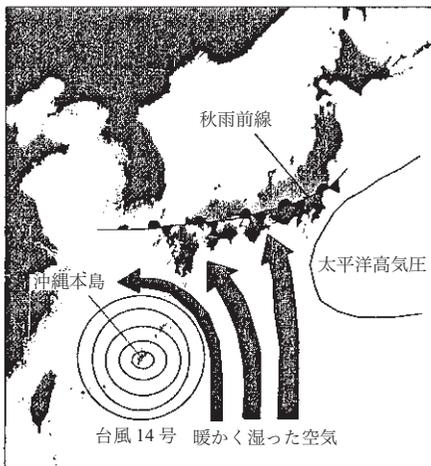


図14 東海豪雨の発生メカニズム
 (損害保険料率算出機構研究部研究第一グループ「平成12年9月の東海豪雨災害について」による)

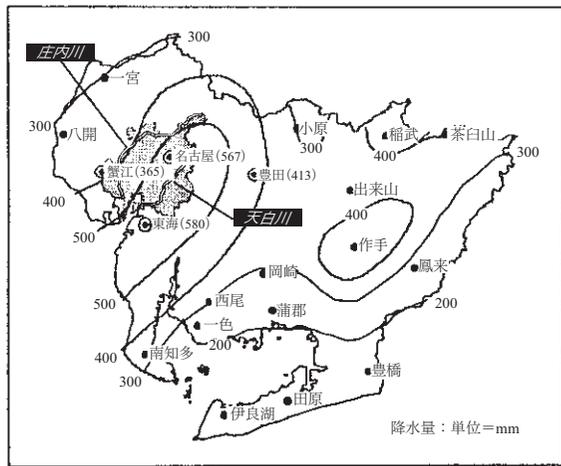


図15 東海豪雨における総降水量の分布
 (損害保険料率算出機構研究部研究第一グループ「平成12年9月の東海豪雨災害について」による)

から水害にあったところである。沖積地に水田の卓越していたところである。そこに名古屋の都市化による宅地造成で住宅が建ち市街化したところである。南北はかつてはかんがい水路の役割を果たした郷下川が流れていた。集中豪雨で天白川が満杯となり、枝川である藤川にも逆流を始め、そこに流れ込む郷下川は上流部と下流部からの水で一杯となり野並地区の市街地を冠水させた。また、備え付けの天白川に配水するポンプ場も浸水し使えなくなったため、一帯が洪水の被害を受けることとなった。これは上流部の都市化も影響したと思われる。

第5章 東海地域における将来の災害予測と対策

1 将来の災害予測

最後にこの地域の防災を考える。まず将来予測として地震について海洋型地震は、過去30年前から東海地震が来ると周期説ではいわれている。また、東海地震に連動して東南海・南海の地震が起こる可能性も論議されている。この三連動が起こると東日本大震災以上の被害が想定されている（図16）。

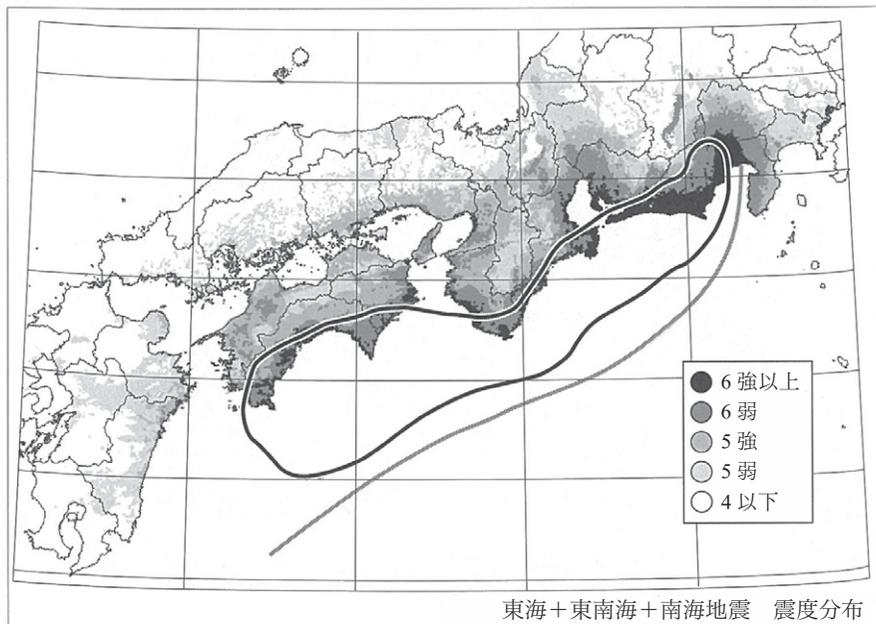


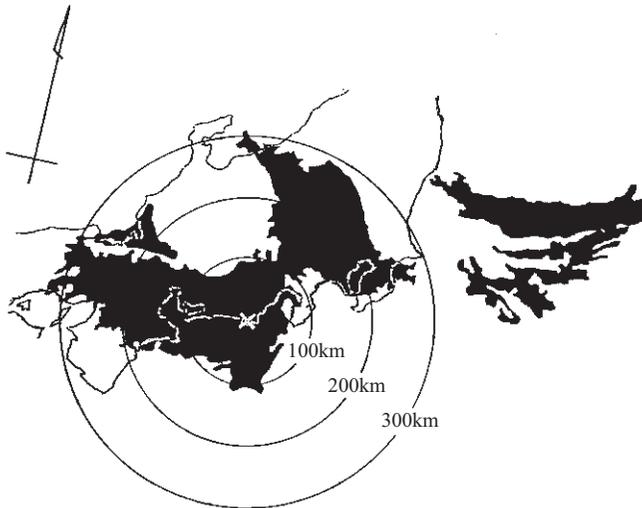
図16 東海・東南海・南海地震の三連動における震度分布

(中央防災会議資料2005年9月による)

内陸型地震では濃尾地震のような活断層型の地震が予測され、活断層は『いま中部直下型地震の活断層が危ない』において、この名古屋近辺では養老—桑名—四日市断層帯、濃尾断層帯（根尾谷断層）、深溝断層、屏風山断層帯・恵那山—猿投山北断層帯、伊勢湾断層帯があげられている。これらの活断層が活動すると、この地域に多大の影響が出ることが予測される。

気象災害は、地球温暖化で気象の変動が極端になっており、台風（熱帯性低気圧）は勢力の強いものが発生すると予想され、伊勢湾台風以上の勢力をもったものが来る恐れがある。また、集中豪雨も多発し被害がこれまで以上となることが予測される。

今心配されているのは、この地域の周囲にある原子力発電所である。一つは、中部電力浜岡



×浜岡原子力発電所（チェルノブイリ）
黒の分布（チェルノブイリで拡散した放射能の高い値）

図17 チェルノブイリ原発事故の放射能拡散を浜岡原発に重ねた図
（佐古田結子の図に距離を挿入）

と問題が多いといえる。津波の対策も不十分である。もし、炉心が崩壊すれば放射性物質がこの地域にも及ぶことを考えなければならない。特に、夏は南東のモンスーン（季節風）が吹き、名古屋は風下に当たる。

次に、若狭湾の沿岸には5か所の原子力発電所があり、断層上に原子力発電所の立地しているところもある。津波による被害想定の見直しは必須である。ここで多くの原子力発電所が操作不能に陥れば、この地域に大きな影響を与えることになる。冬の場合、伊吹風のコースそのものであり、放射性物質がまき散らされる恐れが高いといえる。

発電所（静岡県御前崎市）と、もう一つは原発銀座とも呼ばれる若狭湾に林立する5か所の関西電力が中心の原子力発電所（福井県敦賀市から高浜町）である。両者ともこの地域にとっては迷惑な場所である。両者ともに名古屋から約100km余りの距離であり、事故があれば影響は免れないと思われる（図17）。

まず浜岡原子力発電所は東海地震の震源地の真上に位置する。耐震構造で安全といってきたが、今回の福島第一発電所の事故をみる

2 災害対策

地震（津波、液状化）、風水害に共通する弱点は地形にある。いくつかの比較を出すと、低地と高地、軟弱地盤と堅固な地盤、新しい地盤と古い地盤、斜面と平地、埋め立てと削り面などである。当然、低地よりは耕地がよい、軟弱地盤より堅固な地盤がよい、新しい地盤より古い地盤がよい、斜面より平地がよい、埋め立てより削り面がよい点から総合すると地形の成因の古いほど強く①第三紀丘陵、②洪積台地、③沖積平野の順になる。先の沖積平野の清洲から洪積台地の名古屋への移動は、この理由が大きいと思われる。愛知学院大学の所在地は、第三紀の丘陵地である。全体には強いが部分的に埋め立て面があり、その部分は弱いとみなければならない。

地盤が強いかわかりを判定するには、不動産屋で地価を比較すれば良い。地価が相場よりも安く設定している場合は訳ありとみればよい。まずは、建物が入ると複雑になるので土地のみで評価すべきである。

次に地震対策として、海溝型と内陸型地震の例をあげたが、建物被害の多いのは内陸型で直下型地震であり、津波の被害が大きいのは海溝型である。今回の東日本大震災も大地震ではあったが、建物が多く倒壊したわけではなく、津波でさらわれそれによって倒壊したものである。

また、地震波の揺れの周期によっても被害の違いが想定されている。地震の揺れは一秒前後の短い周期から数秒以上の長い周期まで多様である。東日本大震災のように大規模の場合は長い周期の揺れが多くなる。震源からの距離も影響し、東北地方太平洋沖地震は宮城県沖で起きた海溝型地震のため周期が長く遠隔地にも伝わった。短い周期の場合は木造住宅を壊し、長い周期の場合は高層ビルやコンビナートの石油タンクなどに大きな被害をもたらす。

建物についてみると、鉄筋コンクリートと木造では鉄筋の方がより安全である。しかし、先の地形などを考慮に入れる必要がある。また、大学の教室のように柱が少ない大教室は倒壊の危険が多い。橋についてみると、最近架けられた橋は鉄筋も入り比較的安全である。地下鉄では地下の部分が多いが、名古屋の東山線を例にとると、名古屋駅から池下までは開口して掘り下げて作っており、池下より上社まではトンネル工法がとられ、上社から藤が丘までは高架になっている。だから、地震にあった場合どこに電車がいるか安全度が異なる。安全度から言うと、①トンネル部分、②開口部分、③高架部分の順となる。

この地域での災害に弱いところをまとめると、木曾三川の沖積平野、各河川沿い、埋め立て地や干拓地、伊勢湾沿い海岸線、太平洋に面する海岸線ということができる。

災害は生起する時刻によっても異なる。1923年の関東大震災は火災で多くの人々が亡くなった。なぜ大火災が発生したかは、その地震の発生時刻が、午前11時58分で昼食の支度をして

いた時刻なのである。当時は現在のように都市ガスや電気が発達していないため、調理に竈や七輪を使っていたと想像できる。そのため、とっさの消火が間に合わなかったのではないか。地震後に各所で火の手が上がると上昇気流が発生し、外から風を呼び東京の下町が全焼する事態となった。

1995年の阪神大震災の時は、午前5時46分という早朝であり鉄道がまだ動いておらず交通による被害が少なかったが、就寝中の人が多く直下型地震のため圧死・窒息死が多く存在した。このように発生時刻も被害の形態を変える要因となる。阪神大震災後に時刻による被害想定が示され始めた。

最後に、原発問題に言及すると、この地域に影響するのは若狭湾と浜岡の原子力発電所である。徐々に廃止の方向にもっていくべきである。わが国は地殻が不安定で万が一の制御技術も確立していないのであれば発電を止め、廃止すべきである。どちらも爆発を伴うような事故の場合この地域から脱出する以外ないといえる。2011年5月には、内閣総理大臣が静岡県の中部電力浜岡原子力発電所の操業停止の要請を行い、その要請を中部電力が受け入れた。方向として、原子力発電を廃止する方向に進んでほしい。

おわりに

「東日本大震災を通して地元の防災を考える」をテーマに私見を開陳した。まず、防災とは何か、防災をどのようにとらえるかを問題提起した。天災進化論を批評した後、災害の後に反省から社会が進化するのではなく、対策は事前に取り組む必要性を強調した。

東日本大震災では、3つの点に注目した。それは、大津波の被害、液状化現象、原子力発電所の事故である。津波の被害では、過去最大といわれるが、平坦地の津波とリアス式海岸の津波の違い、これまでの有史以来の被害実態の検討が十分されていないこと、防災がすでに実践されていたところもあることなどを示した。液状化現象では、震源地から遠い関東の地盤の弱いところにその現象が現れていることを示した。原子力発電事故は、かつてから事故の危険性を指摘していたこと、事故による農作物の栽培にも多大の影響を与えることなどを指摘した。

これらを踏まえ、この地域の防災をどう構築するかについて、最初に過去の大災害を検討した。それは、濃尾地震と伊勢湾台風そして東海豪雨の3つである。濃尾地震は内陸型地震としては規模も死者も最大である。とくに、震源地の根尾谷よりも濃尾平野に家屋の倒壊が多いことを指摘した。伊勢湾台風では、台風史上最大の死者を出し、高潮により多くの家屋が倒壊したことを示した。東海豪雨は、最近の都市化が被害を大きくしたといえる。

これらを元に将来予測を行い、その対策を列挙した。将来予測としては、地震において東

海、東南海、南海の三連動の巨大津波を想定しておくこと、台風など風水害は、都市化の進展と地球温暖化などで気象が異常になってきており、より巨大な被害をもたらす台風や集中豪雨などの発生を予測した。

それらの対策としては、共通項として、地盤の弱い沖積低地が最も被害を受けやすいのでそれらを避けることを示した。また建物や地下鉄まで分析した。この地域での弱いところをまとめると、木曾三川の沖積平野、各河川沿い、埋め立て地や干拓地、伊勢湾沿い海岸線、太平洋に面する海岸線といえることができる。

災害の生起する時刻によっても、被害の種類が異なることを関東大震災や阪神大震災などで示した。原子力発電所の事故については、わが国は地殻が不安定で事故対応の技術も確立していないのであれば発電を止め、廃止すべきである。どちらも爆発を伴うような事故の場合この地域から脱出する以外ないといえると主張した。

参考文献

- 大山正雄・大矢雅彦（2004）：『大学テキスト自然地理学 上・下巻』古今書院 207p.
- 奥村晃史（2011）：「東北地方太平洋岸のプレート境界地震と津波災害」日本地理学会地震解説 4p.
- 国立天文台編（2010）：『理科年表』1014p.
- 澤井祐紀ほか（2007）：「ハンディジオスライサを用いた仙台平野における古津波痕跡調査」活断層・地震研究報告7、47-80.
- 穴倉正展ほか（2007）：「石巻平野における津波堆積物の分布と年代」活断層・地震研究報告7、31-46.
- 清水馨八郎（1973）：『日本列島再発見』角川文庫.
- 高橋日出男・小泉武栄（2008）：『自然地理学概論』朝倉書店 173p.
- 地理同志会（1978）：『新しい世界認識を求めて——地理の虚像と実像——』教育出版26-27.
- 名古屋大学地震火山防災センター編（2006）：『いま活断層が危ない——中部の内陸直下型地——』中日新聞社 218p.
- 日本地形学連合編（1996）：『兵庫県南部地震し地形災害』古今書院 182p.
- ニュートンプレス（2011）：『Newton 2011年6月号——大特集原発と大震災——』144p.
- 山下文雄（2008）：『津波と防災——三陸津波始末——』古今書院 158p.
- 山野明男（2006）：「世界の食糧問題に関する一考察」愛知学院大学教養部紀要54-1 77-89.
- 山野明男（2008）：「日本の資源・エネルギー問題の一考察」愛知学院大学教養部紀要55-3 1-19.
- 山野明男（2011）：『地理学の視点』あるむ 139p.

ヴァン・ゴッホと寺山修司

—— M. C. エッシャーによって“ひまわり”を
『田園に死す』の中に読む——

清水 義和

01. まえおき

ヴァンセント・ファン・ゴッホの絵の展覧会「没後120年ゴッホ展こうして私はゴッホになった」(2011)が東京を皮切りに九州・名古屋で巡回展として開催された。殊にゴッホがノスタルジックな画家としてではなく現代も尚アヴァンギャルドのアーティストさえも刺激している事に驚きを禁じ得ない。例えば、『オマージュ ファン・ゴッホ』(2000)の図録には、現代芸術の画家たち、フランシス・ベーコン、ジャスパー・ジョウンズ、ロイ・リキテンスタイン、アルマン他多数の著名なアーティストたちが、彼らの絵と共に、ゴッホに対するオマージュを奉げている¹⁾。ゴッホ没後120有余年経っても、このような絶大な賛辞が沸き起こるところから見ると、ゴッホが孤立した画家の一人ではなく、今日なおゴッホが現代芸術に与えている影響が大きなものになっているかを目の当たりにする事が出来る。とりわけ、画家ベーコンは特殊な画法で描く難解な画家であるが、ゴッホの再来と称せられる現代のアーティストである。そのベーコンが自らのインタビュー『フランシス・ベーコン対談』の中で、ミシェル・アルシャンボーに対してゴッホを次のように称賛している。

FB: For me, Van Gogh is the greatest. He really did find a new way of depicting reality, even for the simplest things, and method wasn't realist, but was much more powerful than simple realism.²⁾

さて、ベーコンの絵が如何に特異であるかは『哲学者フランシス・ベーコンから画家フランシス・ベーコンの肖像画』の図録に掲げられている肖像画を並べてみると歴然とする。という

のは過去400年間の英国の肖像画の歴史を見てもベーコンが描いた絵の特質から明らかなのである³⁾。特にゴッホの絵画の特質であるグニヤリと曲がった曲線は、ベーコン、M. C. エッシャー、サルバドール・ダリの絵の中ではお馴染みである。今から120年前の欧米では印象派の絵が古典派の絵画から出現したが、その時代においてさえもゴッホの絵は余りにも異質な芸術であった。つまり、ゴッホの曲線が理解されるのに100年かかったのである。言い換えればゴッホは、100有余年費やして漸く真価を認められたのである。ゴッホは晩年の1890年6月オーヴェル＝シュル＝オワーズから末妹ウィレミーネ・J. V. ゴッホに宛てた手紙で「自分の絵は100年後の人に理解されたい」と述べている。

I should like to paint portraits which would appear after a century to the people living then as apparitions.⁴⁾

それで思い出すが、寺山修司のアヴァンギャルド芸術もなかなか理解されなかったことである。晩年寺山自身が遺作『さらば箱舟』を撮り「百年たてば、その意味わかる！」⁵⁾と“スエ”に語らせている。それから間もなく寺山は亡くなった。現在寺山没後30年近く経とうとしている。本稿では、ゴッホと寺山とのよく似たこのコンセプトを符号として読み解いていく。

02. アントナン・アルトーの『ゴッホ論』

ゴッホの時代、心の病の治療が現代のように進歩していたら、ゴッホの苦悩は幾分か軽減されたかもしれない。だが、画家エドヴァルド・ムンクは心の病が治癒してから『叫び』のような絵を描かなくなったが、そのように、もしもゴッホが心の病が回復したら、それでも狂気に満ちた絵を描き続けたかどうか分からない。或いはまた、アルトーが『ゴッホ論』で論じているように、当時の社会がゴッホを自殺に追い込んだのかもしれないのである。

... et que nous nous sommes enfin suicidés,

... car ne sommes-nous pas tous comme le pauvre Van Gogh lui-même, des suicidés de la société !⁶⁾

また更に、ジョルジュ・バタイユが論じているところによると、ゴッホが当時の社会の犠牲になった姿を象徴とし捉え、ゴッホが、神から“火”（太陽）を盗み、絵の中に“ひまわり”を描き、太陽（ソレイユ）と同義語のひまわり（ソレイユ）に不死の生命力を与え、こうし

て、絵の中に神から盗んだ“火”を閉じ込めたという。こうしてゴッホのひまわりは、現代のトーテムになったのである。そして、ちょうど、プロメテウスが、神から火を盗んだ結果、ゼウスの怒りをかい、コーカサスの山の岩に鎖で繋がれ、永遠に、はげ鷹に腹を引き裂かれ、肝臓をついばまれ続けたように、そのように、ゴッホは、耳を神に奉げ、自らの命も神に奉げたのであるという。

Il n'y a, en effet, aucune raison de séparer l'oreille d'Arles ou l'index du Père-Lachaise du cerveau foie de Prométhée. Si l'on accepte l'interprétation qui identifie l'aigle pouvoyeur, l'aetos Prometheus des Grecs, au dieu qui a volé le feu à la roue du soleil, le supplice du foie présente un thème conforme aux diverses légendes “sacrifice du dieu”.⁷⁾

さて、寺山は雑誌『みづゑ』（1976）の対談で「ゴッホの色は結局絵具の色だなという感じがする」⁸⁾とゴッホの絵を客観的に批評している。更に、寺山はゴッホについて「耳とか手かというのは（手を焼いたと言ったって大したことじゃないんだけど）」(p. 47)と批判し「しかし、それはやっぱり脇役俳優を見る面白さですよ。大体、演技派というのは二流なんですよ」(p. 47)とゴッホの耳切り事件を寺山が交際した名古屋の中京福田組の高橋組長のレベルで論じる⁹⁾。寺山はゴッホの書簡にしても「ゴッホが弟のテオに宛てて書いてるんだけど、ずっと読んでいっても、弟のテオがどういう性格の人物か全くわからないという仕組みになっている」(p. 46)と分析し「肉声ではないですね。あそこで指名されているテオというのは固有名詞じゃないですよ」(p. 48)と批判している。殊に寺山のゴッホ論は結果的に白樺派や小林秀雄の『ゴッホの手紙』批判に繋がっているようにも思われる。何故なら、小林はゴッホの絵や手紙を額面通り批評しているからである。さて、この対談があった1976年当時、栗津則雄氏の訳したアルトーの『ゴッホ論』があり、寺山は、アルトーが指摘した「テオのゴッホ殺し」論に対して深い洞察をしていた。他に、対談に同席した、池田満寿夫は、寺山のゴッホ論は「新説だ」と言っている。また、この頃、バタイユの『ゴッホ論』も出ていた。恐らく、寺山はその論文も読んでいた筈である。

さて、アルトーは自分とゴッホを同一視しゴッホを狂人でないと論じている。更に、バタイユも、神から火を盗んだプロメテウスが罰せられたように、ゴッホが神から太陽の火を盗んだ罰として、ゴッホは耳を切り神に奉げたと論じている。

Van Gogh qui, dès 1882 pensait qu'il valait mieux être Prométhée que Jupiter, n'a rien moins arraché de lui-même qu'un SOLEIL.¹⁰⁾

また、人類学者マルセル・モースが記した『供儀』で、原始人は狩猟や豊作に感謝して神へのお供え物したと言う。それと同じように、ゴッホが太陽から“ひまわり”を得た感謝として、耳を切って神に奉げたものと考えられる。従って、単にゴッホの常軌を逸した態度を狂人の行動と解するだけでは真のゴッホ像が見えてこない。

ともかく、アルトーが論じる“火炎放射器のような”ゴッホ像は、ゴッホが書いた書簡と較べると、その違いに愕然とする。従って、寺山のゴッホ観を援用すれば、「演技派というのは二流なんですよ」という指摘になるのかもしれない。それにしても、少なくとも寺山のゴッホ論は熟考を要すると思われる。

或いは、アンディ・ウォーホルの『日記』はハケットが編集したものであるが、ウォーホルが既に亡くなってからコメントが何もなく出版したわけである。だから、『日記』の細部に關しては疑問が残ると言われる。従って、ゴッホの手紙にしても、実際編集したのはテオの妻ヨハンナ・ボンゲルであったが、ゴッホのコメントも無く刊行したものであり、全く死人に口なしで書簡集を纏めたわけである。少なくとも、アルトーの『ゴッホ論』とゴッホの『書簡』をパラレルにみていくと、そこから比較して見えてくる事は、アルトーの文体から溢れ出てくる狂気は、ゴッホの書簡からは殆ど感じ取れない事であろう。

さて、その理由は、1960年代当時、それまで、世界ではアカデミズムが支配的で、下層階級の人たちの生活は太古から殆ど伏せられていた。ところが、ミシェル・フーコーが『狂気の歴史』『監獄の歴史』等を公にするに従い、それまで禁句であった下層の人たちの生活が詳細に明るみに出された。従って、フーコーが描写する狂気の論述とゴッホの書簡を比較しても、ゴッホの手紙の文体は、ヨハンナ周辺の人達が、その当時の時代に相応しい文体に幾分か手を加えて編集した事はあり得るのではないかと考えられるのである。

もしそうだとすれば、寺山が批判したようにゴッホがテオに宛てた書簡で気持ちを抑え気味に書いた理由は、2010年代から見ても、或いは1972年当時から見ても、1960年代以前、世界は未だ既成の道徳観が強く、ゴッホの絵が模写されたのと同様に、書簡もヨハンナが転写する際に修正された可能性が幾分かあるかもしれない。

それはさておき寺山自身はウォーホルに関心があつた。ウォーホルの絵は複製でありウォーホルの著作もハケットが転写したものでありウォーホルの姿も偽物で、ウォーホルが本心を隠したが、だから寺山はウォーホルの本心に惹かれた。従って、寺山が先の対談でゴッホの絵画について語った趣旨も、また寺山がゴッホの書簡を読んだ後ゴッホを批判したのも、ゴッホを狂人ではなく芸術家としての本心を評価しなかったからであろう。

さて、寺山が劇団天井棧敷を立ち上げた時、美女怪獣を劇団員として募集したという。だが、これも寺山が生真面目な世相に対して「見世物の復権」と分かり易く言ったのであり、ま

た、もう一度、新しい目で、社会を見てみるという逆転の思想があったのかもしれない。従って、寺山のゴッホ批判も、そのように、逆転の思想から読み解いていくと、ゴッホの芸術に対して新しい解釈が生まれ、地平の彼方まで視野が開けてくるかもしれない。

ところで、日本のゴッホは、棟方志功だといわれるが、棟方は寺山の同郷の画家である。従って、寺山は棟方の土俗的な版画を強く意識していたといわれる。寺山は先の対談で棟方のゴッホ観を次のように述べている。

寺山 ……棟方志功という人はゴッホが好きなんだけど、ゴッホの絵を見てると、静かで、静かだと、「静か」という言葉を6回ぐらい続けてくりかえしている。(p. 46)

ここで、寺山が語っているゴッホ像は、かつての“炎の人”ではなく、むしろ M. C. エッシャーやアンディー・ウォーホルのように絵筆の動くまま自動速記のように淡々と絵を描き続けた技法を思い浮かべるのである。

或いは、天野天銜氏は、「寺山さんは、生前、実に多くのアーティストをコラージュした芸術家でしたが、没後は、逆に寺山さんの方が、多くのアーティストからコラージュされる人になりました。私も『田園に死す』を演出した時、寺山さんの字体をなぞったり、或いは、解体したりしました。おかげで、“寺山修司”という名前を書くと、寺山さんの字体になりました。それにまた、森崎偏陸さんも、寺山さんの原稿を清書したから、寺山さんの字体を真似ると実に上手いですね。ゴッホにしても、西洋の絵だけでなく、日本の浮世絵も模写したけど、死後は、今度は逆にゴッホの絵を模写する人が多くあられました。ウォーホルもそうです。ウォーホルは、写真をシルクスクリーンにコピーしただけですが、死後は、逆転して他の人がウォーホルの贋作を作るようになりました」と語る。そして更に、「寺山さんは、ジョン・ケージの気配の音楽にも関心があったでしょう。もしかしたら、寺山さんが、ゴッホを批評した方法は、白樺派や小林秀雄と異なって、独自のゴッホ観から、ゴッホの絵の背後に気配を感じなくてはならないと考えていたのではないかと、逆転の思考からゴッホを見る方法を示唆してくれた。

ところで、寺山は、絶筆となったエッセイ「墓場まで何マイル？」で「墓は建てて欲しくない」と言って、ウィリアム・サローヤンをコラージュしている。

「あらゆる男は、命をもらった死である。もらった命に名誉を与えること。それだけが、男にとって宿命と名づけられる。」(ウィリアム・サローヤン)¹¹⁾

寺山が短い人生で芸術に対して行った猛烈な創作意欲が何処から湧き出たのか分からない。だが、少なくとも、寺山の創作意欲はゴッホが短期間に膨大な数の絵画と書簡を猛スピードで制作し書き綴った態度を彷彿させる。

また、ジェイムス・ジョイスは『若き芸術家の肖像』の中で、ステイーヴン・ディーダラスが、「ギリシア神話のダイダロスのような芸術の匠になる」と述べている。ディーダラスが神を恐れず、翼をイカロスに作って天へ飛翔した姿と、ゴッホや寺山が短い人生を猛スピードで駆け抜けていった芸術態度とはお互いによく似ている。

03. ジル・ドゥルーズの『感覚の論理』とヴィヴィアンヌ・フォレストールの『人間ゴッホ——麦畑の挽歌——』

ゴッホの絵画を白樺派の視点で見る批評以後、実に様々な批評が現われた。例えば、ジル・ドゥルーズが『感覚の論理画家：フランシス・ベーコン論』で批評したゴッホ批評は、アルトラーの『演劇とその分身』から抽出して「器官無き身体」を紡ぎだした。

Beyond the organism, but also at the limit of the lived body, there lies what Artaud discovered and named: the body without organs.¹²⁾

ドゥルーズは、上に述べたように、マルセル・ブルーストの『失われた時を求めて』に描かれた絵画論「器官無き身体」を『感覚の論理画家：フランシス・ベーコン論』に援用した。

... but as Proust said, it is immaterial and disembodied combat “in which there subsists not one scrap of inert matter refractory to the mind.” (p. 47)

そして、ドゥルーズは、自論にブルーストの「器官無き身体」を援用しながら、ゴッホの継承者がベーコンであると展開して評したものである。

Bacon is one of the greatest colorists since Van Gogh and Gauguin. (p. 114)

さて、ブルーストが『失われた時を求めて』の中で論じた絵画論は、フランス・ハルスやデ・ホーホなどのオランダ絵画を中心にして印象派の絵画論へと展開している。なかでも、ヨハネス・フェルメールの絵画論は中心を占めている。ところが、ヴィヴィアンヌ・フォレス

テールは『人間ゴッホ——麦畑の挽歌——』で、プルーストのオランダ絵画論について、フェルメールよりもむしろゴッホに軸足を置いて論じている。例えば、プレアード版『失われた時を求めて』の第3巻『逃げ去る女』では、小説家のベルゴットは美術館でオランダ絵画の絵を観ているうちに、その画布に描かれた黄色の斑点に幻惑されてその絵の前で目まいを起し倒れて死に至る。むろん、その絵はフェルメールの『デルフトの眺望』である。さて、この場面で、小説家ベルゴットが絵を観ているうちに絶命するが、フォレストールは、この小説家をベルゴットよりもむしろプルースト自身と弟ロベールの関係に置き換えて解説している¹³⁾。言い換えれば、プルーストが死ぬときロベール博士が看取ったが、ゴッホが死ぬときもテオやガシェ医師が看取ったのである。そうすると、この場面でベルゴットが黄色い絵を観ているうちに死ぬのは、プルーストが自分の死が近い事を暗示しているのであり、こうして、ゴッホがひまわり畑で絵を制作中に死ぬイメージとダブルになっている事を暗示するのである。もしもそうだとすれば、フォレストールは『失われた時を求めて』論の中で、プルースト兄弟の関係とゴッホ兄弟の関係をパラレルになっていると読み解いている事になる。(p. 290) ゴッホがテオの絵を殆ど描かなかったように、プルーストはロベールを小説に殆ど書いていない。という事は、寺山が、先の対談で述べているけれども、ゴッホにしても実利的なテオを軽蔑したわけで、その報いでゴッホは弟に復讐されたと解釈をしている。

寺山 ……家の外にいながら、あれだけ「家」というものに執着を持ったゴッホが、父親のそばに残ったしっかり者の弟に見せつけるための、自分の理性のギリギリのところでは手紙は書かれていたって感じがどうしたってするんですね。(p. 59)

そうすると、寺山がした解釈を援用すると、ゴッホもプルーストも実利主義者のテオやロベールに為に社会から葬り去られていったアウトラインが見えてくる。また、フォレストールはこの絵の場面でオランダのハーグについて興味深い指摘をしている。もしこのハーグの娼婦のモデルの一人がゴッホの恋人クリスティーネだとするとプルーストが『失われた時を求めて』の第一篇『スワン家の方へ』の中に描いた恋愛のひとつも、ゴッホとクリスティーネの関係に読み替える事が可能になる。(p. 108) 例えば、『スワンの恋』では、美術評論家のスワンは娼婦オデットに恋をする。スワンがオデットに恋をするのは彼女の顔の表情にボッチチェリが描いたエテロの娘チッポラの面影を見るからである。

Comme Swann avec Odette, comme, souvent, le Narrateur dans *A la recherche du temps perdu*, Vincent compare aussitôt ceux ou celles qu'il rencontre avec quelque figure d'une oeuvre déjà vue. (p.

108)

次に、プルーストが『スワンの恋』で娼婦オデットがボッチチェリのチッポラの横顔に似ていると指摘する箇所を引用してみよう。

... elle (Odette) frappa Swann par sa ressemblance avec cette figure de Zephora, la fille de Jéthro, qu'on voit dans une fresque de la chapelle Sixtine.¹⁴⁾

いっぽう、ゴッホはテオに宛てた書簡の中で、娼婦クリスティーネの顔の表情にドラクロワの“悲しみの聖母”を見て彼女に魅入られていく顛末を語っている。

And in those rare moments her expression is like that of a ‘Mater Dolorosa’ by Delacroix....¹⁵⁾

ドラクロワの“悲しみの聖母”は『ピエタ』に描かれた聖母マリアを指すようである。

“The Delacroix is a “Pietà” that is to say the dead Christ with the Mater Dolorosa.”¹⁶⁾

スワンはオデットのせいで、貴重な時間を失い、ライフワークとしてのオランダ絵画研究が挫折してしまう。一方、ゴッホは、クリスティーネのせいで、画家としての貴重な生命力が致命的に蝕まれる事になる。けれども、ゴッホはクリスティーネをモデルにした不朽の石版画『悲しみ』を残したのであり、プルーストは、スワンのロマン『スワンの恋』を残したのである。言い換えれば、『スワンの恋』を熟読玩味する事によって、『悲しみ』に秘められた謎を解読する事が出来るかもしれない。それほどまでに、『失われた時を求めて』の文体とゴッホの『書簡』の文体は似ている。

また、ゴッホにせよプルーストが書いたスワンにせよ、性悪な娼婦の中に聖なる女性を見出している点は注目値する。つまりゴッホは性悪な娼婦クリスティーネの中に聖母を見たのであり、スワンは性悪な娼婦オデットの中に聖女チッポラを見たのである。更に、プルーストは、スワンとオデットの恋愛のモデルをチャイコフスキーの『白鳥の湖』から借りてきている。プリマは白鳥と黒鳥を演じ別けて踊る。言い換えれば『白鳥の湖』では、スワン（白鳥）の中に黒鳥が同居している。他方『スワンの恋』では、スワンは性悪な娼婦オデットの中に潜んでいる聖女チッポラを見るのである。『白鳥の湖』では、魔法が解けて、黒鳥は滅び、白鳥オデットは元の王女になる。『スワンの恋』では、スワンの恋が成就する時、恋も死滅し聖女

チッポラの面影だけが残る。ところで、シェイクスピアも『十二夜』の中で、ヴァイオラにオーシーノーとの恋が実る時その恋も死ぬと語らせているのである。

ゴッホがクリスティーネに“悲しみの聖母”を見た様にプルーストも一人の女性オデットにチッポラと娼婦が同居を見るがこのコンセプトはハロルド・ピンターの『昔の日々』にもある。ピンターは『失われた時を求めて』のシナリオを書いたが、その影響は自作の『昔の日々』で貞女ケイトと娼婦アナに投影されていて一人の女性の中に二人の女性が同居しているところに見られる。同時にそこから「ドゥーヴル」の痕跡も辿ることができる。

ゴッホの場合、クリスティーネが亡くなり肉体は滅びたが、ドラクロワの“悲しみの聖母”から影響を受けた石版画『悲しみ』を産み落とし不朽の名画を残したのである。いうまでもなく、『悲しみ』からプルーストによってロマン『スワンの恋』が再生し、更に、ピンターによって『昔の日々』が再び蘇ったわけである。

何れにせよ、ゴッホが性悪な娼婦クリスティーネの中に“悲しみの聖母”を見たのは、ダブルのイメージ産み出した。そこからアルトーの『演劇とその分身』が産れ更にドゥルーズは「器官無き身体」を解読した。つまりゴッホが求めたクリスティーネのイメージは肉の塊ではなく極薄の被膜に覆われた身体の空洞に魅惑的に浮かんでいるのであり石版画『悲しみ』として客体化したのである。クリスティーネの肉体はとっくに滅びたが極薄の被膜で覆われた「器官無き身体」は今なお、生々しく不滅の生命を宿したまま石版画の中に閉じ込められているのである。

Il faut insister sur cette idée de la culture en action et qui devient en nous comme un nouvel organe, une sorte de souffle second: ...¹⁷⁾

また、石版画『悲しみ』は、ちょうど、ロジェ・カイヨワが『石』の中で描いた“処女の水”のように、太古の時代から石の中に閉じ込められたまま蠢いているのと似ている¹⁸⁾。

ところで、寺山修司が書いた『邪宗門』では、山太郎は、結婚した相手の山吹が、性悪な娼婦で、愛人の男を大勢作り、山太郎を苦しめぬく。或いは、『田園に死す』では、化鳥は、一見、貞淑な妻であるが、元娼婦である事が次第に明らかになる。更に、『身毒丸』では、しんとくの継母、撫子は、父が買った娼婦である。一人の女性の中に、性悪な娼婦と貞淑な婦女子が同居する姿は寺山が生涯一貫としてドラマに描き続けた母親像である。

寺山は、自らのドラマの中で、一人の女性に、娼婦と貞女を同居させる事によって、アルトーの「ドゥーヴル」のコンセプトを劇化し、男女や母子の関係を子宮回帰へと誘い込み迷宮の世界へと導いていったのである。

ところで、アルトーは、『ゴッホ論』の冒頭で、子供が母親の子宮から出てくるとき、子供は母親と最初のセクシャルな関係を結ぶと論じている。

... dans un monde où on mange chaque jour du vagin cuit à la sauce verte ou du sexe de nouveau-né flagellé et mis en rage, tel que cueilli à sa sortie du sexe maternel. (p. 25)

従って、寺山の子宮回帰も、アルトーの言説と同じように、既に、誕生の時に母子との固い絆が出来ていると考える事が出来る。言い換えれば、ゴッホが、クリスティーネにドラクロワの“悲しみの聖母”を見ているのは、同時に、クリスティーネに母親像を見ているからであり、ゴッホがクリスティーネを通して子宮回帰を望んでいる事を暗示している。この場合、子宮回帰は、いわば、オイディプス・コンプレックスを表しており、禁断の罪を犯そうとしている事を比喩的に表しているのかもしれない。いっぽう、ゴッホの父親がゴッホとクリスティーネとの結婚に反対したがその理由は、ゴッホが禁断の罪を犯しているからではなく、むしろゴッホが性悪な娼婦と結婚して家名を汚そうとしていたからである。ゴッホの父は厳格なカルヴィン派の牧師であり、ゴッホは父親と対立する。だが、実は、ゴッホ自身も禁欲と節約のエトスによって自らの芸術を完結しなければならないという自己矛盾に悩まされていた。ゴッホは短期間に膨大な作品を描き、憑かれた炎の人となるが、同時に、ゴッホを突き動かしていたのは、芸術だけでなく、ゴッホ一族のプロテスタント的倫理精神でもあった。だからゴッホが絵を売らねばならないと焦ったのは、ゴッホの心に同居する父や弟テオの倫理的なプロテスタンティズムでもあった。さて、アルトーは『ヘリオガバルス』の中で、「父は母であり、母は父である」と言っている。

Cela veut dire que la mere est pere, que c'est la mere qui est le père ...¹⁹⁾

従って、或いはフォレストールが指摘するように「ゴッホ自身はテオであり父であり、母でもあった」と言えるかもしれない。

Intuition de Van Gogh, et qui annonce celle d'Artaud : < Moi, Antonin Artaud, je suis mon père, ma mère, mon fils et moi. > (p. 237)

結局、ゴッホは父や弟テオの反対により、クリスティーネと別れることになる。恐らく、ゴッホにとっても、性悪な娼婦クリスティーネに幻滅し、恋が終わったのであろう。こうし

て、石版画『悲しみ』が引き起こす基になったオリジナル作品“悲しみの聖母”は、『悲しみ』の絵の中に封印され、ゴッホの手の届かない「器官無き身体」に変貌してしまっただろうか。

ゴッホがクリスティーネを魅惑的だと思ったのは、ドラクロワの“悲しみの聖母”のイメージが冷たい存在ではなく暖かい存在であったからかもしれない。『新約聖書』によるとイエスはマグダラのマリアに慈悲をもって接したとある。つまり、イエスが娼婦のマグダラのマリアに慈悲を懐いて接したのは、マリアがイエスを尊んだからであるという。それ故にクリスティーネが娼婦でありながらゴッホに愛情を示した事は、特別の意味があった。

また、その絵は、石膏のデッサンの研鑽によって産み出されるのではなくて、ちょうどピグマリオンが石像から生人間のガラテアを得るように、ゴッホにとって、クリスティーネの身体は特別の意味があった筈である。

或いはまた、カラバッチョは娼婦や娼婦の死体さえ使って、聖女や聖女の殉教を描いたが、それはゴッホが娼婦クリスティーネを使って、聖母を描いたのと幾分か似ている。さてカラバッチョとゴッホの違いは、カラバッチョが教会お抱えの画家であったのに対して、ゴッホは生前画家として認められず、弟のテオ以外に援助されなかった。更にまたカラバッチョとゴッホの相違は、ゴッホが、膨大な絵の他に、膨大な書簡を残した事であろう。

しかも、ゴッホの絵は生前一部の芸術家にしか認められなかったが、それにも拘らずその不屈な芸術家魂で稀有な芸術作品を残した。また、ゴッホは美術だけでなく音楽や文学にその強固な魂の抛り所を求めた。例えば、ゴッホはドストエフスキーが『罪と罰』に書いた娼婦ソーニャや『白痴』の憑かれた人ムイシュキンから強い影響を受けた。更に、ゴッホは癩癩持ちであったドストエフスキーに自己投影し同一化を求めようとしたのである。

04. エミール・ゾラの『制作』

式場隆三郎は、山下清やロートレックの研究を行い、ゴッホが、山下清やロートレックと同じように、脳の障害や身体の障害で苦しみながら、独自の芸術を産み出した足跡を辿っている。従って、ゴッホを、山下清やロートレックと同等の芸術家としてパラレルに見ていくと、ゴッホが、心の病をかかえて苦悩した芸術家としての自画像が浮かび上がってくる。また、ゴッホの書簡で目につくのは、エミール・ゾラの小説『制作』について夥しい数の引用をしていることだ。『制作』は、ゾラの小説家としての修業時代やセザンヌの画家としての修業時代がダブって描かれている。ゴッホが『制作』に惹かれたのは、セザンヌを小説のモデルにしていて、アカデミックな画壇に認められずに遂には自殺するに至るところであろう。『制作』は、

バルザックが『知られざる傑作』でフレンホーフエルが「何もない」と失望する結末を典拠にしている。画家のクロードは描きあげた絵には「何もない」と、失望するが、その結末は両作品がパラレルになっているところである。或いは、またオスカー・ワイルドはゾラに批判的であったが、ワイルドの死後、身の回り品の中にゾラの商品が多く見つかったといわれる。殊に、ワイルドが『ドリアン・グレイの肖像』に書いた結末で、ドリアンが肖像画と刺し違えて自殺するところは、クロードが遺作の絵の前で首つり自殺する姿を想起させる。

When they entered they found, hanging upon the wall, a splendid portrait of their master as they had last seen him, in all the wonder of his exquisite youth and beauty. Lying on the floor was a dead man, in evening dress, with a knife in his heart.²⁰⁾

ゴッホにとって、『制作』に惹かれたのは様々な理由があったと思われる。まず、クロードの絵のモデルとなった裸婦の名前はクリスティーネであった。

〈 Comment vous nommez-vous ? 〉

Elle ouvrit ses yeux qu'elle avait fermés, comme reprise de sommeil.

〈 Christine. 〉²¹⁾

恐らく、ゴッホは、ゾラが小説の中で描いた“知られざる傑作”の絵の中で永遠の命を表している裸婦像のモデル、クリスティーネは、名前がよく似た『悲しみ』のモデル、クリスティーネとの極貧生活を思い出したであろう。或いはまた、ポール・セザンヌの生まれ故郷のプロヴァンス地方は、ゴッホが訪れたアルルの近郊にあり、ゴッホが野外ヘイゼルを担いで出かけた姿は、セザンヌが野外写生した姿とダブって見える。また、セザンヌはゴッホが世話になったガシェ医師と友達でもあり、更にセザンヌはゴーギャンやピサロやベルナルとも親交があった。セザンヌはベルナル宛ての書簡でゴッホの名前を引用している。

You know what must be done and you will soon be able to turn your back on Gauguin and [Van] Gogh.²²⁾

また、『制作』でクロードは一枚も絵を残さず、下絵やデッサンでさえクロードの貧窮生活の費用として辛うじて交換されたという苦労話がある。この結末は、ゴッホがこの書を読んで励まされ制作意欲を掻き立てられたのではないかと思われる。或いは、『制作』でクロードと

クリスティーネの息子は貧困の中で死ぬ。ゴッホは、クリスティーネと子供達と生き別れをするが、『制作』よりももっと凄惨な貧困と病を体験して絵を描き続けたのであり、その事をしみじみと思い浮かべたかもしれない。また、クロードほどの官展にも落選する。一方、ゴッホは弟のテオの助言を受け入れ、官展ではなくアンデパンダン展に出品する。ゴッホがゾラの『制作』に惹かれ、のめり込んでいったのは、セザンヌがクロードのモデルであったことや、そこから画家の運命を悟ったからであろう。ゴッホは『制作』を通して、画家の宿命を悟り、画家として後世に残る傑作を描く決意を新たにするのである。セザンヌはゴッホの絵を見て深く評価しなかったようだ。だが、セザンヌが『水浴する女たち』や『サントヴィクトワール山』で産みだした構成主義を、今度はゴッホが研究し、解体し、脱構築していくのである。

05. ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』

ヴァン・ゴッホが1890年に執筆した書簡集を読んでいると、ゴッホは精神病院に入院して苦悩している心境を微に入り細に入り綿々と綴っている。ゴッホの精神病院生活は、ミッシェル・フーコーが『狂気の歴史』の「阿呆舟」の中で詳述した描写を想起させる。何故なら、フーコーは『狂気の歴史』の中で、中世には、精神病院がなかったため、狂人たちは、一纏めに舟に乗せられ、沖合で、皆溺死させたと述べているからである²³⁾。

いっぽう、寺山修司はフーコーの『狂気の歴史』に触発されて戯曲『阿呆舟』を書いた。殊に『阿呆舟』で、“眠り男”は自分の分身である“影の男”を殺害する。この結末は、ゴッホの自殺を連想させるのである。

更に、思い出されるのは、寺山修司が、フーコーだけでなく、アルトーにも関心があったことである。しかも、アルトーは心の病で苦しんだ演劇人で、同じ心の病で苦しんだゴッホに関心を持ち『ゴッホ論』を書いている。恐らく、寺山はアルトーの『ゴッホ論』を読んで「ドゥーヴル」のコンセプトを自家菜籠中にし、ドラマ『阿呆舟』を書いた筈である。それにまた、1960年代、寺山だけでなく、土方巽、唐十郎氏らが、アルトーの演劇論『ドゥーヴル』『残酷演劇』に触発されて、アングラ演劇や暗黒舞踏を盛んに上演していった。殊に、寺山は、アルトーの演劇に深い影響を受けて天井桟敷で『チェンチー族』を上演している。

天井桟敷の『チェンチー族』一九六七年、寺山修司を中心に横尾忠則、東由多加らによって創設された「演劇実験室・天井桟敷」。その初期は〈見世物の復権〉にあったが、次第に「東洋と西洋の相互浸透によるエロティシズムの表出」へと変化。最近ではヨーロッパで高い評価を受けている。また、映画制作にも積極的な姿勢を見せている。主な俳優に、新高恵子、蘭妖

子、若松武。音楽に J. A. シーザーがおり、その呪術的な舞台空間はつねに挑発的、暴力的である。今回、天井桟敷はアトリエ公演というかたちで、寺山の戯曲・演出から離れ、フランスのシュルレアリスト、アントナン・アルトーの『チェンチ一族』を上演した。『残酷演劇』を始めとした複雑怪奇な演劇理論の持ち主であるアルトーが書いた、日本での作品上演は今回が初めて、と大変興味ある企画であった。特に天井桟敷という、アルトーの方法論にかなり倣ってきた劇団の手によるものなので、その期待はさらに大きいものであった。悪徳の一族、チェンチ家の崩壊がそのテーマ。娘ベアトリスは、兄達の命を奪った父、チェンチの手によって犯される。復讐に燃えた彼女はチェンチを殺すが、彼女自身も近親相姦と父殺しの罪の為、刑にかけられ死んでいく。台詞を少なくし、その分を肉体、光、闇で表現するなど、アルトーの理論をより正確に実践すると同時に、この劇団らしい独自の舞台に仕上げていた。なお、『新・二都物語』は「新劇」六月号に、『チェンチ一族』は「夜想」(特集アルトー)に戯曲が掲載されている²⁴⁾。

更にまた、フランスの演出家、ニコラ・バタイユは、日本で、寺山の『花札伝綺』を観劇し、自らの演出によってフランスで『花札伝綺』を上演したが、また、アルトーの『ゴッホ論』を、東京日仏学院でテキストに使い、次いで、アルトーの「ヴァン・ゴッホ」の演出も手がけたのである²⁵⁾。

いっぽう、寺山はアルトーの『チェンチ一族』の上演や更にバタイユの『花札伝綺』公演や互いの交友を通してアルトーに深い関心を持ち次第に『ゴッホ論』のコレクションへと収斂していった。まず、寺山はアルトーの『チェンチ一族』を上演した後、遂にアルトーの『ゴッホ論』のコンセプトを『身毒丸』の脚色に反映させたのである。つまり、不治の病に冒されたゴッホが“悲しみの聖母”を模写した様に、今度は寺山が『身毒丸』で、社会から疎外された癩病患者しんとくに「ぼくを母さんもう一度妊娠してください」と子宮回帰を叫ばせるのである。明らかに1960年代からゴッホ像は変容していった。それに対して、60年代以前、カール・ヤスパースが書いた『ストリンドベリとヴァン・ゴッホ』(1921)を読むと、ヤスパースは、ゴッホを精神分裂症患者として論じている。

There is no doubt but that Van Gogh suffered from a psychotic process.²⁶⁾

ヤスパースのゴッホ解析では、ゴッホが精神分裂症である事は理解できるのであるが、同時にヤスパースがゴッホを専ら精神分裂症患者として見る余り、画家としてのゴッホの真相を探り当てていない物足りなさを感じる。つまり、ゴッホは精神分裂症患者と解するだけでは余り

にも不十分であると感じるのである。例えば、式場隆三郎は、『ヴァン・ゴッホの障害と精神病』（聚楽社叢書、1932）を書いて、ヤスパースの『ストリンドベリとヴァン・ゴッホ』を批判している。式場はゴッホを精神病であることよりも芸術に重きを置いて評価している²⁷⁾しかも、式場は、劇団民藝の『炎の人』（1951）上演にも貢献した。また、式場は山下清の芸術を最初に発掘した文人でもあり、ゴッホと山下清をパラレルに論じた。従って式場の視点から、ヤスパースに対する確固とした批判を読み取る事が出来る。更に、式場のロートレック論からは、ロートレックとゴッホとの交友関係を具に読み取る事が出来る²⁸⁾。そればかりでなく、式場は白樺派のゴッホ観を継承し発展する事にも貢献した。従って、式場の功績はゴッホの日本への移入史に多大な影響を与えた。また、精神科医の式場が日本の演劇に与えた影響は、同じ医者であったチェーホフの劇作を彷彿させる。だが、式場は、ゴッホをアヴァンギャルド芸術にまで触手を伸ばして解説しなかったように思われる。シュルレアリストのアンドレ・ブルトン、元々は、精神科医であった。俳人の馬場駿吉氏は医者で歌人であるが、ブルトンのようにシュルレアリスムを解する芸術家でもある。

同じように、アルトーにしても、2010年代から見ると、アルトーの『演劇とその分身』を精神分裂症患者が書いた矛盾した演劇論であると批判する人は殆どいない。前にも述べたように、フーコーが『狂気の歴史』で、述べた阿呆舟の乗員には、詩人や芸術家が含まれていた。古代ギリシアの哲人プラトンが『国家論』のなかで、国家には詩人や芸術家がいらないと論述している。これは、近代国家と様相が全く異なる。恐らく、古代や中世社会では、詩人や芸術家は、精神分裂症患者と同じように社会に必要なではないから隔離しようという考えがあったと思われる。ともかく、1960年代以降、暗黒舞踏やアングラ演劇の芸術運動により、詩人や芸術家が社会から隔離されていた場所から解放され、やがて社会に受け入れられる素地が出来あがっていったように思われる。また、アルトーが社会に認知されるのにかなり膨大な時間がかかったが、それと同じように、ゴッホの芸術も社会に認められるのに更に行く手を塞ぐ障害が立ちほだかり時間がかかってしまった。

しかし、アルトーの『ゴッホ論』を通じて、ゴッホが理解されるようになっただけではない。例えば、寺山はテネシー・ウィリアムズの一連のドラマ『ガラスの動物園』『欲望という名の電車』には「文学があった²⁹⁾と述べている。つまり、ウィリアムズの姉ローラの精神病、更にまたローラを救済できなかった苦悩がウィリアムズのドラマには描かれている。それを、寺山は、ウィリアムズのドラマについて「精神病の症例」と言わずに「文学」と言ったのである。ということは、寺山は、アルトーが『ゴッホ論』で書いた精神病の治療よりも、むしろ、心の軋轢の方に焦点を当て、アルトーと同じテーマを抱えたウィリアムズの劇作品を見出し、高くウィリアムズのドラマを評価していたのである。

そして、恐らく、寺山はウィリアムズの作品を精神科医のカルテとして見るのではなく、「文学」と評価した。その理由は、寺山が青森高校時代に読んだ『マクベス』と関連があるように思われる。というのは、『マクベス』でマクベスが「マクベスにはもう眠りはない」と叫ぶ箇所と関係してくるからである。

Macbeth: Macbeth shall sleep no more!³⁰⁾

つまり、寺山は、マクベスを精神病患者として見るのではなく、マクベスに深い心の苦悩に触れて強い共感を懐いた。しかも、寺山は青森高校時代から『マクベス』を愛読して影響を受けて『牧神』に批評を書いたのであり、次いでドラマ『花札伝綺』『阿呆舟』を書いていった。つまり、寺山はマクベスを精神病患者であるよりも、詩人シェイクスピアのドラマを文学作品として解読していたと思われるのである。従って、寺山はウィリアムズが書いたローラを精神病患者として解釈するよりも、むしろ文学として解読したのである。つまり、寺山は、マクベスの悲劇に詩歌を見たように、ゴッホの絵や手紙にリリズムを見るようになったのである。さて、先に触れたフォレストールはゴッホがマクベス夫人であると言っている。(p. 190)

Lady Macbeth Out, damned spot out, ... Here's the smell of the blood still: all the perfumes of Arabia will not sweeten this little hand. (pp. 940-1)

松岡和子氏は、マクベスとマクベス夫人は「一卵性夫婦」³¹⁾と言っている。だが、それだけにとどまらない。つまり寺山が「ウィリアムズのドラマには文学があった」と論じたのは、確かにシェイクスピアのように悲劇には詩があるからだけではなく、ウィリアムズをはじめとして、アルトーやゴッホにまで遡る芸術が誤解され遺棄されてきたという想いが連綿と鉄の鎖のように過去から現在まで繋がっているのを見たからであろう。

06. ジョルジュ・バタイユの『プロメテウスとしてのヴァン・ゴッホ』とマルセル・モースの『供犠』

ジョルジュ・バタイユが書いたゴッホ論『プロメテウスとしてのヴァン・ゴッホ』は、神の火を盗んだプロメテウスの業罰のように、ゴッホが、神の真理を知った為に、報いを受けて、自ら耳を切り、神に自分の耳を供物として奉げた英雄として論じている。フランス語で「ソレイユ」は太陽とひまわりを意味する³²⁾。だが、ゴッホは、ひまわりをどの画家よりも偉大な真

理として描いたため、その結果として、太陽に近づき過ぎたイカロスが海へ転落し失墜したように、ゴッホ自身も命を犠牲にしたのかもしれない。もしもそれが真実とするならば、その代償として、人々は、ゴッホのひまわりを見て隠された神の顕現を見る事が出来ることになる。また、マルセル・モースは『供犠』の中で、原始の人々は、神にお供えをして、そのお供えを皆で供すると述べている。

In totemism the totem or the god is related to its devotees: they are of the same flesh and blood; ... by eating the totem, assimilated it to themselves, ...³³⁾

更に、モースは、また、供犠を「血の交換によって人間の生命と神の生命の交換を行う」と述べている。

Man and the god are not in direct contact. In this way sacrifice is distinguished from most of the facts grouped under the heading of blood covenant, in which by the exchange of blood a direct fusion of human and divine life is brought about. (p. 11)

その供犠とは、ゴッホの場合、ひまわりを得て、その感謝の意を表すために自らの耳と命を神に捧げ物なのであり、人々は、ひまわりを古代人が神と崇めたトーテムのように眼の欲望を満たす事になったのである。

さて、寺山は、この捧げ物を自作『奴婢訓』の中で寓意として描いている。例えば、『奴婢訓』では、奴婢達が主人を殺して食べてしまう。しかも奴婢達はこうして代わる代わるの主人を演じるのである。更に、『身毒丸』では、しんとくは鬼子母神に身を奉げ大勢の母親たちに食べられてしまう。或いは、『中国の不思議な役人』では、中国の役人は娼婦の化鳥に身を奉げ少女の腕の中で死ぬ。

しかしながら、寺山は自作をアンディ・ウォーホルが『マリリン』『最後の晚餐』をシルクスクリーンにコラージュしたように、冷やかに一種の「供犠」としてドラマ化した。その作劇術は、ゴッホの場合では一旦神から盗んだひまわりを、その代償に自ら命を供物として神に捧げる儀式に見える。一方、寺山は『田園に死す』でゴッホが社会から疎外されて自殺するように、化鳥が社会から抹殺され村人たちからも疎外されて自死するに至る。だが、寺山は化鳥が恐山に命を捧げることによって、実は神の不在をもドラマ化しているようにさえ思えてくるのである。

また、ゴッホは『ガシェ博士の肖像』を描くにあたり、譬えるなら肖像を人間や山や風景さ

えも突き抜けてしまうダーク・エネルギーのように描いている。『ガシェ博士の肖像』を模写してみれば次第に分かってくるのであるが、ガシェの肖像画に描かれた人物や山や風景さえも、ちょうどウォーホルが描いた『マリリン』のシルクスクリーンのように、ひらひらでペラペラなダーク・エネルギーがキャンバスの画面を貫いて通り過ぎるように見えるのである。或いは、ゴッホの絵筆のタッチは、まるでウォーホルが描いた不在の神の姿「器官無き身体」でもあるようなのだ。同時に、そのようにして寺山もまた『青ひげ公の城』の中で、青ひげ公が舞台の上には不在で、衣服だけが舞台に残され、実体は最初から最後まで舞台に現われない幻の姿として描いたのを思い出す。

前述したように、かつて1960年代以前ゴッホは精神分裂症患者として耳を切り銃で自殺した狂人の芸術家として解釈されてきた。だが、やがて1960年代以降暗黒舞踏やアングラ演劇が現われ興隆すると共に、寺山が不在の神を自作に書き劇化するにいたった痕跡を辿っていくこともできる。そのとき、その中に、現代のトーテムとしてゴッホの“ひまわり”が再生し芸術として現われたイメージを読み解く事が可能になる。

或いはまた、ハイチ系アメリカ人のジャン＝ミシェル・バスキアが、絵にアフリカの未開文明のような刻印としてアイコンを表したように、ゴッホは、オランダの農民を描き刻印としてアイコンにした。

また、ゴッホの精神病は寺山の『青ひげ公の城』を思い出す。寺山は『青ひげ公の城』の少女にテネシー・ウイリアムズの『欲望という名の電車』のブランチを引用し、二人をドゥーヴルとして描いている。つまり、こうして、寺山もまた、多くの自作のドラマ『狂人教育』『わが心のかもめ』『阿呆舟』の中で心の病を劇化しているのである。

例えば、『田園に死す』では寺山は母殺しのテーマを執拗に追及している。つまり、主人公の“私”は三代遡って祖母を殺せば、自分は生まれなかった事になるだろうかと考えるのである。寺山は母殺しのテーマを追求しながら、実は自らの死をドラマ化しているのである。母親殺しの起源は、オレステスの母殺しにその源がある。また、ブニュエルは『アンダルシアの犬』の中で自分自身をダブルにして、もう一人の自分が相手を殺害する場面を描いた。このようにして、寺山も『田園に死す』で、自分を他者（20年前の自分自身）として設定し、もう一人の自分自身を殺すことに繋がる母殺しを追求した。或いは、更に寺山が書いた自作のドラマ『阿呆舟』では、目覚めた世界にいる人間眠り男が、眠りの世界にいるもう一人の自分自身である影男を殺す。しかも、眠りを殺すというテーマは、シェイクスピアが書いた『マクベス』にもある。マクベスは「もう眠りはないのだ」と叫ぶ。

さて、ゴッホと寺山を比較して共通するコンセプトのひとつは、自殺の問題であろう。ゴッホも寺山も幼い時から芸術に夢中になり、無謀な生活を送り、その結果病に倒れた。恐らく、

ゴッホを追い詰めた要因もまた、過労や貧困であり、遂には心の病気に悩まされる事になったのであろう。また、寺山にしても、過労や貧困によってネフローゼや肝硬変を併発し、生涯、激痛と苦悩に苦しめられた。

また、ゴッホの絵には、ダーク・エネルギーのような痕跡が見られる。殊に、『ガッシェ博士の肖像』の画面を見ると、画布に描かれた人も、服も、背景の景色も、空も、同じタッチの色調で描かれている。つまり、絵の中では、一切のものが、ある種の光線によって射抜かれているのである。それは、もう一枚の同じ主題の絵『医師ガッシェの肖像』と比較するとその違いが分かる。一説によると、写真に撮った『ガッシェ博士の肖像』の絵を、再度キャンバスに再構成したのがレプリカであるという。当時の写真機は性能が悪く、そのせいで、所謂、その写真には、ある種の光線によって射抜くダーク・エネルギーが消えてしまったのかもしれない。この二枚のガッシェ医師の肖像画を比べると明らかであるが、ある種の光線によって射抜くダーク・エネルギーがない絵は、普通の心の人が描いた絵である。ところが、もう一枚の絵『ガッシェ博士の肖像』は、薄気味悪く正常な人が描いた絵とは思われない。

ところで、ジム・シェリダンの映画『イン・アメリカ』では、エイズに侵された瀕死の画家マテオが、あの世へ行く事を悟り、幼い少女アリエルに、自分はE. T.のようにエイリアンだから「おうちに帰る」という。つまり、譬えるなら、この世のものではない存在となったものを、描き得る絵があるとするならば、それはゴッホが描いた『ガッシェ博士の肖像』である。

さて、寺山はテネシー・ウィリアムズに共感したが、その作品が精神病患者のカルテではなく「文学」だと思っていた。従って、順を追って見れば、つまり先ずゴッホの絵や書簡を通して分析し、次いでウィリアムズのドラマを解析し、更に寺山のドラマ・映画作品を心の悩みとして解説していくと、そこから繋がっているものが見えてくる。実は、寺山は心の悩みを追求した劇詩人でもあったのでありその痕跡を辿る事が出来る。だが、寺山は、映画やドラマで、心の苦悩だけではなく、幅広く、様々な分野にわたって持論を展開し続けた。だから、寺山には、多面体の深い層の下に深遠な苦悩が潜んでいる事を何時の間にかうっかり忘れてしまうのかもしれない。

07. 武者小路実篤と小林秀雄の『ゴッホ論』

ゴッホが日本へ紹介されたのは武者小路実篤が雑誌『白樺』に「ゴッホ論」を発表してからである³⁴⁾。

その後、小林秀雄の『ゴッホの手紙』が現われた。小林はヤスパースの『ストリンドベリとヴァン・ゴッホ』論を論拠にして持論を展開した。また、池田満寿夫は『わたしのゴッホ』論

の中で、小林秀雄の『ゴッホ論』を踏襲しつつ、ゴッホが弟テオに宛てた書簡よりも、むしろテオがゴッホに宛てた書簡に軸足を置いて兄弟関係を分析し、ゴッホ像を浮き彫りにしようとした。また、ゴッホはテオに宛てた書簡の中でルナンの『アンチクリスト』を読みたいと述べている（587信）。ルナンは『イエス伝』でイエスを神の世界だけでなく俗界に身を置いて論じている。F. ニーチェも『アンチクリスト』を書いているが、また『ツアラトゥストラはこのように語った』の中で「夜も太陽である」と論じゴッホの絵の闇を太陽として捉え逆転の視点から見る視座を可能にした。

La Nuit aussi est un soleil.³⁵⁾

さて、ゴッホは、レンブラントやドラクロワの宗教画を模写したが、殊にドラクロワの『ピエタ』に強い感銘を受け模写した。ゴッホがドラクロワやレンブラント模写したイエスやマリアは天上ではなく、俗界に足を降ろし汚辱にまみれた生人間に変貌している。これは白樺派の武者小路実篤や小林秀雄のゴッホ像が地に足がついた生人間の苦悩を論じているのと似ている。近代は牧師に代わって、医者が人間の運命を左右するようになった。白樺派には齋藤茂吉がいて、医師として、短歌を読んだり、また、医師の式場隆三郎が、精神科医として、ゴッホの芸術を解析したりしている。

08. 三好十郎作『炎の人』民藝公演と三谷幸喜作『コンフィダント・絆』

式場隆三郎は、ゴッホ研究をライフワークとした人で、自らも劇作しゴッホを上演する意欲に燃えていた。そこで式場は、劇団民芸がゴッホ上演する意図がある事を知っていたが、既に、アーヴィング・ストーンの『炎の人ゴッホ』を日本語に翻訳していた。しかし、著作権の問題が生じたので、ストーンの『炎の人ゴッホ』を下敷きにして、三好十郎が『炎の人ゴッホ小傳』として原作をコンパクトに纏めて脚色・構成した³⁶⁾。それに、元々、式場が脚本化に意欲的であったので、三好十郎の台本からは細かい個所を修正した痕跡を辿る事も出来る。

民藝の芝居『炎の人ゴッホ小傳』では、ゴッホが炭鉱で貧しい炭坑夫を救えず、また悲惨な娼婦シーンと子供も救えなくて、流浪しながらゴーギャンと出会いの場面へと展開していく。しかし、ゴッホはゴーギャンとケンカ別れをして、絶望のあまり、耳切り事件を引き起こし、遂には気が変になりピストル自殺するに至る。

また、MGM が制作した映画『炎の人ゴッホ』は、ストーン原作の『炎の人ゴッホ』と比べ、ゴッホの生涯を2時間余りの短時間でダイジェストにして纏めている。そこで民藝の『炎の人

ゴッホ』はMGM映画『炎の人ゴッホ』を較べると、民藝のゴッホは更にコンパクトに纏めて劇的な盛り上がりを詳細に描写しているのが分かる。

近年三谷幸喜氏の『コンフィダント・絆』（2007）と仲代達矢氏の『炎の人ゴッホ小傳』（2011）が上演された。二つの公演を比較すると仲代氏のゴッホは民藝のゴッホを再構築しながら民藝のドラマツルギーを踏襲している。だが三谷氏はゴッホとゴーギャンとモデルとの三角関係を専らドラマに据えて纏めている。そのおかげで主眼はゴッホを精神病患者でなくアーティストとして焦点を合わせ再評価しようとするドラマになった。

また名古屋で2011年に『ゴッホのためのレクイエム』上演実行委員会が制作した『ゴッホのためのレクイエム』は炭鉱の場面やタンジー爺さんの画廊の場면을省略し劇そのものを凝縮した結果ゴッホと娼婦シーンとの場面が際立ちMGM映画や民藝では影が薄くなっていた主題が浮かび上がってきた。それはゴッホがシーンに苦しめられて画家としての人生を棒に振る劇的転換がはっきりと表れてきたのである。つまり、ゴッホは性悪な娼婦のシーンに魅了された為に魂を抜きとられ画家人生を駄目にするというドラマ性が浮き彫りになったのである。

さてフォレストールは『人間ゴッホ——麦畑の挽歌——』でアルトーの「ドゥーヴル」を採用し、ゴッホを男としてだけでなく他我としての椿姫に見出し解析している。(p. 191)つまり椿姫はアルフレッドの父親から息子と別れるように説得されアルフレッドと別離する。だが、ゴッホの場合は父に説得され遂にシーンと別れる事になる。

また、ゴッホが娼婦シーンに、ドラクロワの『ピエタ』から“悲しみの聖母”の面影を見つけ、更にシーンの出産で幼子イエスの顕現を連想し『シーンと子供』を描く事になる。だが、結局ゴッホはシーン母子と別離する事になり、遂にこの世の悲惨を救済できなかった。ゴッホはその罪を購うために自殺するというテーマが見えてきたのである。更に耳切り事件はゴッホが神へ命を捧げることを意味し、その引き金となるのはアルルの娼婦ラシェルであり、彼女は巫女的な役割を果たしゴッホに耳を要求することになるのである。

さて寺山修司は先の対談でゴッホの耳切り事件をヤクザの指切りと同じようなものだと批判したが、また、滝澤修が演じたゴッホだけでなくアーサー・ミラーの『セールスマンの死』でウィリー・ローマンの死を演じた芝居にも不満であった³⁷⁾。もしかしたら寺山は滝澤がゴッホの耳切りやローマンの死を演じた所作からこの世の悲惨さ「母さん、僕をもう一度妊娠してください」程の言霊が聞こえてこない事に不満だったのではないのだろうか。

更に、ゴッホとゴーギャンが出会いは、ちょうど、スピルバーグの映画『E.T.』で、E.T.とエリオットとの出会いのように未知との遭遇を思わせる。或いは、ギリシャ神話のゼウスとデメテルとの出会いのように一方が他方を焼き尽くしてしまうような巨大なエネルギー同士の衝突を想わずにいられない。後になってゴーギャンは『私記』で述べることになるがゴーギャン

はゴッホとお互いに強く影響しあったと冷静になって回想している³⁸⁾。

また、ゴッホが『馬鈴薯を食べる人々』から『ひまわり』へと色彩が変化してゆくを見ると、その輝かしい変貌はゴーギャンとの出会いを抜きにして考えられない。更に、ゴーギャンがゴッホと別れてタヒチに行き『われわれはどこから来たのか、われわれは何者なのか、われわれはどこへ行くのか』へと画風が大きく展開していくのを目の当たりにすると、二人の共同生活をもたらした芸術の燃焼は近代芸術を産み出す一種のビッグバンを想像させるのである。恐らく、もしもゴッホが、シーンとの別れの深い苦悩を抱えていなければ、アルルでゴーギャンの苦悩に満ちた芸術と互角に戦えなかったのではないかとさえ思えてくるのである。

寺山修司がお手本とした演劇理論はアルトーが書いた『演劇とその分身』である。さて、そのアルトーが他にも書いた『ゴッホ論』はアルトーが自ら精神病で受けた治療方法とゴッホがガッシュ医師から受けた治療が似ているという判断から書かれた評論である。このゴッホ論からは興味深い論旨を読み取ることが出来るが、その一例は、寺山の病気と直接かかわりはないのだが、間接的に関係があるかもしれないと見うけられるドラマがある。それは、寺山が書いた『青ひげ公の城』に出てくるテネシー・ウイリアムズの『欲望という名の電車』のコラージュを通して見る事が出来る。寺山は、『青ひげ公の城』でランチの台詞を頻繁に引用する。そして、ランチが精神病院へ戻って行くラストシーンでは、寺山の『青ひげ公の城』のラストシーンとダブって二重化して重なっている。寺山がランチの最後の台詞を『青ひげ公の城』に重ねてドラマ化したのは、模倣やコラージュからだけではない。というのは、寺山は『欲望という名の電車』をパラレルに『青ひげ公の城』の中に配置しているからである。そしてこの二つの作品をパラレル並べなから思い出すのが、アルトーのドゥーヴル論なのである。

更に、『欲望という名の電車』に出てくるランチは、またウイリアムズ自身の病（心の闇）をも暗示している。そして、その原因は妹のローラを前頭葉の手術の失敗したことに対する後悔と深く結び付いているようである。しかも、この手術は、またアルトー自身が受けた精神病の治療方法と似ているのである。寺山が、アルトーのドゥーヴルに関心があったとしても、精神病にどれだけ関心があったか分からない。しかし、寺山は、自作に数多く精神病患者と思われる人物を『狂人教育』『青ひげ公の城』『わが心のかもめ』『レミング』等に登場させる事によってドラマを構築しているのである。けれども、何よりも、寺山がウイリアムズの心の苦悩に共感していることである。少なくとも、ウイリアムズの『欲望という名の電車』のランチは、アルトーが描いた『ゴッホ論』の論旨と似ている。

さて、ジル・ドゥルーズの『感覚の論理』は『プルーストとシーニュ』や『アンチ・オイディプス——資本主義と分裂症』とプルーストをキーワードにして繋がっている。ドゥルーズ

は『感覚の論理』の中でアルトーの「器官無き身体」のコンセプトを援用しながらフランシス・ベーコンの絵画を解説しその原動力となったのはゴッホの絵画であったと論じている。つまりベーコンの絵に現われる狂気やヒステリーはゴッホの深遠な苦悩を失くしては生まれなかったのではないかと思われる。ゴッホは一生を賭けて絵を描いた。つまりジョン・ケージが毒茸に命をかけながらチャンスオペレーションを産み出したのと似ている。ベーコンは対談で賭事で異常な緊張に陥ることの重要性を強調している。その意味で、ゴッホは彼の死までの10年間に全人生を賭けて一気に疾走したのである。その代償が、耳であり、ピストルの弾丸であった。寺山は、耳切り事件はヤクザが指を詰めるのと同じだといっている。しかし、ヤクザの指きりと違うのは、ゴッホが偶然に賭けた気持ちを集中してキャンバスに描き続けたことであろう。また『田園に死す』で、化鳥の母が、先祖代々の田畑を取られおかげでその娘が娼婦に転落する人生は、ゴッホが性悪な娼婦シーンに一生を賭け、同棲して病気を移され精神障害の一因になった暗澹たる世界と似ている。ゴッホはおびただしい数の絵や書簡を残したが、人生のどん底でも負けないで絵を描き書簡を認め続けた。その賭けの瞬間がゴッホの芸術を解説するときに重要であったと思えるのである。

09. M. C. エッシャーの『無限を求めて』と寺山修司の『田園に死す』

寺山はアルトーの『ゴッホ論』を解説し、更に M. C. エッシャーの『無限を求めてエッシャー自作を語る』を援用しゴッホを読み解いた。一方ドゥルーズは『感覚の論理』(1981)で「器官無き身体」のコンセプトからゴッホを論じているが、寺山自身は武者小路実篤以来のゴッホ解釈に新たな地平を開いて見せたのである。

さて寺山の『地獄篇』『アメリカ地獄巡り』には苦悩に満ちた思いが籠っている。寺山はゴッホの書簡集を読みながら、身体の病で苦しんでいても、やがてその病から快癒すれば苦しみも消えるように、心の苦しみが快癒したら、やはり心の苦しみが消えてしまうのではないかと考えていたのではなかったか。つまり寺山にとって地獄もまた苦しみが消えた時消滅すると思ったのではないだろうか。更に寺山にはあの世からこの世を見ているというコンセプトがあった。従って寺山にとってはゴッホの書簡もゴッホが死ぬ覚悟をしていたとするなら弟のテオに宛てたものであっても「テオという名前が使われているだけです」となる。ではゴッホが書簡に認めた相手とはテオでなければ誰なのか。もし寺山のようにあの世からこの世を見ているとすれば、ゴッホが書簡に書いた相手とはアルトーの言う「分身」であるかもしれない。

例えば、寺山が心の病を扱った作品は幾つかある。『狂人教育』『ある男、ある夏』『わが心のかもめ』には、身体障害者“蘭”や精神病患者“少女”が登場する。なかでも『わが心のか

もめ』は、記憶喪失の“千江”を扱っている。また、寺山の遺作『箱舟』では、“捨吉”が死者の“大作”と会話する。捨吉以外死者の姿は見えないのだから、他の人から見れば、捨吉は狂ったとしか思えない。つまり、寺山が描いた人間は、生人間だけではなく、死者であったり、風の妖精であったり、鳥や犬へと変貌する。これらの一種のだまし絵の世界はエッシャーを連想させる。寺山は、雑誌『みづゑ』（1976.11）の座談会で「ゴッホがエッシャーのようであった」という。

寺山 ……同じオランダ人のエッシャーに、素描する自分の手を描いている作品があるでしょう。ぼくはゴッホという人は晩年になったら、故郷があったり、病院があったりしたというんじゃないで、ただ“描いている日常を描く”という生活になっていたと思う。つまり描くべき対象から命令されて、風景に労働を強いられて、ひたすら手が動いていたという感じになっちゃっているわけでしょう。(p. 60)

寺山はエッシャーに強い関心があったらしくて、自作にもエッシャーをしばしばコラージュしている。たとえば、寺山は『消しゴム自伝抄』の結末で次のように締めくくっている。

自叙伝を書きながら、私は次第に記述者が何者であったかを忘れてしまって、いつのまにか手だけを残して、自分をも消し去ってしまっていたのである³⁹⁾。

前述のエッセイ『消しゴム自伝抄』に描かれた「手」は、エッシャーが、素描する自分の手を描いている作品を思い出させる。或いは、寺山は自作の実験映画『消しゴム』を撮っている。ラストシーンは次のような指示がある。

一人の老婦人がテーブルの前に坐っている。テーブルの背後は、たそがれの海がある。そのまわりを、目隠した海軍士官が、若い日の老夫人を追いかけて、まわっている一画面、消しゴムでていねいに消され、あとかたもなくなってしまい、波の音だけが残る⁴⁰⁾。

寺山の実験映画『消しゴム』は、エッシャーが素描する自分の手を描いている作品から触発されて、産まれた実験的な映画である。更にまた、寺山は『青ひげ公の城』では、青ひげ公の姿を消してしまった。さて、エッシャーは、『無限を求めて』で、「素描する自分の手」について、次のように語っている。

Despite all this conscious and personal effort, the illustrator still gets the feeling that some kind of magic action is taking places as he moves his lead pencil over the paper.⁴¹⁾

エッシャーは、「素描する自分の手」に描いた「手」について、鉛筆を動かしている「手」は「一種の魔術的作用」によって、いわば自動手記のように動いていると書いている。この場合、エッシャーが言う、「一種の魔術的作用」は、常識的な人間の眼差しではない。エッシャーが描くビルディングは、ゴッホの糸杉のようにグニヤリと変形している。筆者がゴッホの『種まく人』を模写していて、気付いた事がある。つまり、ゴッホが描く地平線は直線ではなく丸く盛り上がっているのである。エッシャーも既存の地平線ではなく、新しく出現した地平線を描いている。さて筆者は、先に『ガッシェ博士の肖像』を模写していて画面を貫いている盛り上がった曲線を見ているうちに気味が悪くなったと記した。ところで、エッシャーの『表皮片』は婦人の顔を描いているが、よく見ると、林檎の皮をくり抜いて空中に浮かんでいるだけである。ゴッホの『ガッシェ博士の肖像』もよく見ると、色の点線が微粒子になってキャンバスの宇宙に浮かんでいるだけのようなのである。

Like the spirally shaped peel of a fruit and like hollow, fragmented sculpture, the image of a woman floats through space.⁴²⁾

人間の目にとって初めて網膜に映る新世界は暫らく馴染めない。ゴッホの絵も最初見た時にはキャンバスに色が乱雑に塗りたくってあるように見える。しかしゴッホの絵をエッシャーやダリやマグリットのだまし絵と較べてみると徐々に違和感が薄れてくる。また、フランシス・ベーコンの塗りたくったような絵でさえも時間が経つと、何時の間にか馴染んでくる。或いはカンディンスキーの塗りたくったような乱雑な絵も時間が経つと、次の瞬間鮮やかな色彩に変化して眼に飛び込んでくる。ところで、映像作家の安藤紘平氏は、寺山修司から実験映画の影響を受けたが、『アインシュタインは黄昏の向こうからやってくる』や『フェルメールの囁き』の映像で、まるでエッシャーの絵の世界を映画化したような実験映画を撮っている。安藤氏は、映画『インセプション』はエッシャーの絵の影響だと述べている。そして、同時に、『インセプション』は寺山の深層心理や夢の世界と妙に類似しているのである⁴³⁾。

エッシャーは『無限を求めて』で地平線が真っすぐではなくてグニヤリと曲がっていると論じている。ゴッホの『種まく人』の地平線もグニヤリと曲がっている。そればかりか『種まく人』の風景も田畑も桜の木も、エッシャーやルネ・マグリットやダリの絵のように、中身がなく極薄の被膜で覆われているように見える。ドゥルーズは「器官無き身体」と言うコンセプト

トを使ったが、むしろ、『種まく人』では何をも突き通してしまう素粒子のように、宇宙を膨張させているダーク・エネルギーがゴッホの絵の中で膨張しているように見えてくる。

10. まとめ

ゴッホは膨大な数の絵の制作費を弟のテオに返済できないまま銃で自殺した。また寺山も遺作となった映画『さらば箱舟』の制作費を返済できないまま九條今日子氏に借金の支払いを託してこの世を去った。さてフランシス・ベーコンは生前自作が途方もない値段がついた時に、謙虚に絵の価値は100年後の人がその価値を決めるといっている。(p. 30) もしかしたらベーコンの念頭にゴッホがあったかもしれない。寺山は後世に残る作品を作るために借金をした。恐らくゴッホも後世に残る作品を描いて膨大な借金を残す事になったのではないだろうか。

さて、名古屋で、2011年2月『ゴッホ展』が開催されるのに合わせて、同年7月『ゴッホのためのレクイエム』の公演が企画され名古屋新栄の芸創センターで上演される。演出家の伊藤敬氏は、当初、この劇を構想した時、「12本のひまわりは、キリストの12使徒のイメージがあり、ジャガイモを食べる人達は、最後の晩餐を思わせる」と、そのコンセプトを語った。ところで、ゴッホと寺山修司との類似点は、二人の芸術家が、共に、ダンテの『神曲』にあるように、この世で地獄巡りをするというイメージがあった。しかも地獄とは心の闇であるように思われた。しかし、地獄が消えた後は何も残らない。

また映画『イン・アメリカ』にもあるように、バスキアをモデルにしたようなアフリカ系の画家マテオが、ニューヨークで麻薬とエイズで苦しみながら送る画家の修業生活をする。そのところには、地獄のイメージがあった。バスキアの修行時代の絵画は、アフリカの原住民のアイデンティティを鮮烈に表しているといわれる。ゴッホの絵にもオランダやフランスの貧しい農民たちの生活にアイデンティティがあるように思われた。

さて、『ゴッホのレクイエム』の上演を機会に筆者は舞台に飾るゴッホの絵を模写する仕事があり具にゴッホの絵を観察する事が出来た。先ず『馬鈴薯を食べる人達』を模写しているときにゴッホが何枚も『馬鈴薯を食べる人達』をスケッチしたり自分の絵を鏡で反射する構図で模写したりして幾枚も描いている事に気がついた。殊に『馬鈴薯を食べる人達』はフェルメールが絵を描くときに使ったカメラオブスキュラ（暗箱）で作画した画法と類似している事に気がついた。ゴッホが画商グーヴィル商会のロンドン支店勤務していた時に、ナショナルギャラリーでフェルメールの絵を見ていた。しかし、ゴッホの独自性は、フェルメールのエレガントな女性の手ではなくて農夫のごつごつした手の表現で描いている事に気がついた。また、ゴッホが娼婦シーンをスケッチした『悲しみ』は、カラバッチョが娼婦マッダレーナ・アトニ

エッティをモデルに作画した聖母マリアを思わせた。また、ゴッホは妊娠した娼婦シーンを描いているが、この石版画は女性の最大の喜びは子供を産むことであり、その喜びとひきかえに悲惨な生活が待ち受けている場面を暗示している。例えば、睡眠薬で自殺したマリリン・モンローは何度も流産を体験したが子供を授かりたいと生涯願っていた。一方、シーンは性病に苦しみながらも、子供を産みたいという願望を抱いていた。シーンの願望は、ちょうど寺山の『身毒丸』でしんとくが癩病に侵されながら「お母さん！ もういちど、ぼくをにんしんしてください！」⁴⁴⁾と叫ぶ「子宮回帰」を思わせる。

更にゴッホが描いた『ひまわり』は『馬鈴薯を食べる人達』と異なり闇の世界から黄金の世界へ変貌を遂げた色の変化を表している。ゴッホの黄色は腐食しない黄金を象徴し永遠の命を表す色として神の顕現を表している。と同時にゴッホが敬愛するフェルメールの黄色に感化されていた。

殊に『種を蒔く人』や『ガシェ博士の肖像』は人と背景の景色が絵筆の無数の点描写で溶け合っている。特に、『ガシェ博士の肖像』は、顔も服も背景も山脈も点描の効果で、まるで、ダーク・エネルギーのように未知なるものの顕現を呈している。この絵は、ゴッホが地上の人間では感知できない気配を表して見せたように思われる。

さて、ゴッホの絵を模写し観察した後でゴッホの書簡集を読みながらフーコーの『狂気の歴史』の例証とは異なった事例に遭遇する事になった。それはアルトーの『ゴッホ論』やジョルジュ・バタイユの『ゴッホ論』を解説する事によって、ゴッホが精神分裂症患者ではなくてまさに生の芸術家と漸く出会った感じがしたのである。

つまり、ゴッホが描く絵は、『E. T.』のアニメの宇宙人 E. T. とは違いちょうど『イン・アメリカ』のマテオのようにエイリアンであり、透明人間となって月を横切っていくように、眼に見えないが、宇宙を膨張しているダーク・エネルギーのような気配として描いており、『ガシェ博士の肖像』の絵の中で通り過ぎていくイメージと重なった。従って、まるで、ゴッホの絵は鏡の中の虚像のように実体がない、空の存在と化しているように思えた。

ウォーホルは「私の絵の背後には何もない」と言ったが、ゴッホの『ガシェ博士の肖像』は絵の中にすら、ガシェの顔も身体も服も景色も山脈も全く存在しない。それは譬えるなら、ちょうど、寺山の『青ひげ公の城』のように、青ひげ公は、舞台のどこかに姿を隠しているのだが、舞台の上では全く不在なのである。ただ気配を感じるだけである。また、ゴッホの絵は、ジョン・ケージの『4分33秒』のように、無音の中に気配だけを感じ取る芸術と似ている。つまり、青ひげ公の不在のように、ゴッホの肖像画は、生のゴッホの姿を抹消し、ダーク・エネルギーのように、不気味な色の点描だけが画面の小宇宙に漂っているのである。

つまり、寺山が撮った『田園に死す』のスクリーンの空洞に、ゴッホの『ひまわり』の絵を

その空間に漂わせ、エッシャーの『表皮片』で解説すると、一つのイメージが浮かび上がってくる。そのイメージは、ちょうど寺山の詩集『空には本』が引き起こす一種のだまし絵であったり、ジグソー・パズルであったりするかもしれない。例えば、寺山は先の座談会でゴッホのひまわりを以下のように解説している。

一つの畑とか、一本のヒマワリを描くとき、その距離を持続しなければ世界が完成しないということの恐ろしさというのはあるわけじゃない？ (p. 46)

この場合寺山が言う“距離”とは一つのイメージが網膜に結ぶ焦点のことである。このイメージを作るためにもう一度距離を計測してみる。先ず『田園に死す』のスクリーンの空洞にゴッホの『ひまわり』の絵をその空間に漂わせエッシャーの『表皮片』で解説して見る。すると画面に「器官無き身体」が忽然として現われ一つのイメージが浮かび上がる。さて、こうして見るとゴッホの肖像画の場合でも同様に生のゴッホの姿が忽然と消えてしまい、画布の上にはダーク・エネルギーのように不気味な絵具の点描が小宇宙となって漂っているだけである。

以上見てきたように、ゴッホと寺山が仕掛けた一種の問いはその謎が解かれるのに100年かかるという事であり、事実フランシス・ベーコンも同じ事を予測した。

What's more you have to wait a long time to know whether an artist will be recognize or not sometimes fifty or a hundred after the artist's death. (p. 30)

上記のベーコンの予測は、少し観点が違うとはいえ、難問中の難問ポアンカレー予想〈宇宙は丸い〉が解かれるのに100年かかった事を思い出す⁴⁵⁾。

注

- 1) Cf. 『オマージュ ファン・ゴッホ』(芦屋市立美術博物館、2000), pp. 24-5.
- 2) *Francis Bacon In conversation with Michel Archimbaud* (Phaidon Press Limited, 2000), p. 42. 以下同書からの引用は頁数のみ記す。
- 3) Cf. 『英国の肖像画哲学者フランシス・ベーコンから画家フランシス・ベーコンまで』(国立西洋美術館、1975)
- 4) *The Complete Letters of Vincent Van Gogh Vol. 3* (A Bulfinch Press Book, 2008), p. 470.
- 5) 寺山修司『さらば箱舟』(親書館、1984), p. 155.
- 6) Artaud, Antonin, *Van Gogh le Suicidé de la Société* (Gallimard, 2001), p. 75. 以下同書からの引用は頁数のみ記す。

- 7) Bataille, Georges, *La Mutilation sacrificielle et l'oreille coupée de Vincent Van Gogh* (Editions Alla, 2006), p. 28.
- 8) 寺山修司、「座談会＝ゴッホ謀殺説を推理したり、ゴッホ芸術のすごさ、おそろしさなどについて語る」栗津則雄、池田満寿夫、合田佐和子『みづゑ』No. 860., 1976.11), p. 46. 以下同書からの引用は頁数のみ記す。
- 9) 寺山修司の「ゴッホの耳切り事件」コメントと『花札伝綺』で指詰めの描写とは関連がある。セツ寺共同スタジオの二村利之氏は寺山が『花札伝綺』の花札を名古屋の中京福田組の高橋組長から教わったと証言している。
- 10) Bataille, Batailles, *Oeuvres Complètes 1 Premières Écrits 1922–1940* (nrf Gallimard, 1970), p. 498.
- 11) 寺山修司、『墓場まで何マイル?』(角川春樹事務所、2000), p. 61. Cf. “Every man is afraid. He is afraid of many things or of everything, but in the end they are all himself, as he himself knows. A man is afraid all his life, for every man is death given a face, eyes, ears, nose, mouth, body, and every man is death given life, as he himself knows.” (p. 57) *Rock Wagram Selected Works of William Saroyan* vol. 11
- 12) Deleuze, Gilles, *Francis Bacon The Logic of Sensation* Translated by Daniel W. Smith (Minnesota U.P., 2003), p. 39. 以下同書からの引用は頁数のみ記す。
- 13) Forrester, Viviane, *Van Gogh ou l'enterrement dans les blés* (Éditions du Seuil, 1983), p. 290. 以下同書からの引用は頁数のみ記す。
- 14) Proust, Marcel, *A la recherche du temps perdu* I (nrf Gallimard, 1954), p. 222.
- 15) *The Complete Letters of Vincent Van Gogh* Vol. 2 (A Bulfinch Press Book, 2008), p. 115. Cf Lubin, J. Alebert, *Stranger on the Earth* (Henry Holt & Company, Inc., 1972), p. 112.
- 16) Letter from Vincent van Gogh to Wilhelmina van Gogh *Saint-Rémy, 19 September 1889* Saint-Rémy, 19 September 1889 (www.webexhibits.org/vangogh/letter/20/W14.htm, 2010.3.26)
- 17) Artaud, Antonin, *Le Théâtre et son Double* (Idees/gallimard, 1964), p. 12.
- 18) Caillois, Roger, *Pierres* (Poésie / Gallimard, 1970), p. 62.
- 19) Cf. Artaud, Antonin, *Oeuvres Complètes VII Heliogabale* (nrf Gallimard, 1967), p. 20.
Kodera, Tsukasa, *Vincent Van Gogh Christianity Versus Nature* (John Benjamins Publishing Company, 1990)
- 20) Wilde, Oscar, *The Picture of Dorian Gray* (Magpie Books, 1993), p. 167.
- 21) Zola, Emile, *L'oeuvre (Les Rougon-Macquart, V* nrf. Gallimard, 1966), p. 23.
- 22) *Paul Cezanne Letters* Edited by John Rewald (Hacker Art Books, 1984), p. 296.
- 23) Cf. Foucault, Michel, *Histoire de la folie à l'age classique* (tel. gallimard, 1972), pp. 25–6.
- 24) 「劇評」 ifka.cool.ne.jp/gajeu/Essai/10theatre.htm, 2011/02/20
- 25) 「ニコラ・パタイユ～前衛演劇と共に歩んだ60年～」(COOL Magazine Blog 追悼ニコラ・パタイユ) (coolny.blog.shinobi.jp/Entry/77/?guid=ON&ep=2, 2011/02/20)
- 26) Jaspers, Karl, *Strindberg and Van Gogh* Translated by Oskar Grunow and David Woloshin (Arizona U.P., 1977), p. 187.
- 27) 式場隆三郎『宿命の藝術』(昭和刊行舎、1943)、「式場は、医師の立場から、テオ・ゴッホやロートレックやモーパッサンが梅毒で狂死した経緯を詳細に書いている。また、式場は、ヴァンセント・ゴッホも梅毒の苦痛で苦しみピストルで自ら命を絶ったのではないかと推測している。」式場隆三郎、「ヴァン・ゴッホの精神病」(『炎の画家ゴッホ』I, ノーベル書房、1981)
- 28) 式場隆三郎『ロートレック』(二見書房、1942)「式場は、屈折した心の持ち主であったロートレックがゴッホの顔に生氣あふれる芸術の力を感じたから素描を残した、と書いている。」

- 29) 『寺山修司対談集 密室から市街へ』(フィルムアート社、1976)、p. 67。「寺山 ぼくは昔、テネシー・ウイリアムズの台詞にしびれたね。ジロドゥもそうだ。あの頃の演劇は「文学」だったんだよ。」
- 30) Shakespeare, William, *Macbeth (The Complete Works of William Shakespeare)*, Spring Books, 1972) p. 928. 以下同書からの引用は頁数のみ記す。
- 31) 松岡和子「訳者あとがき」(シェイクスピア『マクベス』松岡和子訳、ちくま文庫、2001)、p. 183.
- 32) 岡谷公二「バタイユ、ゴッホ、供儀、太陽」(『ユリイカ』Vol. 5 No. 4, 1973.7), p. 144。「岡谷氏は“太陽およびひまわり(この二つは、フランス語では共に soleil である)”と論じている。Cf. Bataille, Georges, *Oeuvres, Completes Premiers Écrite 1922-1940* (nrf Gallimard, 1970) pp. 497-500.
- 33) Henri Hubert & Marcel Mauss, *Sacrifice: Its Nature & Function* Translated by W. D. Halls (Chicago U.P., 1967) pp. 2-3. 以下同書からの引用は頁数のみ記す。
- 34) Cf. 『MUSEUM 東京国立博物館美術誌』48号(編集・東京国立博物館、美術出版社、1955.9), pp. 16-7.
- 35) Cf. Perruchot, Henri, *La Vie de Van Gogh* (Hachette, 1955), p. 441. Cf. Nietzsche, Friedrich, *Thus Spoke Zarathustra, The Intoxicated Song*. 10. “Pain is also a joy, curse is also a blessing, the night is also a sun—be gone, or you will learn; a wise man is also a fool.” (p. 331) (Penguin Books, 1985)
- 36) Cf. 式場隆三郎「『炎の人』の上演について」(『炎の人』公演パンフレット、三越芸能部、1952), p. 4.
- 37) 寺山修司『ぼくは話しかける』(ハルキ文庫), pp. 27-30. 寺山は同書で「ウィリー・ローマンが、息子に向かって言うこんなセリフがある。「そうだ、ビフ。今の世界で成功しようと思ったら、人に嫌われちゃいかん」(『セールスマンの死』)だが、これはマチガイというものである。」と書いている。Cf. Miller, Arthur, *Death of Salesman (The Portable Arthur Miller)*, Viking Press, 1972), p. 58. “Be quiet, fine, and serious”
- 38) Cf. Gauguin, Paul, *Avant et après* (La Table Ronde, 1993), p. 31.
- 39) 寺山修司、『消しゴム自伝抄』(『黄金時代』九藝出版、1978), p. 304.
- 40) 寺山修司、『消しゴム』(『寺山修司イメージ図鑑』フィルムアート社、1999), p. 191.
- 41) M. C. Escher, *Escher on Escher Exploring the Infinite* (Harry N. Abrams, Inc., Publishers, 1989), p. 100.
- 42) Escher, M. C., *The Graphic Work of M. C. Escher* Translated by John E. Brigham (Pan Books, 1972), p. 13.
- 43) Cf. 映像作家で早稲田大学教授の安藤紘平氏は、氏の映画について書いた論文(清水杏奴「寺山修司における新しい映画の可能性」『寺山修司研究』第4号所収)について「特に、「アインシュタインは黄昏の向こうからやってくる」における相対性理論との相関、想像(夢、記憶あるいはイマジネーション)と現実と思われるものとの関係(作品中で“夢”として扱われているものは、全て、小生の実生活で撮影されたもの)は、最近のクリストファー・ノーランの「インセプション」のコンセプトの根幹をなすもので、実によく分析してくださって、感謝です。この、記憶と現実のループは、「ワルツ」という作品が元にあります。」と、報告してくださった。映画『インセプション』では、エッシャーの絵や魔術的な世界が映画に映像として取り込まれ引用されている。
- 44) 『寺山修司の戯曲』第6巻(思潮社、1986), p. 46.
- 45) ゴッホはキャンバスの宇宙に浮かぶ物体を描く画法を喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重らが描く日本の浮世絵の線描写から暗示を受けたのかもしれない。実際ゴッホは浮世絵を400枚持っていた。またゴッホと日本の関係は先に紹介した棟方志功の他に忌野清志郎がいる。忌野はゴッホが生涯で1枚しか絵が売れなかった下積み時代を心のよりどころとしたのであり、ロック歌手忌野が油絵に興味を持つきっかけとなった。忌野は音楽で絵を描くという。ドゥルーズは『感覚の論理』の中でゴッホやベーコンの絵画について絵と音楽との関係から、例えば、プルーストの『失われた時を求めて』に描かれた作曲家のヴァントウイユと画家の

エルステールを引用しながら「重要なのは二つの感覚の作用が相互に交わる際の、それら感覚作用の共鳴であった…」(p. 57)〈What mattered was the resonance of the two sensations when they seized each other, …〉と論じている。

参考文献

- Van Gogh's Letters The Mind of the Artist in Paintings, Drawings, and Words, 1875–1890* Edited by H. Anna Suh (Black Dog & Leventhal Publishers, 2006)
- Ozanne, Marie-Angelique & Frederique de Jode, *L'Autre Van Gogh. Une biographie de Theo Van Gogh* (Paris. Editions Olbia, 1999)
- Van Gogh* (Benedict Taschen, 1994)
- Gayford, Martin, *The Yellow House* (Little Brown and Company, 2006)
- Stone, Irving, *Vincent Van Gogh* (Rowohlt, 1997)
- Juan De La Encia, *Van Gogh* (Coleccion Austral, 1961)
- Stone, Irving, *Lust for Life* (Arrow Books, 1980)
- Saint-John Perse, Mace, Michaux, *Ce que le poème dit du poème* (Vincennes U.P., 2005)
- Bataille, Georges, *Le process de Gilles de Rais* (Bibliothèques 10/18, 1965)
- Bataille, Georges, *Story of the Eye* (Penguin Books, 2001)
- Bataille, Georges, *L'Erotisme* (Les Editions de Minuit, 1971)
- Artaud, Antonin, *The Theatre and Its Double* Translated by Victor Corti (Calder Publications, 2005)
- Artaud, Antonin, *The Theatre and Its Double* (Calder Publications, 1993)
- Artaud, Antonin, *Oeuvres Completes d'Antonin Artaud* Tome IV (nrf Gallimard, 1964)
- Artaud, Antonin, *Oeuvres Completes d'Antonin Artaud* Tome V (nrf Gallimard, 1964)
- Foucault, Michel, *Raymond Roussel* (nrf Gallimard, 1963)
- Foucault, Michel, *Histoire de la folie à l'âge classique* (tel Gallimard, 1972)
- Foucault, Michel, *Madness and Civilization A History of Insanity in the Age of Reason* (Vintage Books, 1988)
- Foucault, Michel, *Discipline & Punish The Birth of the Prison* (Vintage Books, 1977)
- Foucault, Michel, *The Use of Pleasure The History of Sexuality* Translated by Robert Hurley Volume 1 (Vintage Books, 1990)
- Foucault, Michel *The Use of Pleasure The History of Sexuality* Translated by Robert Hurley Volume 2 (Vintage Books, 1990)
- Foucault, Michel *The Use of Pleasure The History of Sexuality* Translated by Robert Hurley Volume 3 (Vintage Books, 1988)
- Mauss, Marcel, *Essai sur le don* (puf, 2007)
- Mauss, Marcel, and Hubert, Henri, *Sacrifice: Its Nature and Function* Translated by W. D. Halls (Chicago U.P., 1964)
- Mauss, Marcel, *A General Theory of Magic* Translated by Robert Brain (Routledge & Kegan Paul, 1972)
- Mauss, Marcel, and Durkheim, Emile, *Primitive Classification* Translated by Rodney Needham (Cohen & West, 1963)
- Williams, Tennessee, *A Streetcar Named Desire, The Glass Menagerie* (Penguin Plays, 1986)
- Ridgery, Steven C, *Japanese Counterculture The Antiestablishment Art of Terayama Shuji* (Minnesota U.P., 2011)

- Brant, Sebastian, *The Ship of Fools* (Dover Publications, Inc., 1944)
- Renan, Ernest, *The Life of Jesus* Translated by C. E. Wilbour (JM Dent & Sons Ltd., 1951)
- Ernst, Bruno, *The Magic Mirror of M. C. Escher* (Ballantine Books, 1976)
- Lubin, Albert J., *Stranger on the Earth* (An Owl Book, 1987)
- McQuillan, Meliss, *Van Gogh* (Thames and Hadson, 1989)
- Thomson, Richard, *Vincent Van Gogh The Story Night* (The Museum of Modern Art, 2008)
- Tilborgh, Louis Van, *The Potato Eaters by Vincent van Gogh* (Waanders Publishers, 1991)
- Zemel, Carol, *Van Gogh's Progress Utopia, Modernity, and Late-Nineteenth-Century Art* (California U.P., 1999)
- Van Gogh A Retrospective* Edited by Susan Alyson Stein (Park Lane, 1988)
- Barrielle Jean-Francois, *La Vie et l'oeuvre de Vincent Van Gogh* (ACR Edition, 1984)
- フィーヴァー、ウイリアム 『ゴッホ』 水沢勉訳 (岩波世界の巨匠 岩波書店、1993)
- マルタン、ジャン＝クレ 『物のまなざし ファン・ゴッホ論』 杉村昌昭・村澤真保呂訳 (大村書店、2001)
- ウオレス、ロバート 『ファン・ゴッホ』 日本語監修 中原佑介 (『巨匠の世界』 タイムライフインターナショナル、1970)
- テイルボルフ、ルイ・ファン&ヘウフテン、シラール・ファン 『ファン・ゴッホとミレー』 二見史郎・辻井忠男訳 (みすず書房、1994)
- チュルシエ、ベルナル 『ゴッホ——魂の日記——』 田中梓訳 (西村書店、1990)
- Schapiro, Meyer, *Van Gogh* 黒江光彦訳 (美術出版社、1988)
- スウィートマン、デイヴィッド 『ゴッホ100年目の真実』 野中邦子訳 (文藝春秋、1990)
- アイテルト・E. 『ゴッホ巨匠のデッサンシリーズ』 神崎巖訳 (岩崎美術社、1992)
- ヴァルター、インゴ・F. 『フィンセント・ファン・ゴッホ1853-1896 夢想と実現』 (Taschen, 2000)
- ウーデ、ウイルヘルム 『ゴッホ』 坂上桂子訳 (西村書店、1991)
- ボナフ、パスカル 『Van Gogh』 三浦篤、渡部葉子訳 (中央公論社、1989)
- ホンブルク、コルネリア 『ゴッホ オリジナルとは何か? 19世紀末のある挑戦』 野々川房子訳 (美術出版社、2001)
- 『ゴッホ 現代世界の美術 Art Gallery Gogh』 (集英社、1985)
- バーナード、ブルース 『ゴッホ』 ビジュアル美術館第1巻 高橋達史編訳 (同朋舎、1993)
- マルタン、ジャン＝クレ、『物のまなざし——ファン・ゴッホ論』 杉浦昌昭・村澤真保呂訳 (大村書店、2009)
- モッチェ、アラン 『画集オーヴェールのゴッホ』 斎藤智子、渡辺葉子訳 (朝日新聞社、1990)
- ルメイ、J. (文)、ルシャール、C. (絵) 『ファン・ゴッホ——火の玉の太陽にこがれて——』 長島良三訳 (岩崎書店、1990)
- ラルボー、マルク・エド 『ヴァン・ゴッホ』 坂崎乙郎訳 (河出書房、1992)
- エルガー、フランク 『ヴァン・ゴッホの生涯』 久保文訳 (同時代社、1993)
- ビックヴァンス、R. 『アルルのファン・ゴッホ』 二見史郎訳 (みすず書房、1986)
- フィーヴァー、ウイリアム 『ゴッホ』 岩波世界の巨匠、水沢勉訳 (1990)
- ネメチェク、アルフレート 『ファン・ゴッホ アルルの悲劇』 岩波アート・ライブラリー、高階絵里加訳 (2010)
- パンプス、ジュディス 『ゴッホの花』 島田紀夫、中村みどり訳 (西村書店、1991)

- ナタリー・エニック『ゴッホはなぜゴッホになったか』三浦篤訳（藤原書店、2005）
- マンフレート・イン・デア・ベーク『真実のゴッホ——ある精神科医の考察』徳田良仁訳（西村書店、1992）
- カンヤン、フランソワーズ『ゴーギャン』高階秀爾訳（創元社、1992）
- 大久保泰『ファン・ゴッホ、フィンセント』（日動出版部、1976）
- 小林英樹『ゴッホの復活』（情報センター出版局、2007）
- 伊勢英子『ふたりのゴッホ ゴッホと賢治37年の心の軌跡』（新潮社、2005）
- 小林利延『ゴッホは殺されたのか』（朝日親書、2008）
- 『20世紀美術の冒険——セザンヌ、ファン・ゴッホから現在まで』（アムステルダム市立美術館コレクション展 世紀美術の冒険展開催実行委員会、1997）
- 棟方志功『わだばゴッホになる』（日本経済新聞社、1990）
- 藤村信『ゴッホ 星への旅』（上）（岩波新書、1989）
- 宗像衣子『ことばとイメージの交感——フランスと日本の詩情——』（人文書院、2005）
- ボナフー、パスカル『ゴッホ』高橋啓訳（創元社、1990）
- 田代裕『至福のファン・ゴッホ』（筑摩書房、1996）
- ポラチェック、ステファン『炎と色 ゴッホの一生』式場隆三郎訳（現代社、1955）
- 粟津則雄『ゴッホの旅』（平凡社カラー新書65、1977）
- 粟津則雄『ゴッホ紀行 Van Gogh』（平凡社、1984）
- 『武者小路実篤』作家の自伝7 遠藤祐編（日本図書センター、1994）
- 『武者小路実篤全集』第15巻（小学館、1990）
- 式場隆三郎『炎の画家ゴッホ』I～V（ノーベル書房、1981）
- 『ゴッホの手紙』（『小林秀雄全集』第8巻、新潮社、1955）
- 『新訂 小林秀雄全集』第10巻『ゴッホ』（新潮社、1981）
- 池田満寿夫『私のピカソ私のゴッホ』（中央公論社、1984）
- シュッセ、シャルル『ゴーガンとその時代』島田紀夫・末木友和訳（造形社、1977）
- 樺山紘一『ゴーギャン夢と現実のはざままで』（昭文社、2007）
- ゴーガン、ポール『ノア・ノア』前川堅市訳（岩波文庫、2005）
- 丹治恆次郎『最後のゴーガン〈異国の変貌〉』（みすず書房、2003）
- ヴァンス、ベギー『ゴーギャン』廣田治子訳（岩波世界の巨匠、岩波書店、1991）
- フックストラ、ヒド『画集レンブラント聖書新約篇』嘉門安雄監訳（学研、1980）
- ブリドー、トム『ドラクロワ』日本語監修 坂崎川（『巨匠の世界』タイムライフインターナショナル、1966）
- セリュラス、モーリス『ドラクロワ』高島正明訳（美術出版社、1973）
- 『アングル／ドラクロワ』（現代世界美術全集24 集英社、1979）
- ノベール＝ライザー、コンスタンス『セザンヌ』山梨俊夫訳（岩波世界の巨匠、岩波書店、1991）
- シャピロ、マイヤー『セザンヌ』黒江光彦訳（美術出版社、1952）
- 前田英樹『セザンヌ画家のメチエ』（青土社、2000）
- オーグ、ミシェル『セザンヌ孤高の先駆者』村上尚子訳（「知の再発見」双書、創元社、2000）
- ガスケ『セザンヌ』與謝野文子訳（岩波文庫、2009）
- メルロ＝ポンティ『間接的言語と沈黙の声』粟津則雄訳（みすず書房、2002）
- 新関公子『セザンヌとゾラ その芸術と友情』（ブリュッケ、2000）

- 佐々木三郎、佐々木綾子、小野規 (写真) 『ゴッホのフランス風景紀行パリ、アルル、サン・レミ』 (求龍堂、1999)
- 西岡文彦 『二時間のゴッホ名画が分かる天才が見える』 (河出書房新社、1995)
- 野村篤 『ゴッホ紀行 星への軌跡』 (求龍堂、1998)
- 並川汎 『ひまわりの画家ファン・ゴッホ』 (西村書店、1994)
- 小川国夫 『ヴァン・ゴッホ』 (小沢書店、1986)
- 吉屋敬 『青空の憂鬱ゴッホの前足跡を辿る旅』 (評論社、2005)
- 向田直幹、匠秀夫 『ゴッホ巡礼』 (新潮社、1990)
- 田中一郎 『ゴッホの死は他殺——完全犯罪人の仕掛けはゴーギャン——』 (編書房、2000)
- 田代祐 『孤独なひまわり…ファン・ゴッホの告白』 (あすなる書房、1997)
- 田代祐 『至福のファン・ゴッホ』 (筑摩書房、1996)
- 小林英樹 『ゴッホの照明』 (情報センター出版局、2000)
- 小林英樹 『ゴッホの遺言』 (情報センター出版局、1999)
- 小林英樹 『耳を切り取った男』 (NHK 出版、2002)
- 小林利裕 『ゴッホ』 (近代文芸社、1997)
- 木下長宏 『ゴッホ神話の解体へ』 (五柳書院、1989)
- 木下長宏 『ゴッホ——闘う画家』 (六耀社、2002)
- 木下長宏 『思想史としてのゴッホ複製受容と想像力』 (學藝書林、1992)
- 木下長宏 『ゴッホ自画像の告白』 (二玄社、1999)
- 嘉門安雄 『ゴッホの生涯』 (美術公論社、1982)
- 嘉門安雄 『ゴッホとロートレック』 (朝日選書、1986)
- 高階秀爾 『ゴッホ』 新潮美術文庫29 (1991)
- 高階秀爾 『ゴッホの眼』 (青土社、1993)
- 南川三治郎 『ゴッホを旅する』 (世界文化社、2003)
- 『ゴッホへはたしてゴッホは感情のまま筆を動かしたのか』 (視覚デザイン研究所編、1994)
- 『ゴッホ』 新装カンヴァス版 世界の名画11 司馬遼太郎、粟津則雄、高階秀爾 (中央公論社、1993)
- 圀府寺司 『もっと知りたいゴッホ 生涯と作品』 アートビギナーズ・コレクション (東京美術、2007)
- 圀府寺司 『ファン・ゴッホ 自然と宗教の闘争』 (小学館、2009)
- 小山田義文 『ゴッホ4月の光芒』 (三元社、2006)
- 『ゴッホと日本展』 (テレビ朝日、1992)
- 『ジャポニズム展』 19世紀西洋美術への日本の影響』 (国立西洋美術館、1988)
- 福水武彦 『ゴーギャンの世界』 (新潮社、1974)
- ダリ、サルバドール 『ミレー〈晩鐘〉の悲劇的神話』 鈴木雅雄訳 (人文書院、2003)
- ソレルス、フィリップ 『フランシス・ベイコンのパッション』 五十嵐賢一訳 (三元社、1998)
- 『M. C. エッシャー 数学的魔術の世界』 岩成達也訳 (河出書房新社、1981)
- エッシャー、M. C. 『無限を求めてエッシャー、自作を語る』 (朝日選書、朝日新聞社、1994)
- ドリス・シャットシュナイダー&ウォーレス・ウォーカー 『M. C. エッシャー カライドサイクル』 (Taschen、2010)
- 寺山修司 『死者の書』 (土曜美術社、1974)

- 寺山修司『アメリカ地獄めぐり』（芳賀書店、1969）
寺山修司『墓場まで何マイル？』（角川春樹事務所、2000）
『みずゑ』No. 522（1949.5）
『みずゑ』「特集＝ゴッホ」No. 860（1976.11）
『ユリイカ』Vol. 29 No. 9（1997.7）
『夜想』No. 6（1982.5）
『悲劇喜劇』No. 324（1977.10）
『美術手帖』No. 327（1970.5）
『芸術新潮』（新潮社、2010.10）
『炎の人ゴッホ』（“Lust for Life”）（MGM 映画パンフレット）
『炎の人ゴッホ』（“Lust for Life”）1956年制作（DVD ワーナー・ホーム・ビデオ、2006）
『ヴァン・ゴッホ』アラン・レネ監督（1948年作品）（DVD 紀伊国屋書店、2001）
『炎の人』（ゴッホ）公演特集（民芸の仲間 No. 2）
『ゴッホのためのレクイエム』上演台本（『ゴッホのためのレクイエム』上演実行委員会、2011）
三谷幸喜作『コンフィダント・絆』（DVD パルコ、2007）

学生が「読める」英文の測定法

——語彙密度、名詞化、節どうしの関係*——

鷺 嶽 正 道

Synopsis

The aim of this paper is to propose ways to quantify to what extent students can ‘read’ (i.e. understand the meaning using their dictionaries and grammar books by themselves) passages written in English. It utilizes the theoretical framework of Systemic Functional Linguistics (SFL) to introduce the notions of 1) lexical density, 2) grammatical metaphor, especially nominalization, and 3) grammatical intricacy (i.e. type of clause complex and embedded clause). By observing the results of students’ examinations in which they translate English sentences into Japanese, it is clear that there is a definite relation between students’ ability to understand English sentences and these three lexicogrammatical notions. This paper concludes that a) the quantification of lexical density and b) consciousness of clause complex and embedded clause type help teachers realize their students’ English reading ability.

1. はじめに

学生の習熟度を十分に理解し、学生の習熟度に合った指導をすることは、学生に英語を指導する際に肝要であることは言うまでもない。本学では習熟度別クラス編成¹⁾を実施しているが、実際の学生の習熟度の把握については、教員の経験によるところが大きいと考えられる。短時間で、例えば初回の授業中に学生の習熟度を把握する方法があれば、より適切に学生の指導ができるはずである。

本稿の目的は、本学学生が「読める」²⁾英文を測定する方法を提案することにある。いわゆる文単位での英文の理解のしやすさを考えた場合、語彙や文法項目の難易度のほかに、一文に含まれる情報の多さや文構成の込み入り方、すなわち、テキストの複雑さがテキストの理解度

に大きく影響していることが予測できる。テキストの複雑さには、情報量の多さを示す語彙密度 (lexical density) と論理-意味的な込み入り方を示す文法的複雑さ (grammatical intricacy) が含まれる (Halliday, 1993)。また、英文の理解が困難になり、かつ語彙密度が高くなる要因として、出来事を名詞群で具現する名詞化 (nominalization) が考えられる。そこで、本稿ではこれらの語彙-文法的概念を同じ理論枠組みでとらえることができる選択体系機能言語学 (Systemic Functional Linguistics、以降 SFL) を分析手段として利用する。

学生の英文読解力を早期に測定し、学生が理解しにくい英文のパターンを認識することにより、指導者は学生の実態に適した教材を選択でき、より効果的な指導ができると期待できる。

なお、本稿での SFL の術語訳は Halliday (1994) (山口、寛 (訳) 2001) ならびに龍城 (編) (2006) に準拠し、初出の場合のみ原語 (英語) を丸括弧で提示する。

2. 本学学生の英語読解力

英語が「読める」ことには、いくつかのレベルでの理解が含まれると想定できる。理解の第一歩となるのが、いわゆる文レベルでの理解である³⁾。文は、あくまで書かれた言葉⁴⁾の単位であるため、SFL では分析の単位としては用いない (分析の単位として利用するのは節である) が、本稿では、調査対象を学生の英文読解力としていることと、いわゆる単文を複文や重文と包括的に取り扱うため、便宜上、文を分析の基本単位とする。

当然のことながら、文章は単なる文の羅列ではない。文章全体を理解するためには、テキストの結束性 (coherence) を含むパラグラフ単位での理解やパラグラフ構成を含むテキスト構造 (generic structure) の理解も不可欠である。しかし、残念ながら、著者の本学での英語指導経験から、本学学生でこのレベルでの英文読解ができる学生は少数と言わざるを得ない。多くの本学学生の英語読解能力は、文章の中に理解できる文と理解できない文が混在しており、パラグラフ単位や文章単位での議論には達していない習熟度と筆者は想定する。そこで、本稿では、本学学生の主要な部分に焦点を合わせ、学生の文レベルでの英文理解についての測定を試みる。

文レベルでの理解を妨げる要因には、次のものが考えられる。1) テキストに詰め込まれている情報の密度、すなわち語彙密度が高いこと、2) 通常は節で具現される出来事を名詞群で具現する名詞化が利用されていること、3) 節複合 (clause complex, いわゆる重文や複文) や埋め込み節 (embedded clause) が利用されており、節どうしの関係が複雑であること、4) 未修得の文法項目や語彙があること、5) 英文の話題に不慣れであること、である。本稿では、対象を語彙密度と語彙密度の増加に関係する名詞化、節どうしの関係に絞り、1) ~ 3) の項

目について、本学学生の実態を調査するとともに、これらの測定法の提案をする。

3. 調査

本節では、本学1年生を対象にした語彙密度と英文の理解度、名詞化と英文の理解度、節の複雑さと英文の理解度の調査とその結果について述べる。語彙密度については、3.1で、名詞化については3.2で、節どうしの関係については3.3でそれぞれ議論する。なお、3.1と3.2での調査は平成21年10月に、3.3での調査は平成23年5月に実施した。調査の実施時期は異なるが、本稿の目的は調査結果の報告ではなく、測定方法の提案であるため、議論に支障はないと考える。

3.1 語彙密度と英文の理解度

Halliday (1989: 67) によると、テキストの語彙密度は、節ひとつに対する内容語⁵⁾の数によって求めることができる。次の英文を例に実際に語彙密度を求めると以下ようになる。

- a) Experiments have shown that some animals have a very good sense of direction.

(南村他2010より抜粋)

- b) A person's overall chance of developing a skin cancer is related to their lifetime exposure to UV radiation.

(Tromovitch and Kubota, 2007より抜粋)

例文 a) の場合、節は2つ、内容語は5語 (experiments, shown, animals, sense, direction) である。したがって、例文 a) の語彙密度は2.5となる。例文 b) では、節は1つ、内容語は9語 (person's, overall, chance, developing, skincancer, related, lifetime, exposure, UV radiation) で、語彙密度は9.0となる。一般に、語彙密度が上がればテキストは読みにくくなる (Harrison & Becker, 1998) ため、語彙密度が上がれば学生の英文の理解は下がると予測できる。なお、日常会話における語彙密度は2.0程度、書き言葉の場合は4.0から6.0程度であり、学术论文では10以上になることもある (Halliday, 1993)。

本学の1年生(平成21年当時)を対象として、語彙密度の高さと学生の英文理解度との関係を探る調査を実施した。調査方法として、学生に語彙密度が2.0から11.0の英文を和訳させ、正答率と語彙密度の関係を散布図で確認する方法を取った。なお、語彙密度以外の要素をでき

る限り排除するため、比較的理解が困難と思われる文法事項（仮定法、分詞構文など）が含まれる英文の使用は可能な限り避けた。また、辞書の使用を許可し、問題によっては語彙の意味を与えた。なお、問題には、いくつかの組み合わせを用意したため、図1での調査と図2、3での調査とは、学生は異なった組み合わせの問題を解答したことを付記する。組み合わせは、英文の語彙密度のバランスのみで決定しているため、この違いは、語彙密度と学生の正答率の関係を観察するという目的には影響しないと考える。

語彙密度と学生の英文の理解度（問題の正解率）の関係を見る前に、石井他（編）（2010）をもとに、データどうしの相関関係と因果関係の強さについて概観しつつ、調査結果の妥当性について検討する。

データどうしの相関関係については、相関係数が1に近ければ「正の相関関係」（一方が増加すれば他方も増加する）が、-1に近ければ「負の相関関係」（一方が増加すれば他方は減少する）が強くなるとされている。また、「一般に、相関係数の絶対値が.7より大きければ「強い相関」が（中略）あるとされる」（石原他（編）2010: 86）。下記の図1から図3の表題から確認できるように、図1から図3のすべての調査で相関係数は-0.8未満であるため、いずれの調査においても語彙密度の増加と正答率には強い負の相関関係があると言える。

回帰分析については、決定係数（ R^2 ）が0.8以上あれば回帰式が成立する高い可能性がある」と判断でき、データ間に強い因果関係があると言える。調査結果では、決定係数がおよそ0.65から0.73程度なので、回帰式がある程度成立すると判断でき、語彙密度と正答率との間に因果関係があることが確認できる。

図1は英語の習熟度が低いクラスの調査結果（解答者数24）である。縦軸が語彙密度、横軸が正答率を表している。語彙密度に関わらず、全体的に正答率が低い傾向にあり、特に語彙密度が4.0を超えると正答率が5割以下になることがわかる。著者の調査によると、一般的な高等学校のリーディングの教科書の語彙密度は2.5から4.0未満である。高等学校で英語が得意ではなく、それゆえに習熟度が低いクラスを希望した学生が多く在籍するクラスで、このような調査結果が出たことは、語彙密度による習熟度の調査方法が妥当であるひとつの証左である」と考える。

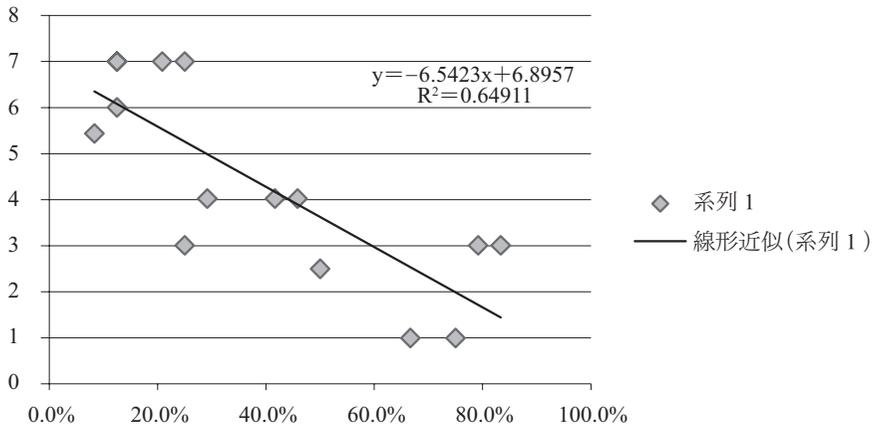


図1：語彙密度と学生の理解度の調査結果（低習熟度クラス）（相関係数：-0.806）

図2は、本学において平均的な英語習熟度を持つ学生（辞書を使えば、ある程度複雑な文でも理解できる）が多数在籍するクラスでの調査結果（解答者数37）である。決定係数と相関係数の数値から、この程度の習熟度の学生を対象にした場合に、語彙密度と問題の正答率に最も高い相関関係が確認できる。言い換えれば、語彙密度を基準に英文読解の教材を選択することは、辞書の使用法や基礎的な文法項目の理解といった基本的な部分を身につけた学生への指導において最も有効となる。

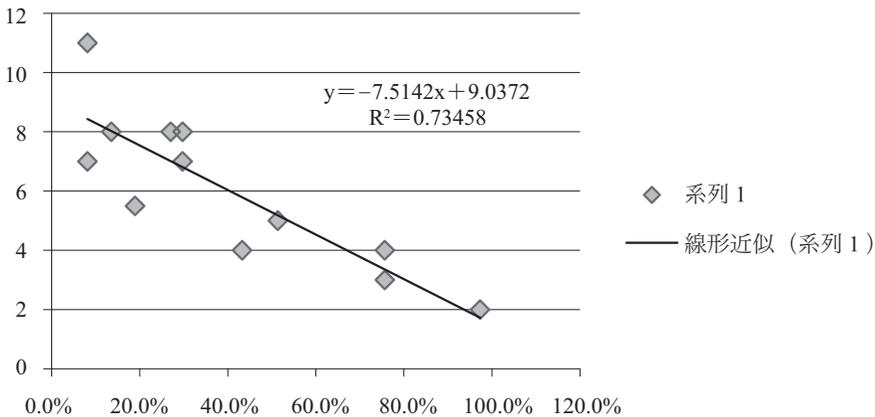


図2：語彙密度と学生の理解度の調査結果（中習熟度クラス）（相関係数：-0.857）

図3は、本学の中でも特に英語の習熟度が高いクラスでの調査結果（解答者数28）である。全体として正答率が高いことと、語彙密度と正答率との関係が二極化していることが特徴であ

る。また、図2で示された調査結果よりも、語彙密度と正答率の相関関係が低いことから、ある程度の習熟度になると、語彙密度以外の英文理解を妨げる要因の影響が顕著になると考えられる。

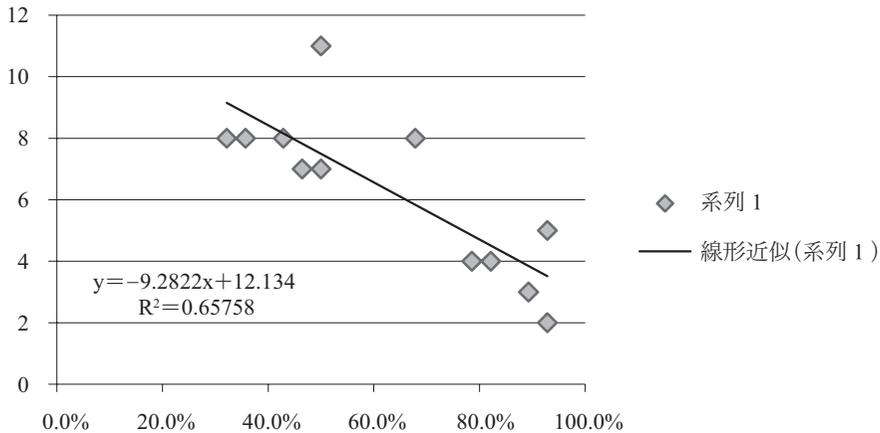


図3：語彙密度と学生の理解度の調査結果（高習熟度クラス）（相関係数：-0.811）

図1から図3の調査によって、学生の習熟度により程度は変わるものの、語彙密度の増加と英文の理解度の低下に一定の関係を確認することができた。

3.2 名詞化表現

語彙密度と関連して、学生の理解を妨げる要因のひとつに、名詞化を使用した表現が考えられる。名詞化は文法的比喩（grammatical metaphor）の主要なひとつであり、複雑な現象をあたかもモノであるかのように扱えるため、特に学術テキストで多用される（Halliday, 1993; 佐野2007）。

ここで、分析に先立ち、名詞化のプロセスと特徴について概観する。SFLでは、言語を3つの層、すなわち、意味層（semantics）、語彙-文法層（lexico-grammar）、音韻／書記層（phonology/ graphology）からなる選択システムとして捉え、それぞれの層は具現（realization）によって関係づけられていると考える。すなわち、意味層は語彙-文法層によって具現され、語彙-文法層は音韻／書記層によって具現される。

典型的には、意味層での選択と語彙-文法層での選択には「自然な」関係が確認できる。例えば、意味層で「出来事の連続（sequence）」が選択された場合、語彙-文法層では、その選択を「節複合（clause complex）」で具現する。同様に、「出来事（figure）」は「節（clause）」で、「物（thing）」は「名詞群（nominal group）」具現される。これらの場合、意味層での選択と語

彙-文法層での選択は「一致している (congruent)」と言える。

しかしながら、これらの層での選択は必ずしも一致するとは限らない。例えば、「紫外線を浴びる」は出来事なので、典型的には c) のように節で具現される。

c) You are exposed to UV radiation

ところが、この出来事は、c) のように名詞群によっても具現されうる。

c') exposure to UV radiation

典型的には節で具現される出来事が名詞群によって具現されているため、この場合、意味層での選択と語彙-文法層での選択は「一致していない (incongruent)」あるいは「比喩的 (metaphorical)」となる。このような、意味層と語彙-文法層での選択の不一致を「文法的比喩 (grammatical metaphor)」と呼び、特に出来事が名詞群として具現されるものを「名詞化」と呼ぶ。

名詞化を中心とした文法的比喩は、複雑な現象をひとつの記号的な物として扱える (Halliday 1993: 60) という利点ゆえに、特に学術表現に多用される。文法的比喩によって名詞化された現象は時間、場所、参与者などから切り離され、コンテキストと関係なく利用できるようになり (佐野2007)、さらに反駁が難しくなるため、議論が進めやすくなるという利点がある。しかし、そのいっぽうで、コンテキストとの関係が希薄になったり、出来事の因果関係が曖昧になったりして (Halliday 1993: 77)、理解が困難になるという問題もある。

語彙密度との関係で考えると、文法的比喩を多用したテキストでは、一般に語彙密度が高くなる。そのいっぽうで、利用される節の数は減少する。例えば、語彙密度の計測例で使用したテキスト b) には、名詞化表現が2つ利用されているが、この文を一致した表現にすると、例えば b') のようになる。

b) A person's overall chance of developing a skin cancer is related to their lifetime exposure to UV radiation.

b') If you are exposed to UV radiation for a longer time, you are more likely to develop a skin cancer.

3.1で計測したとおり、b)の節数は1、語彙密度は9.0である。いっぽうで、一致した表現のパラフレーズしたb)で利用されている節数は2、語彙密度は2.5である。

3.1での語彙密度と学生の理解度の調査結果、上述した名詞化の特徴、学生の名詞化表現に対する慣れを考慮すれば、文法的比喩を用いた表現のほうが、学生にとって理解が難しいと予測される。しかし、節の数が多くなり、節どうしの関係が複雑になれば、それだけ理解が難しくなることも十分に予測される。そこで、文法的比喩については、名詞化を用いた英文（オリジナル版）と名詞化を一致した表現になおした英文（パラフレーズ版）の正答率を比較することで、学生の理解度と名詞化と節どうしの関係の複雑さとの関係について検討する。その上で、節どうしの関係の複雑さと学生の理解度については、さらに次節（3.3）で検討する。

名詞化表現と学生の理解度の調査（調査4）は、本学1年生の様々な習熟度の学生54名（2クラス）を対象に実施した。調査では、クラスを無作為に2グループに分け、英文を日本語訳させることで英文の理解度を確認した。グループAの学生には名詞化の度合いが高いオリジナル版の英文（6文）を日本語訳するよう、グループBの学生には、グループAの学生に与えた英文をより一致した表現にしたパラフレーズ版の英文を日本語訳するように指示した。次に示す図4が、調査の結果である。

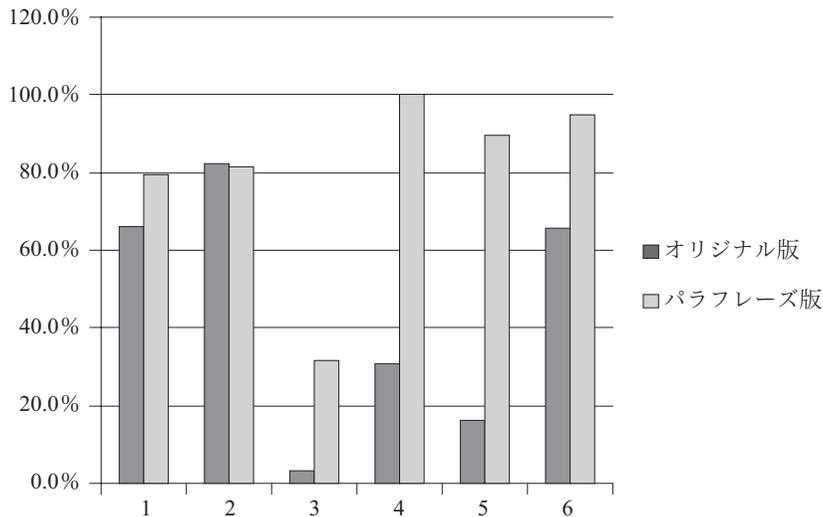


図4：名詞化表現と一致した表現の正答率

名詞化表現のテキストの平均正答率は44%、パラフレーズしたテキストの平均正答率は79.6%であった。平均正答率が35.6%向上しており、名詞化表現を一致した表現にパラフレーズしたことにより語彙密度が下がり、学生の理解度が向上していることがわかる。

名詞化表現を一致した表現にパラフレーズしたことにより、それぞれの英文の語彙密度は低下したが、そのいっぽうで、節の数は増加したため、節の複雑さは増加している。実際に、グループBに回答してもらった6文（パラフレーズ版）のうち3文はオリジナル版のものよりもそれぞれ利用されている節が2つ増加しており、2文についてはそれぞれ1つずつ増加している。それにもかかわらず、パラフレーズ版の正答率が高いのは、節が多い英文よりも語彙密度が高い英文のほうが、学生にとって理解しにくいことの証左であろう。

3.3 節どうしの関係**

Halliday (1989) によれば、話し言葉は、書き言葉に比べて複雑さにおいて劣るところはなく、話し言葉の複雑さは節どうしの関係を含む文法的複雑さによってたつところが多い。本稿での議論に照らし合わせて考えると、学生の理解度は別問題として、語彙密度と節どうしの関係の複雑さには、どちらがより複雑であるという違いはなく、単に複雑さの種類が異なるということになる。

2つ以上の節が1つの文を構成し、複雑さを増すには、節複合による場合と埋め込み節が利用される場合がある。節複合については、節どうしの相互依存性の度合いを示すタクシス (taxis) と、節どうしの論理-意味の関係 (logico-semantic relation) を同時に考える必要がある。タクシスは、節どうしが同じ地位で結合する並立結合 (parataxis) と節どうしに主従関係が生じる従属結合 (hypotaxis) がある。論理-意味的关系については、一方の節がもう一方の節を詳しく述べたり、情報を加えたり、修飾したりして拡充 (expansion) する場合と、think や say などの動詞群を用いて、考えや発言を投射 (projection) する場合は考えられる。したがって、節複合には、表1で示されるような4つのタイプが想定される。

表1：節複合の4つのタイプ

	並立結合	従属結合
拡充	例) I went out but Mary didn't.	例) Mary practiced guitar while I was out.
投射	例) I said to her, "You should go out."	例) She thought she should practice guitar.

節複合が節どうしの関係であるのに対して、埋め込み節は、節が節の構成要素である群の中で、ひとつの構成要素として機能する仕組みである (Halliday and Matthiessen, 2004: 426)。例えば、名詞群の構成要素として、埋め込み節は次の例文 d) のように利用される ([] で囲まれた部分が埋め込み節)。この例では、ones を主要部とする名詞群の後置修飾部として埋め込み節が利用されていることがわかる。

d) Anti-cancer drugs aren't the only ones [[that work differently depending on our genes]].

(Tromovitch and Kubota, 2007より抜粋)

以上、概観してきたとおり、節複合と埋め込み節は性質を異にするものであるが、ともに、利用することによって1文中の節の数が増え、文の複雑さが増すという点においては共通している。本節では、節複合のタイプと埋め込み節が学生の英文理解度とどのように関わるかを調査し、どのタイプを学生が理解しやすいのか、あるいはしにくいのかを評価する。

調査の対象は、平成23年度入学の本学1年生で、習熟度が低いクラスの学生25名である。3.1と3.2の調査と同様に、適宜語彙の意味を与えた上で英文を日本語に訳させる方法で、学生の英文理解度を測定した。学生に与えた英文は、節複合を利用したものでは、並立結合と拡充、並立結合で投射、従属結合で拡充、従属結合で投射の組み合わせを各2文（節は各文2つ）、埋め込み節を利用した英文（節は埋め込み節を含めて2つ）を2文、これらのパターンを無作為に組み合わせ、節を3つ複合させたものを2文の計12文である。3.1の調査から、習熟度が低いクラスの学生は、語彙密度が4.0になると正答率が5割以下になることが予測されるので、正答率にある程度ばらつきがでるよう、語彙密度が2.5から3.5の、比較的語彙密度が低い英文を出題した。

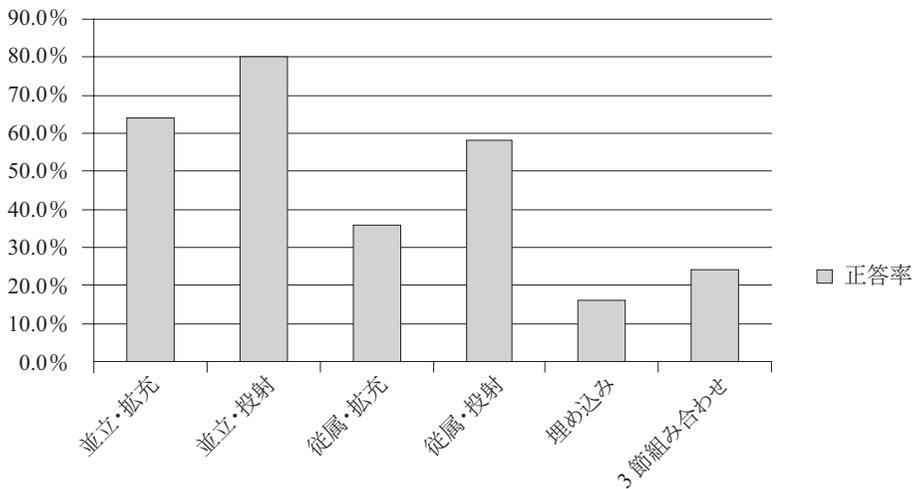


図5：節の複雑さのタイプと正答率

図5は、調査の結果を示したグラフである。最も正答率が高かった組み合わせは並立結合で投射のパターンで80%であった。次いで並立結合で拡充が64%、従属結合で投射が58%、従

属結合で拡充が36%、3節の組み合わせのパターンが24%、埋め込み節の利用が16%となった。この結果から、概して、節どうしの主従関係を考えなくて良い並立結合の節複合のパターンの正答率が高いことがわかる（並立結合の平均正答率は72%、従属結合の平均正答率は47%）。また、投射と拡充のパターンを比較すると、投射の正答率が高いことがわかる（投射の平均正答率は69%、拡充の平均正答率は50%）。節が3つ組み合わせられると、パターンによらず正答率が低くなることも確認できた。加えて、学生は埋め込み節（ここでは、いわゆる関係代名詞節）の理解がほとんどないことも確認できた。

この調査結果を当該クラスの授業に当てはめれば、例えば、並立かつ投射の節複合のパターンの文については、ほとんどの学生が理解していると考え、解説は最小限にとどめられることになる。また、埋め込み節を利用した文については、当該パターンが授業で初出の際に、特別に解説する時間を設け、練習問題などを通して知識の理解と定着を図る必要がある。

学生が長い文が苦手だとする考えは、ある意味では正しいが、単に長い文が苦手なのではなく、特定のパターンが苦手であることが、この調査で確認できた。学生が苦手な文のパターンを早期に確認することが効果的な指導につながると考える。

4. 考察

以上の調査により、1) 語彙密度の上昇と学生の英文の理解度の低下に一定の関係があること、2) 語彙密度の上昇に貢献している名詞化表現をいわゆる一致した表現にパラフレーズすることにより、学生の理解度が上昇すること、3) 節の複雑さによる文の理解しにくさには段階があることが確認できた。

語彙密度を教科書選択のひとつの基準として捉えた場合、あらかじめ学生が読める語彙密度が予測できれば、学生が無理なく読解力を養える教科書を選択できることが期待できる。また、授業に当たっては、受講者の多くが理解できる語彙密度を理解していれば、その語彙密度を超える箇所を集中的にしどろすることにより、より効率的に授業を進行することも期待できる。

線形近似をもとに、仮にクラス全体の平均値を指導の主たるターゲットにしたと考えた場合、本学英語基礎科目のコースに当てはめれば、基礎コースの場合は語彙密度が3から4程度、通常コースのクラスの場合は、語彙密度が4から6程度の教科書が適切だと言える。いっぽうで、中級コース、あるいは英語選択科目で読解を実施する場合には、語彙密度が6を下回る教科書では、受講する学生にとって易しすぎる可能性がある。

また、調査を通して、本学学生の英文読解力に関して、語彙密度以外に以下のような英文の

理解を妨げる要素が確認できた。ひとつは、学生の文法知識が必ずしも十分とは言えないことである。仮定法や文法項目が複合して用いられている英文（例えば、現在完了と受動態が用いられている英文）の場合、語彙密度の数値に関わらず、正答率が低くなることが確認できた。ふたつめは、語彙力の不足と不適切な辞書の使用法である。英文中に意味や用法がわからない語彙があれば、辞書で調べれば適切な英文理解に近づくのであるが、辞書の利用法が必ずしも適切とは言えず、英文の意味を誤解してしまう可能性が高くなる。

これらの問題がある場合、適切な語彙密度の英文を学生に与えたとしても、十分な学習効果を得ることは難しいと予想される。しかし、この問題は、事前に、あるいは授業中に適宜文法項目の解説と辞書の適切な活用法を学生に提供するという従来の指導法との組み合わせで十分に対応可能と考える。

また、多くの研究（例えば、Halliday, 1989; Hayakawa, 2004）で指摘されているように、文の複雑さには節どうしの関係も関係する。一般に、書き言葉のように十分に準備され、推敲されたテキストは語彙密度が高くなり、論理意味的關係を表す動詞群（be related to, cause など）が多用される。いっぽうで、話し言葉では語彙密度は低くなるが、節複合は複雑になる傾向にある。図4の調査では、節複合が複雑になるデメリットよりも語彙密度が低くなるメリットのほうが優位であることが確認された。また、図5の調査では、節複合と埋め込み節による文の複雑さには、パターンによって理解しにくさに段階があることがわかった。繰り返しになるが、多くの学生が理解できると考えられるパターン（図5の調査の場合には、並立・投射）には解説に時間を割く必要はなく、その分の時間をほとんどの学生が理解できないパターン（例えば、埋め込み節）に当てることで効果的に指導を行うことができる。

節の複雑さに関しては、大節（major clause）だけの調査を実施したが、実際のテキストには小節（minor clause）も含まれる。大節と小節とでは、理解の度合いに差が出ることが予測されるため、大節のみを利用した節と小節が含まれた節の学生の理解度についても、今後の課題となる。

5. まとめ

本稿の調査により、語彙密度が高くなり、名詞化表現の度合いが高くなると、学生の英文理解度が低下するという一般的な傾向が明らかになった。したがって、クラスのレベルに合った語彙密度の教科書が提供できれば、より適切なレベルでのクラス運営ができ、学習効果が上がることが期待できる。また、学生が理解しにくい名詞化表現については、教員がテキストを適切に解凍し、語彙密度を下げることで、学生の理解が高まることが期待できる。ただし、語彙

密度を下げてもより一致した英文にパラフレーズすると、一般に節の数が多くなる。節複合のしかたが複雑になると、パターンによっては学生の理解が困難になる可能性があるため、指導の際には十分な考慮が必要である。

本研究の調査結果はあくまで調査対象となったクラスでのみ有効である。学生の習熟度に合った指導をするためには、クラス毎に語彙密度と節どうしの複雑さの調査を実施し、学生の習熟度を把握することが重要である。なお、調査の際には、測定の対象以外の要素（例えば未修得の文法事項）による正答率の変化が予測されるため、同じ語彙密度や同じ節複合のパターンを複数用意することや、辞書の使い方をあらかじめ指導しておくなどの準備が必要である。

筆者は平成23年度の教養部英語授業で、本稿で提案した測定法を利用している。その教育効果については、まだ議論する段階には至っていないが、春学期あるいは秋学期終了時にアンケートや試験の結果で効果が確認できると考える。前述した小節の調査に加えて、追加調査を通して本稿での提案の妥当性を検討することも、今後の課題である。

注

* 本稿は、平成21年（2009年）11月に語学研究所研究発表会で発表された「学生が読める／読めない英文の測定法の提案——選択体系機能言語学の応用——」に大幅な加筆修正を加えたものである。本稿のもととなった研究発表では、多くの先生方から貴重なご助言やご意見を賜った。諸先生方には、ここに深く感謝の意を表す。

**本節は、語学研究所研究発表会で発表した際に、教養部英語教室の山口均先生からご指摘いただいた点をもとに追加調査を実施し、結果をまとめたものである。山口均先生には深く御礼申し上げる。

- 1) 平成23年度現在、一部の学部・学科を除き、学生の自己申告に基づいて、基礎コース・通常コース・中級コースの3コースの習熟度別クラス編成を実施している。
- 2) 本稿では、学生が辞書や文法書を用いて、教員の手助けなしで英文の内容が理解できることを「読める」とする。
- 3) 現実的には、意味や用法がわからない語彙や学生が不慣れな文法項目が理解の障害になることが想定できる。しかしながら、これらの問題は、本稿の目的から外れるため、学生が英和辞典や文法書を参照したり、指導者が学生に適宜情報を与えたりすることで解決できると仮定する。
- 4) SFLでは、書き言葉と書かれた言葉、話し言葉と話された言葉を明確に区別している。書き言葉と話し言葉は、語彙や文法のパターンの違いである。いっぽうで、書かれた言葉と話された言葉は言葉の伝達媒体の問題である。通常は、書き言葉と書かれた言葉、話し言葉と話された言葉と一緒に利用されることが多いが、例えば、対談集のように、書かれた話し言葉もある。
- 5) 内容語と機能語の分類については明確な基準はないが、研究者自身、あるいは、ひとつの研究で一貫した基準があれば問題はないとされている。例えば、本稿では代名詞、前置詞、冠詞などの他に使役動詞（make, have, get等）、数量を表す語彙（a lot of, much, small等）、分類を表す語彙（every, kind, all等）も機能語に分

類し、複合名詞 (skin cancer, TV program, UV radiation 等) は1語として数えた。

参考文献

- Halliday, M. A. K. (1989). *Spoken and Written Language*. Second edition. London: Oxford University Press.
- Halliday, M. A. K. (1993). 'Chapter 4: Some Grammatical Problems in Scientific English'. In Halliday, M. A. K. and Martin, J. R. (eds). *Writing Science: Literacy and Discursive Power*. London: Falmer Pres, 69–123. (Reprinted in M. A. K. Halliday (2005). *The Language of Science*. London: Continuum, pp. 69–85.
- Halliday, M. A. K. (1994). *An Introduction to Functional Grammar*. Second edition. London: Arnold. (山口登、笥壽雄 (訳) 『機能文法概説——ハリデー理論への誘い——』東京：くろしお出版、2001年)
- Halliday, M. A. K. and Matthiessen, C.M.I.M. (1999). *Construing Experience Through Meaning: A Language-based Approach to Cognition*. London and New York: Cassell.
- Halliday, M. A. K. and Matthiessen, C. M. I. M. (2004). *An Introduction to Functional Grammar*. Third edition. London: Arnold.
- Harrison, S. & Bakker, P. (1998). 'Two new readability predictors for the professional writer: pilot trials'. In *Journal of Research in Reading* Volume 21, Issue 2. pp. 121–138.
- Hayakawa, C. (2004). 'Lexicogrammatical Resources in Spoken and Written Texts'. In *JASFL Occasional Papers* Volume 3 Number1. pp. 5–42.
- 石川慎一郎、前田忠彦、山崎誠 (編) (2010) 『言語研究のための統計入門』東京：くろしお出版
- 佐野大樹 (2007) 「学術表現への言い換え——教育現場での選択体系機能言語理論——」日本語学2007年11月号
- 佐野大樹、丸山岳彦 (2008) 「システミック文法に基づく書きことばの複雑さ測定——日本語大規模コーパスを用いた語彙密度計測——」言語処理学会第14回年次大会発表論文集
- 龍城正明 (編) (2006) 『ことばは生きている』東京：くろしお出版
- 山口登「選択体系機能理論の構図」、小泉保 (編) 『言語研究における機能主義——誌上討論会——』東京：くろしお出版、pp. 3–47.

用例出典

- Tromovitch, P. and Kubota, M. (2007). *Listening to Health News: Selected Reports from the National Institutes of Health*. Tokyo: Kenkyusha
- 南村俊夫 他 (2010) 『Vivid Reading: New Edition』東京：第一学習社

Improving Language Acquisition Through Better Task Design

Glenn D. GAGNE

ABSTRACT

This paper will examine how teachers can help students more efficiently acquire language through different kinds of practice activities. A distinction will be drawn between day-to-day tasks used for teaching, and evaluative tasks used for testing.

To begin the paper will examine the nature of language acquisition as a skill. Then, it will examine three factors that contribute to effective language practice: success-orientation of tasks, the use of open-ended tasks and the use of creative repetition. Finally, it will end by presenting an example lesson plan.

1) The Nature of Language Skill Acquisition

Language acquisition follows a learning pattern similar to other skills. In the initial presentation and explanation of material, students learn the material and take it into short-term memory, but do not yet master or acquire it. The crucial second step in the acquisition process is the practice stage. During practice learners move what they have learned from short-term memory into long-term memory and become able to understand and produce examples of it with gradually lessening teacher support. (Ur, 1988, p. 11)

The teacher's most important duty apart from explanation of the language, is to design a set of interesting, motivational and challenging tasks for student practice. During the practice stage, it is useful for the teacher to see him or herself as a coach who sets out the goal and works with the students to achieve it. Only after sufficient training, should evaluation occur. In other words one need remember that, while testing fills a vital role in assessment and long-term planning, acquisition comes through repeated practice, not repeated testing. The next section will introduce ways to promote effective practice.

2) Factors That Contribute to Effective Practice

This section will review three factors that contribute to effective language practice: success-orientation of tasks, the use of open-ended tasks and the use of creative repetition.

2-1. Success-orientation

“Although ... correction of mistakes does contribute towards learning (on a conscious, intellectual plane), the kind of thorough, semi-intuitive absorption of material that we are aiming for in language teaching can only be achieved if, after mistakes have been eliminated, learners have plenty of experience ‘doing it right’.” (Ur, 1988, p. 12–13)

Success-orientation is a frame of mind that teachers should have and should promote in their classrooms. As Ur wrote in the above quotation, learners need to “have plenty of experience doing it right.” The first reason for this view is simply one of efficiency. Practice is most effective if it is based on successful performance. So, practice activities should be designed towards that end. The second reason for promoting a success-oriented frame of mind comes from the effect learner self-image has on acquisition. Successful task performance helps students develop a positive self-image as a language learner. If a student sees him or herself as just not being able to “get English,” then, the battle is nearly lost before it has begun. Furthermore, having a positive self-image as a language learner, leads students to having a positive image of the subject being studied. In short, if the students can succeed, they will like the way they appear to others and like English itself.

2-2. Open-ended Tasks

The next section will examine the difference between open-ended and close-ended tasks. To begin, an open-ended task is one which has a certain flexibility to it. An open-ended task allows for a wider variety of short or long answers and thus may be done by students at various proficiency levels. A close-ended task, on the other hand, is one which allows for little variety in student production, often having only one correct answer; an example being the multiple-choice question.

Open-ended tasks are quite advantageous for practice. Classes are often composed of students with quite different ability levels. By using open-ended tasks, weak students can be given a chance to produce something successfully, without adverse effects for high level students. This goes back to the previously mentioned point. More students will get more learning value out of successful practice at their own level, resulting in positive learner attitude and motivation overall.

Close-ended tasks are advantageous for evaluation; especially with large classes. They provide

quick, reliable feedback on learner performance. Multiple choice questions, for example, help teachers to quickly evaluate students. However, in mixed-level classes low level students are over-challenged and thus demotivated by failure, while high-level students are under-challenged and thus demotivated by the lack of need to exercise their true capabilities.

2-3. Creative Repetition

The third factor in promoting fruitful practice is creative repetition. In order to acquire a new language aspect, students need to encounter it again and again. However, mere repetition can be extremely boring and demotivating. In order to balance both interest and repetition the teacher must be creative. Three keys to creative repetition are progressive difficulty of tasks, variety of tasks, and instant feedback.

Progressive difficulty simply means that the tasks should move from easy to difficult so that students have a new challenge each time they encounter the language. Unfortunately, it is often easy to mistakenly put some very difficult tasks at the beginning. For example, some texts, when introducing new vocabulary, use quite difficult close-ended quiz-like tasks to review the vocabulary. Students who can not do the beginning task give up there.

Next, variety in sequencing task types is the spice of the classroom. While a certain amount of repetition of task type allows for rapid understanding, it is often too easy to fall into a boring routine.

Finally, instant feedback is one of the most important tools to make use of in the classroom. Giving students feedback on their production while they still want it improves motivation and retention.

3) Example Lesson Plan

The final section of the paper will present a set of tasks for introducing a story and practicing storytelling. The story chosen is an extremely shortened version of Jean Giono's story "The Man Who Planted Trees." which has been translated into multiple languages, including Japanese, from the original French, "L'Homme Qui Plantait des Arbres." It was also made into an Academy Award-winning short animated film in 1987. The version presented here was shortened to a length which can be sufficiently covered in a single sixty to ninety class period with even a low-intermediate level group. If the group is lower or higher than that, the story can still be done, with some changes in task-design. To begin, here is the story ...

The Man Who Planted Trees

A young man was hiking in The Alps when he came to an area where all of the trees had been cut. There were no birds. There were no animals. There was nothing, only dirt and rocks. It was an ugly place. It was a terrible place. So, he wanted to leave quickly. However, he saw something that made him stop.

What did he see? In the middle of this place there was an old man with a large sack on his back and a walking stick in his hand. The young hiker watched the old man as he made a hole in the ground with the stick, took an acorn out of his sack, put it in the hole and then covered it with dirt. He did this many times.

The hiker was curious. So, he approached the old man and asked, “What are you doing?” The old man explained, “I’m planting a forest! I’ve planted over 100,000 acorns. Even if only a tenth of them grow, that will still become a forest! You see, I want to do something useful in my final years!”

Thirty years later, the hiker returned to the same area. This time there were trees! There were birds! There were animals! There was even a small stream where before there was none.

Quietly, the hiker remembered that ugly place thirty years ago. Now it was beautiful ... because the old man had cared.

The first task is a very simple macro-listening task. The students are given a set of pictures which are in random order and are asked to number them in the correct order. Please see the illustration in Appendix 1.

If students are not able to determine the order after one listening, it can be repeated, more slowly with hints if possible. As was written earlier, tasks should be success-oriented, so students will gain confidence for the the more difficult tasks ahead. During the second listening, a list of basic comprehension questions should be provided, such as: “What was the young man doing in picture one?” “What did the place look like in picture two?” “Describe what he saw in picture three.” These questions should be fairly open-ended and thus capable of being answered to varying degrees of complexity by different levels of students.

After the students understand the basic story it is time to move on to details. One successful approach for introducing detail-focused questions is not to give the students the questions in written form, but rather to orally dictate them while allowing students to work in groups to understand them. In this task, understanding what the questions are, not the precise wording of the questions is most important. This task allows lower level students to understand the questions, while providing higher level students with more of a challenge. Depending upon the level of the class, this can be a good opportunity to help students

improve their skills at picking out slurred words in spoken speech. For example, the question, “What did the old man have in his hand?” could be read, “*Whad’da olman av in iz hand?*” For lower level students, some amount of gesturing may be required, but eventually they will understand and will have succeeded in something new. After students generally understand, writing the question on the board, after a short pause, allows for instant feedback. Continuing on with another example, in this story, an interesting detail-based question to ask is, “How many acorns had the old man planted?” It is interesting because students can often hear “one hundred thousand” but have a hard time writing that out as a number. This is because, they often do not hear it as a number, but as a foreign word. So, in this case it is good to have students review both forms by having them write the answer in numeral form on paper, but say, “one hundred thousand.” A third type of detail-based task is to dictate of one or two of the most important sentences in the story. Though this is fairly close-ended, is necessary so that some students do not miss what for the teacher may seem fairly obvious.

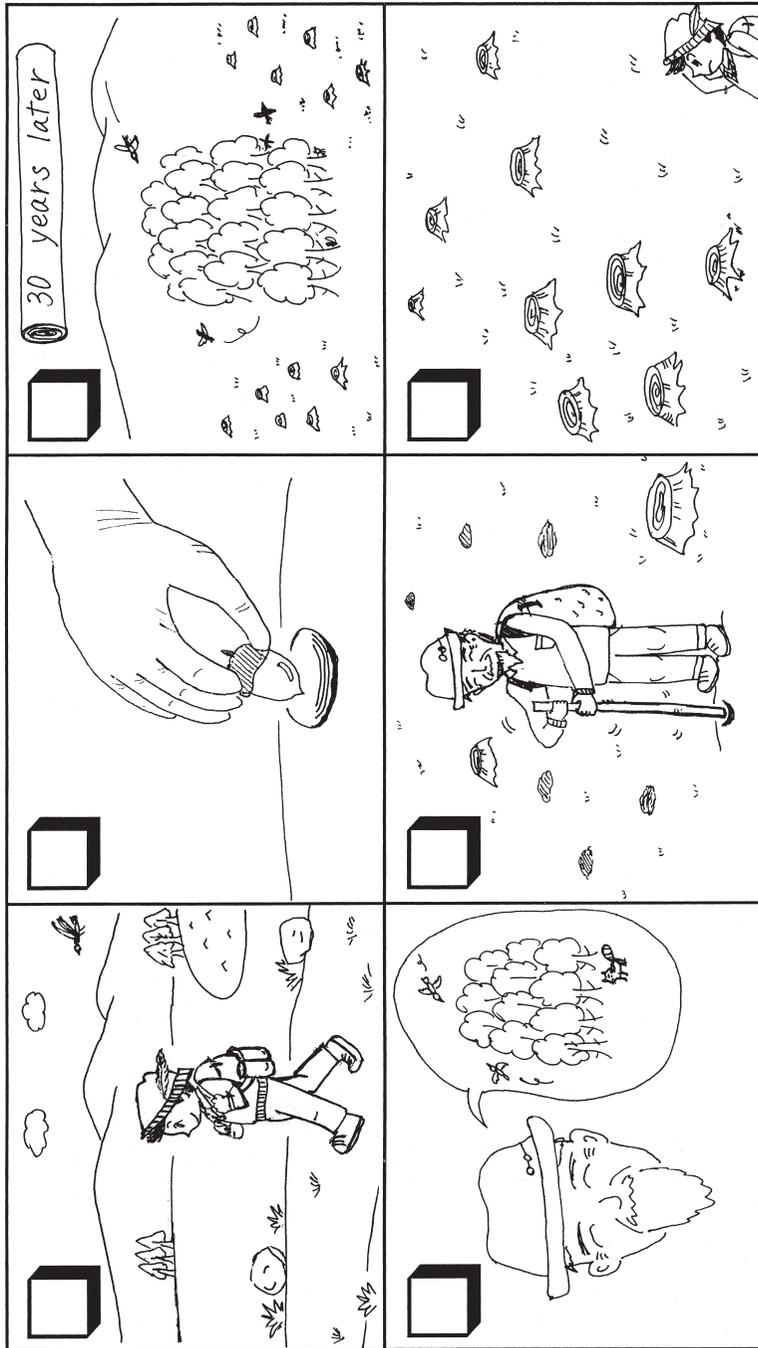
Finally, as a concluding activity, students can be asked to retell or rewrite the story, either as the storyteller or as if they were the hiker. This task provides both review and closure at the same time. Although it is a high-level task, because it is open-ended, it allows low-level students as well as high-level students to succeed. Everyone should be able to present, to varying degrees of proficiency, what they learned as their own creation. That final presentation can also then be used as an evaluative tool.

Conclusion

By focusing on giving students tasks that promote extensive, successful language practice, educators can give students the chance to both learn and acquire many new things in classroom time. In many ways, evaluation is the easier part of teaching. Only by going beyond the test mentality, we can really begin to educate.

Appendix 1

Write the order in the small boxes.



References

- Back, Frédéric (1987) *The Man Who Planted Trees*. (in French: *L'homme qui plantait des arbres*). Radio-Canada.
- Giono, Jean (1954). *The Man Who Planted Hope and Grew Happiness*. New York: Vogue.
- Giono, Jean (1985). *The Man Who Planted Trees*. White River Junction, Vermont: Chelsea Green Publishing Company.
- Greenall, Simon (1995). *Preparing Your Own Listening Materials*. Matsuyama, Japan: 1995 JALT Conference.
- Krashen, S. D. 1982. *Principles and Practice in Second Language Acquisition*. Oxford: Pergamon.
- Ur, Penny (1988). *Grammar Practice Activities*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Ur, Penny (1984). *Teaching Listening Comprehension*. Cambridge: Cambridge University Press.

大学生における飲酒行動と態度に関する研究

北 田 豊 治

I. 目 的

過度の飲酒やアルコールに付随する様々な問題は世界中に拡がりを見せている。青少年の喫煙や飲酒は、発育発達に悪影響を与えるだけでなく、将来的に様々な危険行動へのリスクを高めることが報告されている¹⁾。また、その危険性は早期から継続的に行っているほど高いことも指摘されている²⁾。

現在の健康づくりは積極的な一次予防の推進が重視されている。日本においては未成年者の飲酒は法律により禁止されているにも関わらず、飲酒の風習は社交の面でも、儀式的面でも、社会生活を営むうえで切り離せないものとなっている³⁾。未成年者の飲酒に対する保護者の態度として「絶対に飲ませない」は7.1%であり、「少しだけなら良い」、「大人と同様に良い」と考えている保護者が77.3%であることが報告されており、飲酒における寛容さが示唆されている⁴⁾。日本の高校生対象の全国調査における飲酒経験者は男子85.6%、女子80.9%と報告されている⁵⁾。Kandel⁶⁾はアメリカの高校生が最初に手を染める薬物として、たばこ、ビール、ワイン、強い酒、大麻をあげている。日本の高校生では、酒とたばこ、これから有機溶剤に至る経路に注意を払う必要があることが指摘されている⁷⁾。

体内に入ったアルコールは、肝臓でアルコール脱水素酵素 (ADH) によってアセトアルデヒドに変えられ、アセトアルデヒドは、さらにアセトアルデヒド脱水素酵素 (ALDH) によって酢酸に変化する。ALDH には 2 種類あって、反応速度が遅く、アルデヒド濃度の高い条件で働く I と、反応速度が速く、処理能力の高い II とがある。ALDH I は、すべての人が持っているが、ALDH II は持っている人と持っていない人がいる (アジア系は ALDH II を持たない

率が高く、ヨーロッパ系は低い)。ALDH IIを持たない場合には、体内にアセトアルデヒドが溜まるため、少量の酒を飲んだだけでも顔が赤くなったり、吐き気や頭痛などの症状が現れる。したがって、このような人は酒に弱いということになる⁸⁾。

Bandura⁹⁾は、人間が行動を起こす先行条件として結果予期と効力予期という二つの認知を想定している。結果予期とは、自分がその行動を実行した場合どのような結果が得られるかという予想である。これに対して効力予期とは、自分がその行動をどの程度効果的に実行できるかという自信であり、自己効力感ともよばれている。これまでのセルフエフィカシーの研究では、ウェイトコントロール、アルコール依存症や運動行動などさまざまな保健行動を予測する指標となりうるということが報告されている^{10), 11), 12)}。

本研究は、愛知県内の4年制大学大学生を対象に日常の飲酒態度や飲酒に関連する行動について調査を行った。また、エタノールパッチテストを実施し、アルコール耐性の違いと飲酒行動の関連性について検討し、飲酒と健康を考えるうえでの基礎資料を得ることを目的とした。

II. 方法

調査対象者は愛知県内の4年制大学の学友会（運動系クラブ、文化部クラブ）に所属するリーダーの学生88名（男性71名、女性17名）であった。調査は大学学生課主催のリーダーシップトレーニング講習会中の「飲酒と健康」の講義の中で行った。調査項目は飲酒量と飲酒頻度、飲酒に関連した行動、飲酒に対するイメージなどとした。アルコール摂取量についてはアルコール度数から純アルコール量に換算した^{13), 14)}。また、アルコール耐性をみるためにエタノールパッチテストを行った。調査は集合調査法により行い、アルコール耐性についての判定は口頭で対象者に説明した後実施した。エタノールパッチ絆創膏を上腕の内側に貼り、7分後にはがした時の皮膚の状態を観察して判定し、ALDH2正常型（以下「酒に強い体質群」とする）とALDH2部分欠損型・完全欠損型（以下「酒に弱い体質群」とする）に分類した。統計処理には χ^2 検定、分散分析を用い多重比較を行った。統計プログラムパッケージ PASW Statistics 17.0を用い、いずれも5%を有意水準とした。

III. 結果

1. 飲酒の実態

「全く飲まない」と回答したものは全体の10.2%であった。定期的に飲酒するもの（「よく飲む、時々飲む」で以下「定期飲酒群」とする）は全体の61.4%（男性63.4%、女性52.9%）で

あった。非飲酒群（「まったく飲まない、あまり飲まない」は全体の38.6%であった。両親の定期的飲酒については父親80.6%、母親44.9%であった。定期飲酒群は非飲酒群よりも、「母親の定期的飲酒」の割合が高いことが示された。父親の飲酒との間には関連が見られなかった。

初飲年齢は「中学生」、「高校生」が高く、大学に入学してからと回答したものは13.6%であった（図1）。初めての飲酒相手は「親」、「友人」の順で高かった（図2）。

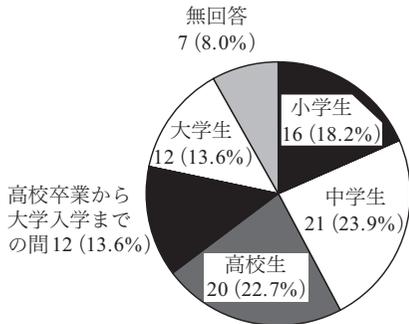


図1 初飲の時期 (n=88)

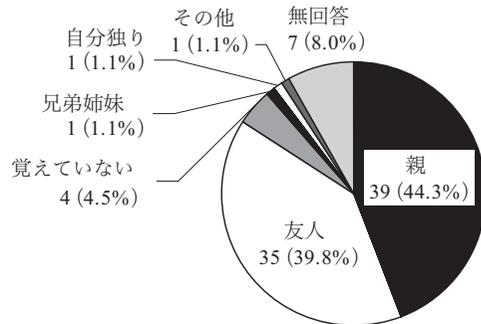


図2 初飲の相手 (n=88)

初飲の理由として「興味本位」が60.0%と最も高く、ついで「卒業・入学を機に (22.5%)」であった。

普段の飲酒場所としては「居酒屋」が51.9%と最も高く、飲酒の機会としては「友人づきあいで」が78.8%と最も高く、学生は友人と集団で飲酒する傾向がみられた。

よくある飲酒の理由として高かったものは「友情を深めるため」、「思い切り騒げるから」であった。コンパなどに参加する場合は「一次会で帰る」は26.3%であり、「とことん最後まで」が60.0%と高かった。とくに定期飲酒群においては「とことん最後まで」が79.2%と非飲酒群の22.2%よりも高かった。

定期的に飲酒している大学生の一回の飲酒量（純アルコール）の平均値は36.5±20.0gであり、飲酒頻度と比べると、飲酒頻度の高い方が一回の飲酒量も多くなる傾向がみられた。

一気飲みについては全体の75.3%が経験しており、定期飲酒群（84.0%）が非飲酒群（59.3%）よりも高いことが示された。全体の82.1%が一気飲みは悪いことであると認識しているものの、一気飲みをするような雰囲気になった場合には47.4%の者が「人付き合いの関係上仕方なく飲む」と回答した。定期飲酒群の47.1%が「できればやりたくない」と回答した反面、45.1%の者が「たまにならやってみよう」とも回答しており、定期飲酒群は理解しているながらも周囲の雰囲気に流されている様子が見られた。非飲酒群においては「できればやりたくない」と回答し

たものの割合が84.6%と高かった。

エタノールパッチテストの結果、アルコール耐性の低い者いわゆる「酒に弱い体質群」は全体の43.2%であった。酒に弱い体質群のうち「酒に弱い体質である」と自覚していた者は92.1%であった。酒に弱い体質でありながら「酒に強い体質である」と極めて危険な認識をしている者は酒に弱い体質群の7.9%、対象者全体では3.4%であった（表1）。

表1 アルコールに対する自己認識とアルコール耐性

	アルコールに対する自己認識		合計
	弱いと思う	強いと思う	
酒に弱い体質	35 (92.1)	3 (7.9)	38 (100.0)
酒に強い体質	24 (48.0)	26 (52.0)	50 (100.0)
全体	59 (67.0)	29 (33.0)	88 (100.0)

人数 (%)

2. 飲酒に対する態度

定期飲酒群においては47.2%のものが「医師や看護師など健康教育に携わる職の者は、アルコールを飲みすぎるべきではない」と考えていたが、非飲酒群においては62.9%であった。飲酒が健康に及ぼす影響については悪い面の方が多いと考えているものが全体の56.8%であった（表2）。

表2 飲酒が及ぼす健康への影響

	健康への影響		合計
	悪い面の方が多い	良い面の方が多い	
定期飲酒群	28 (51.9)	26 (48.1)	54 (100.0)
非飲酒群	22 (64.7)	12 (35.3)	34 (100.0)
全体	50 (56.8)	38 (43.2)	88 (100.0)

人数 (%)

自分の限界量を知っているかどうかを尋ねたところ、飲酒限界量を知っていると回答したものは全体の53.4%であった。「定期飲酒群」(47.2%)よりも「非飲酒群」(62.9%)の方が限界量を知っているものの割合が高いことが示された ($p<.01$)。泥酔経験の有無については全体の61.7%が経験しており、「定期飲酒群」の方が「非飲酒群」よりも泥酔経験者が多いことが示された。

飲酒することにより、どのような結果が得られると思うか（結果予期）について尋ねたところ、飲酒頻度が低いものは肯定的結果予期が低い傾向があり ($F=2.30$, $df=3/83$, $p<.1$)、否定

的结果予期は高いことが示された ($F=3.49, df=3/83, p<.05$)。一方飲酒頻度が高いものは、肯定的結果予期が高く、否定的結果予期が低いことが示された。すなわち、普段酒を飲まないものは酒を飲むことが自分にとって良い結果よりも、悪い結果をもたらすと考えていることが示された (図3)。酒を飲み過ぎないという自己効力感について尋ねたところ、飲酒頻度が低いものほど、自己効力感も高くなることが示された。すなわち、酒をよく飲むものよりも、酒を飲まないものの方が飲み過ぎないという自信感、いわゆる自己効力感が高いことが示された ($F=4.42, df3/83, p<.01$) (図4)。

飲酒に対するイメージとしては定期飲酒群の方が「明るい」、「陽気な」、「楽しい」、「やわらかい」といった肯定的なイメージを持っていることが示された (図5)。

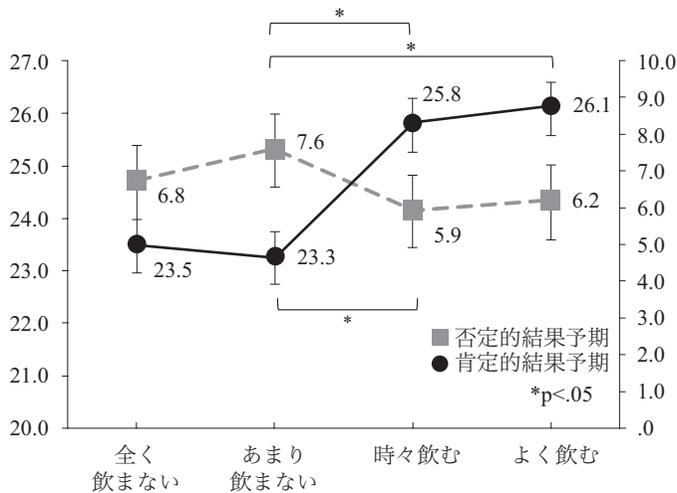


図3 飲酒に対する結果予測 (否定的結果予期と肯定的結果予期)

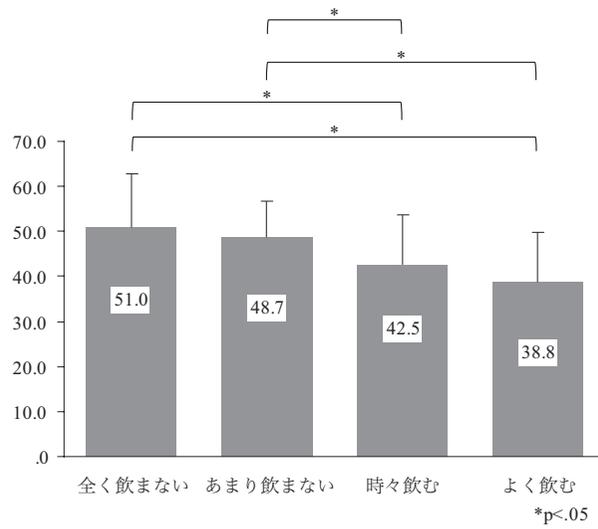


図4 Self-efficacy (酒を飲み過ぎない)

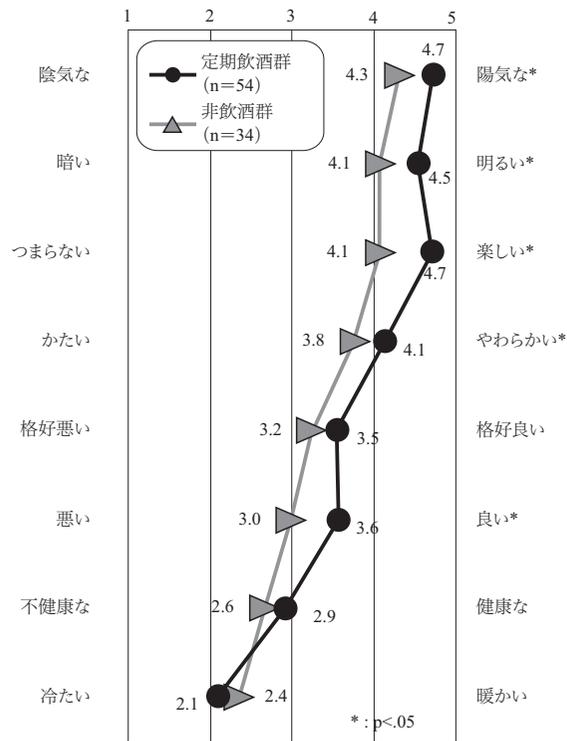


図5 飲酒に対するイメージ

IV. 考 察

飲酒のきっかけについては先行研究においても「興味から (46.0%)」、「友人に勧められて (31.1%)」がその理由の上位にあるといわれている。また「親に勧められて」も22.3%であり、日本人の飲酒に対しての寛容さが示唆されている。本調査における純アルコール摂取量 (36.5 ± 20.0g) は、ビール (350ml 缶) 約2缶分に相当しており、石田ら¹⁵⁾の調査とほぼ合致していた。国民健康づくり運動 (健康日本21) では目標値として、「1日に平均純アルコールで約60gを越え多量に飲酒する人の減少」、および「節度ある適度な飲酒としての1日平均純アルコールは約20g程度であるという知識の普及」を挙げている¹⁶⁾。

大学生の中には高校時代にエタノールパッチテストを受けたものもいるが、多くの学生は自己の体質がわからないまま飲酒していることが指摘されている¹⁷⁾。アルコールパッチテストは、皮膚につけると皮膚にあるカタラーゼによってアルコールが酸化され、アセトアルデヒドが生成する。皮膚が赤くなるのは、アセトアルデヒド脱水酵素IIの活性が低いか、欠損しているためにアセトアルデヒドの蓄積で毛細血管が拡張するためである。アセトアルデヒド脱水酵素IIの活性が高い場合にはアセトアルデヒドは早く代謝されるので皮膚は赤くならない¹⁷⁾。大学生を対象とした調査ではアルコール耐性の低い者が45.0%¹⁸⁾、医療系学生を対象とした49.2%¹⁹⁾、43%¹⁵⁾との報告があり、本調査は先行研究とほぼ同分布であった。また、エタノールパッチテストとアルコール耐性の自己認識については、酒に弱い体質でありながら「酒に強い体質である」と極めて危険な認識をしている者は対象者全体の3.4%であり、先行研究¹⁹⁾よりも若干低値を示した。

初飲年齢については15.5歳¹⁷⁾という報告があり、小学校卒業までに51.5%、中学校卒業までに78.7%が飲酒経験を有しているともいわれている⁴⁾。より早期に喫煙や飲酒を経験した者は、その後の青年期や成人期においてそれらの頻度や量が重篤化しやすいといわれており^{2), 20)}、久保ら¹⁾は高校生対象の全国調査において飲酒の早期経験者は、喫煙やシンナー乱用、性交のみならず、朝食欠食、シートベルト非着用、暴力行為、自殺願望なども出現しやすいと指摘している。

先行研究における大学生の飲酒者の割合は91.2%¹⁷⁾、90.8%⁴⁾、93.4%¹⁵⁾、88.4%²¹⁾であった。大学生の飲酒場所には「居酒屋」が多いことが報告されており⁴⁾、朝野ら¹⁸⁾は無所属の大学生よりも部活やサークルに所属している学生は、飲酒頻度がやや多い傾向を示したことを報告している。また、飲酒は「仲間と賑やかに」と考えている大学生が多いことも報告されている³⁾。本調査はほぼ先行研究を支持する結果となった。社交的であり仲間関係を構築しやすい者は、飲酒の誘いを断る自信をもち、飲酒を断ることができるようになるともいわれている^{22), 23)}。

定期飲酒者の一気飲みについては先行研究 (65.1%)⁴⁾よりも高い割合であることが示された。急性アルコール中毒の要因として一気飲みが非常に危険な行動であることは多くの研究で報告されている^{24), 25), 26)}。大学生の特徴として、一気飲みは全体の7割以上が経験しており、8割以上のものが悪いことであると認識していた。Rabowら²⁷⁾は、大学生生活上の集まりなどで飲酒しない学生は、何度もアルコールを勧められ、飲酒しないことについて友達にからかわれたり、劣等感を持つと指摘している。本調査においては、一気飲みはできればやりたくないものの、一気飲みをするような雰囲気になった場合には、付き合い上仕方なく飲む状況が多いことがうかがえた。

Bundula⁹⁾は社会的学習理論において人間の行動を規定する要因として、先行要因、結果要因、認知要因の3つを提唱している。自己効力感とは、ある具体的な状況において適切な行動を成し遂げられるという予期、および確信である。先行要因は結果予期 (efficacy expectancy) と効力予期 (outcome expectancy) の2つに区分されており、結果予期とはある行動がどのような結果を生み出すのかという予期である。効力予期は、ある結果を生み出すために必要な行動をどの程度うまく行うことができるのかという予期であり、この概念を self-efficacy とよび、行動決定要因として重視している。本研究においては普段飲酒していないものの方が「酒を飲みすぎない自信がある」割合が高いことが示された。飲酒しない者は定期飲酒者と比べて、飲酒することは自分にとって良い結果よりも、悪い結果をもたらすと考える傾向にあることが示唆された。

以上のことから、飲酒する際には自分のアルコールに対する体質を知ることがもとより、自分自身の適量をしっかりと把握する必要があると考える。飲酒頻度については活気や活気を介した衝動性と関連しており、気分の高揚を飲酒以外の行動へつなげていくことの必要性が指摘されている²⁸⁾。飲酒の予防対策のうち (特に一気飲み)、知識の注入のみならず、悪い誘いを断るスキル、認知・態度・信念といった個人の心理的要因にも着目したソーシャルスキルトレーニングプログラム介入の必要性が示唆された。

本研究の一部は20th IUHPE World Conference on Health Promotion (2010 Geneva) にて発表した。

文献

- 1) 久保元芳, 野津有司, 佐藤 幸ほか: 我が国の青少年における早期の喫煙, 飲酒の初回経験と高校生時の危険行動の複数出現との関連. 学校保健研究 50: 123-136, 2008.
- 2) Takakura M, Wake N: Association of age at onset of cigarette and alcohol use with subsequent smoking and drinking patterns among Japanese high school students. Journal of School Health 73: 226-231, 2003.

- 3) 田中美苑：飲酒意識に関する調査研究. 山梨英和短期大学紀要：93-114.
- 4) 長島和子, 荒波早苗：若者のアルコール摂取教育に関する一考察—高校生・大学生を対象としたアンケート調査をもとに—. 千葉大学教育学部研究紀要48：123-130, 2000.
- 5) 野津有司, 渡邊正樹, 渡部 基ほか：日本の高校生における危険行動の実態および危険行動間の関連—日本青少年危険行動調査2001の結果—. 学校保健研究48：430-447, 2006.
- 6) Kandel DB: Stages in adolescent involvement in drug use. *Science* 190: 912-914, 1975.
- 7) 三好美浩, 吉本佐雅子, 勝野眞吾：高校生の喫煙, 飲酒, 違法薬物乱用の実態：薬物乱用におけるライフスタイルの危険因子及び保護因子を検討する. 学校保健研究50：426-437, 2009.
- 8) 今井めぐみ：アルコールの酸化とアルコールパッチテスト. 化学と教育40, 801, 1992.
- 9) Bandura A: Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change. *Psychological Review*, 84, 191-215, 1977.
- 10) Bernier M, Avard J: Self-efficacy, outcome, and attrition in a weight-reduction program. *Cognitive Therapy and Research* 10: 319-338, 1986.
- 11) DiClemente CC, Hughes SO: Stages of change profiles in outpatient alcoholism treatment. *Journal of Substance Abuse*: 217-235, 1990.
- 12) 北田豊治, 飯倉修子, 李応吉吉ほか：中高年における健康づくり行動の要因分析. 民族衛生63：88-304, 1997.
- 13) 鈴木英明, 小菅優子, 小丸圭一ほか：若年層におけるアルデヒド脱水素酵素2遺伝子型とアルコール摂取習慣. 生物試料分析25：27-332, 2002.
- 14) 文部科学省科学技術・学術政策局政策課資源室：五訂増補日本食品標準成分表. 科学技術・学術審議会・資源調査分科会報告書, 2005.
- 15) 石田静乃, 塚原丘美, 岡田希和子ほか：大学生のアルコールに対する体質の自覚とアルデヒド脱水素酵素2遺伝子型 (ALDH 2). 名古屋学芸大学研究紀要. 教養・学際編3：99-108, 2007.
- 16) 健康日本21企画検討会：日本における国民健康づくり運動 (健康日本21) について報告書. 厚生労働省, 2000.
- 17) 加藤春子：学生の飲酒に関する意識. 人間福祉研究7：145-153, 2004.
- 18) 朝野 聡, 土肥啓一郎, 数馬広二ほか：工学院大学共通課程研究論叢44：87-97, 2006.
- 19) 谷本千恵, 村山正子：大学生の飲酒行動と意識. 富山医科薬科大学看護学会誌1：35-48, 1998.
- 20) Grant BF, Dawson DA: Age at onset of alcohol use and its association with DSM-IV alcohol abuse and dependence: results from the National Longitudinal Alcohol Epidemiologic Survey. *Journal of Substance Abuse* 9: 103-110, 1997.
- 21) 柴田真理子, 開道多恵子, 清水文恵ほか：性別・年代別飲酒量と肝機能検査値との関連. 藍野学院紀要15：35-40, 2002.
- 22) Shore ER, Rivers PC, Berman JJ: Resistance by college students to peer pressure to drink. *Journal of Studies on Alcohol* 44: 352-361, 1983.
- 23) Klein H: College Students' Attitudes toward the Use of Alcoholic Beverages. *Journal of Alcohol and Drug Education* 37: 35-52, 1992.
- 24) 玉井博修：アルコールとからだ. からだの科学192：20-24, 1997.
- 25) Sales J, Duffy J, Plant M et. al: Alcohol consumption, cigarette sales and mortality in the United Kingdom: an analysis of the period 1970-1985. *Drug and Alcohol Dependence* 24: 155-160, 1989.
- 26) CC Johnson, L Myers, LS Webber et al.: Alcohol consumption among adolescents and young adults: the Bogalusa

Heart Study, 1981 to 1991. *American Journal of Public Health* 85: 979–982, 1995.

27) Rabow J, Duncan-Schill M: Drinking among college students. *Journal of Alcohol and Drug Education* 40: 52–64, 1994.

28) 安藤美華代：未成年大学生における飲酒と心理社会的要因の関連. 岡山大学大学院教育学研究科研究集録 143 : 47–55, 2010.

温暖化と私たちの未来

清 忠 師

以下の原稿は、2010年11月に放送された、愛知学院大学放送公開講座の収録用原稿です。アナウンサーの森田さんとは面識がなかったので、人物像を仮定して原稿を仕上げました。2010年9月に2回に分けて行われた収録の際には、森田さんのアドリブに合わせて話をしたので、そのまま読み上げてはなりません。内容について詳しくお知りになりたい場合は、放送に先立って2010年6月に行った公開講座での配布資料に参照文献や図が示してありますので、愛知学院大学公開講座係にお問い合わせください。

〔放送1回目：温暖化の原因と予想〕

森田：今年の夏は暑かったですね。温暖化が進んでいるということでしょうか？

清：日本と同程度の温暖化が予想されているミャンマーでは、今年の3月～5月にかけて最高気温の記録を更新し、5月12日には、38℃を超える日が45日間も続いた南部にある国内最大の都市ヤンゴンの最高気温が42.5℃に達したそうです。中部のマンダレーという都市では45.0℃、首都ネピドーでも44.0℃となり、記録が残っている27年間で最高となりました。ヤンゴンでは、昨年11月以来半年の間まったく雨が降らず、水不足が深刻になっていました。水力発電の出力が下がって、停電が頻発していたそうです。5月末の asahi.com ニュースでこうした状況を知って、日本でも同様の事態が起きるのではないかと、心配していました。

森田：ミャンマー程ではなかったが、温暖化の傾向は共通していたということですね。温暖化の原因は何ですか？

清：温暖化の仕組みは後程ご説明しますが、温暖化の根本的な原因は、人口の爆発的な増加で

す。イギリスで第1次産業革命がおこった1750年ごろから加速度的に人口が増加し始め、1950年に25億人だった人口は、2009年には68億人に達し、現在は、年間8千万人の割合で増加しています。

森田：年間8千万人ということは、40年後には100億人を超えるということですね。

清：天井知らずに跳ね上がっていく人口増加のグラフを見ると、恐ろしくなります。地球という限られた環境の中で水と酸素の消費者である人の数が増え続ければ、水不足や二酸化炭素の増加は避けられません。

森田：地球上で生存できる人の数は、いったい何人なのですか？ まだ私たちは人口増加を続けることができるのでしょうか？

清：名古屋大学の気水科学研究所の所長だった故武田^{たかお}喬男先生が、数年前に愛知学院大学で行った講演で、「人口は、今世紀中に100億人に達し、その後、水不足によって30~40億人減少するだろう。」とおっしゃっていました。水という生命活動に不可欠な資源の量からは、現在でもやや過剰な人口ということになります。

森田：この頃、水ビジネスという言葉をよく聞くのは、水不足の現れですね。食べ物も不足して来るのではないですか？

清：爆発的に増加している人類の食を支える方法として導入されている画一化された大規模な農業や畜産業は、よく管理された条件では効率的である半面、環境の変化に敏感です。人にとって都合の良い性質をもった生物だけを選び出すので、生物が本来持っている多様性が失われます。このために、一度に全部がダメになる危険が増します。

森田：私たちの食を支えている工業化された農業や畜産業が、種の絶滅の危機を作り出しているということですか？

清：輸入されたミツバチの3割以上が失踪して果樹の受粉作業に支障をきたしているのは、養蜂業者ができるだけ多くの蜂を生産するために蜂を手厚く保護して育成するので、本来淘汰されるべき弱い蜂が大量に生き残ってしまい、それらが環境の変化で死滅しているという指摘があります。

宮崎県の口蹄疫の拡大では、肉質が良くて育ちが早いという特徴を持つ同じ血統の牛を1か所で大量に飼育しているのですから、1頭が体調を崩して感染すると、たちまち感染が広がってしまいます。

森田：生物多様性を維持するような生き方を模索する必要があるそうですね。温暖化の仕組みについて教えていただけますか？

清：温暖化は、地球の大気が、太陽からやってくる可視光線はよく透過する一方で地表から宇宙空間に放射される赤外線は吸収してしまう成分（温室効果ガス）を、僅かに含んでいるため

に起こります。いっぱい受け取って少ししか返さないから、熱がたまっていくという仕組みです。

森田：僅かには、どのくらいですか？

清：体積比で、大気全体の1パーセントにもなりません。

森田：たった1パーセントで、どの位効果があるのでしょうか？

清：太陽からやってくる光のエネルギーから現在の地表の平均温度を計算すると -18°C にかなりませんが、1961年から1990年までの地表付近の平均気温は 15°C であり、 33°C も平均気温を高めています。

森田：ほんの少し温室効果ガスがあるだけで、ずいぶん違うものですね。

清：太陽は、46億年前からゆっくりと輝きを増しています。地表の温度上昇に換算すると10億年で 7°C ずつの割合になりますから、もし温室効果がなければ、今から20億年以上前の地表の温度は 0°C 以下だったことになり、生物は存在できなかったはずですよ。今から36億年前から地球に生命が存在できたのは、二酸化炭素などの温室効果ガスが、水が凍ってしまわないように地球を暖め続けてくれたおかげです（暗い太陽のパラドックス）。

森田：温室効果ガスのおかげで、太陽が暗かった36億年前から地球の生命が維持されてきたのですよ。地球の大気に含まれている主要な温室効果ガスは何ですか？

清：水蒸気、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、オゾン、フロン類などです。

気温によって大気中の濃度が変わる水蒸気を除くと、過去200年間では、温室効果の6割を二酸化炭素がもたらしてきました。近年増加が著しいメタン、一酸化二窒素やフロン、代替フロンは、同じ体積で比較すると二酸化炭素よりもはるかに温室効果が高いので、21世紀には、これらのガスが温室効果の5割以上をもたらすと予想されています。

森田：フロンは、冷蔵庫の冷媒やヘアースプレーなどに使用されてきた、有害な紫外線を吸収してくれている上空のオゾン層を破壊してしまう物質ですね。代替フロンとはなんですか？

清：フロンの代用品として開発された代替フロンは、塩素を含まないのでオゾン層を破壊することはありませんが、フロンと同様に化学的に安定な物質です。このため、長期間にわたって大気中に残存し、同じ体積の二酸化炭素の数千倍の温室効果を示し続けます。

1997年に採択された京都議定書では規制対象から除外されましたが、工場などでの使用量が急増しており、2008年に行われたカリフォルニア大学の研究によると、従来の推定値の3倍も大気中に蓄積されているそうです。

森田：フロンと同じように、大気中に蓄積されやすいのですよ。二酸化炭素の数千倍の温室効果とは、具体的にはどの程度なのでしょう？

清：代替フロンの8割は埃飛ばし用に使われており、一般市民向けにも埃飛ばしスプレーとし

て販売されています。スプレー缶の側面に赤字で書かれた「地球温暖化ガス」の表記は、1缶使うと21型のブラウン管テレビを毎日4時間、22年間にわたって使った時の二酸化炭素排出量に相当する温暖化をもたらすほど有害だということを意味しています。

森田：そんなに有害なのに、使用量の8割を占める用途に回収が義務付けられていないのは、温暖化防止に逆行していますね。

ところで、寒いよりは暖かいほうが好きという人も多いと思いますが、現在進行している温暖化が問題視されるのはなぜですか？

清：約1億年以前の火山活動が盛んな時期には、地下から噴き出した大量の二酸化炭素によって、地球の平均気温は現在より6～14℃も高くなっていました。南極や北極の氷は溶け、海水準の上昇によって陸地の面積は現在の6～8割ほどに減少していましたが、植物は高い二酸化炭素濃度によって光合成を盛んに行い、地球は多様な生命にあふれていました。つまり、温暖化の本質的な問題は、その気温の高さではなく、温暖化の速さにあります。

森田：どの位の速さなのですか？

清：これまでに地球の生物が経験してきた最も早い温度上昇が100年に0.08℃であったのに対して、ここ100年間の温度上昇は0.74℃であり、年々その上昇率が増加しています。生物の適応能力を超えた温度変化の速さにより、多くの生物が絶滅の危機にさらされているのです。

森田：寿命の長い生物ほど、温度上昇についていけなくなりそうですね。この温暖化の根本的な原因は、人口の急激な増加であるとおっしゃっていましたね。

清：南極の氷に閉じ込められた大気分析から、温暖化をもたらす大気中の二酸化炭素やメタン、一酸化二窒素などの濃度が、人類が石油や石炭を使用するようになってから、急激に増加し始めたことがわかっています。

化石燃料のエネルギーを利用することで暮らしが楽になった人類の寿命は延び、人口増加と高齢化が続いています。この急激な人口増加に対応するために、二酸化炭素を吸収してきた森林が次々と伐採され、住宅地や農地が変わっていきました。

森田：急激な人口増加に伴う化石燃料使用量の急増と森林の急速な減少によって、これまでに経験したことのない速さで温暖化が進んでいるのですね。

清：メタンは、牛などの大型のはんすう動物のおならやげっぷ、排せつ物からの発生量が化石燃料の採掘に伴う発生量とほぼ等しいので、牛肉を食べる程、温暖化が進行します。

一酸化二窒素は、合成窒素肥料の使用や硝酸製造の際に大気中に放出されます。

森田：世界中が温暖化の防止に取り組んでいますが、100年後にはどの程度の温度上昇になるのでしょうか？

清：2009年の11月に日米欧の国際研究機関が発表した論文によると、二酸化炭素の排出量は、

国連の気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が予想する最悪ケースのシナリオに沿って増加しつつあるそうです。2007年のIPCCの第4次評価報告書によれば、この場合には今世紀末の地球の平均気温は、20世紀末より2.4～6.4℃上昇するそうです。

森田：平均で6℃以上も上昇する可能性があるのですか？

清：温暖化の速さは、海水の多い赤道付近と大陸の内部や高緯度地方とでは異なり、大陸の内部や高緯度地方ほど早く進行します。最近20年間の北極地方の温度上昇は10年あたり1.22℃に達していますから、100年後には、北極地方は現在より12℃以上も高温になると予想されます。これは、地球の平均気温が6℃ほど上がることを意味しています。

森田：名古屋の気温が今より6℃も上がったら、夏は大変です。何とか温暖化を食い止めたいですね。

清：実は、さらに急激な温暖化の可能性が、いくつか指摘されています。1例を挙げますが、メタンハイドレートをご存知でしょうか？

森田：メタン……何ですか？

清：二酸化炭素の7倍の温室効果を示すメタン分子を水分子が包み込んだ白い結晶で、温度が低くて圧力が高い世界各地の海底に存在しています。地上に取り出せば自然にメタンガスと水に分かれるので、化石燃料に代わるエネルギー源として採掘調査が進められています。愛・地球博のガスパビリオンでは、白いメタンハイドレートの塊が燃えるのを見せていました。

森田：海底に閉じ込められている温室効果ガスを燃料に利用するのですね。

清：メキシコ湾沖で海底油田から原油が漏れ出したように、メタンハイドレートの採掘現場で事故が起これば、メタンガスが大気中に放出されて、温暖化が進行します。

更に心配なのは、温暖化による海水温の上昇に伴って世界各地の海底でメタンハイドレートの分解が観察されており、メタンハイドレートを押さえつけている海底の土砂とメタンハイドレートとの間に空洞が広がりつつあることです。支えを失った海底の土砂が地滑りを起こし、氷河期の終わりにノルウェー沖の海底の斜面で起こった規模のメタンガスの放出が起こると、地球の平均気温は数年で10℃上昇すると計算されています。

森田：100年で数℃ではなく、数年で10℃ですか。そうなってからは、もうどうしようもないですね。

〔放送2回目：温暖化の影響と対策〕

森田：前回は、温暖化の原因と予想される温度上昇の値についてお話しいただきました。今回は、温暖化によって私たち地球の生物の未来がどうなるのかについてお話しください。

清：生物は互いに補い合って生きていますから、人の未来についてお話しする前に、自然の中で生きる植物・動物と、人が管理している農作物・畜産物の未来についてお話ししましょう。

森田：まず植物の未来についてですね。

清：植物は、太陽光線と水と無機物から、他の生物が生きるために必要な酸素と有機物を合成してくれています。桜の花の開花が年々早まっているように、植物の成長にとって気温はとても重要な要素ですが、植物は歩くことができませんから、暖かくなってきたからと言って以前と同じ気温のところに引越すことは簡単ではありません。風に乗せて種を遠くに飛ばすことができる松ですら、10年かけて15km 移動するのが精一杯です。一方、100年間に地球の平均気温が3～4℃上昇するという、やや楽観的な想定ですら、日本の平地の気候帯は10年で40～50km も北上してしまいます。従って、生育に時間のかかる山の木々は、温暖化の速さに対応できずに衰退していくと予想されます。自然に生える植物（自然植生）の規模は、人が管理している植物（管理植生）の約11倍ですから、他の生物に対する影響は甚大です。

森田：緑豊かな山並みが消えていくのですよね。野生の動物たちはどうなるのでしょうか？

清：山の木々が失われれば、野生の動物たちは食べ物のある人の居住区に降りてくるしか生き残る道はありません。急速に氷が失われている北極では、ホッキョクグマが餌をとることができなくなって、ゴミ捨て場や台所に現れるようになっています。

森田：水の中の魚たちはどうなりますか？

清：水は土や空気よりも温まりにくいので、海中での温度上昇は地上ほど大きくありませんが、サンゴはわずか1～2℃の温度上昇で白化を起こすため、現在あるサンゴ礁は、あと30年ほどですべて消失するだろうと考えられています。サンゴ礁は魚たちの揺りかごですから、多くの魚たちが影響を受けます。

森田：多くの動植物が絶滅していきそうですね。農業の未来はいかがですか？

清：農業で最も大切なのは、水の管理です。温暖化は大陸の内部や高緯度地方ほど早く進行しますので、赤道域と大陸内部の温度差が減少していきます。温度差がなくなると風を起こすための気圧の差もなくなりますから、赤道付近の水蒸気を含んだ大気が大陸内部に運ばれにくくなり、地表からの水蒸気の蒸発速度の増加も加わって、大陸内部では水不足や塩害の広がりが予想されます。

森田：世界各地で山火事が起こり、ロシアは干ばつで小麦の輸出を止めていますね。南半球のオーストラリアでも干ばつが深刻だそうです。一方、パキスタンや中国では大規模な洪水が起こりましたが、これはなぜですか？

清：雨は、10日に1度ぐらいの割合でしとしと降るのが理想です。一時期に強い雨が降ると、雨水が地中に浸み込む前に流出してしまい、作物の生育に役立たないばかりか、洪水になって

作物を押し流してしまいます。

気温が上昇すると空気中に含まれる水蒸気の量が増えますから、雲ができるときに発生する熱エネルギーが増し、激しい嵐が起りやすくなります。河川の流域の平たん地は農作業に適していて人口が集中していますから、こうした地域での風水害の増加が心配されます。

森田：暖かくなって二酸化炭素の濃度が増せば作物がよく育ちそうな気がしますが、必要なところに水が届かなかつたり、雨が強く降りすぎたりして上手くいかないのですね。

清：その他にも、気温が高くなると病害虫が増えますので、農薬の使用量が増加すると考えられ、安全な農作物を得ることが難しくなりそうです。

森田：畜産業にはどのような影響が出ますか？

清：夏になると牛の乳の出が悪くなるように、家畜・家禽類は、体温の高い鶏を除いて20℃以下の比較的低い温度を好むので、温暖化は畜産業の生産性の低下につながります。

森田：私たち人には、どのような影響が出るのでしょうか？

清：この夏は、多くの方々が熱中症で亡くなりました。20代の健康な男性ですら、冷房が利用できないと死亡することがありますが、65歳になると体温調節機構が急に衰え、平均気温が28℃以上になると死亡率が急増します。温暖化が進めば、熱中症で亡くなる高齢者が増えると予想されます。

また、高温にさらされて免疫力が衰えている状態では、さまざまな疾病にかかりやすくなります。冬に氷が張らなくなって蚊が越冬できるようになると、マラリアなどの熱帯地方の伝染病が広がりやすくなります。

温度上昇に伴う病原菌の増殖、食物腐敗の加速、水不足による汚染された水の利用の増加などにより、赤痢、コレラ、サルモネラなどの飲食物を介した感染症の広がりも予想されます。アメリカでは、今年の6～7月のサルモネラ菌による食中毒が例年の4倍に達し、アイオワ州のある養鶏場から出荷されていた生卵約4億個が回収されました（8月20日の朝日新聞夕刊より）。

森田：小さな島国が海に沈みそうだとよく耳にしますが。

清：IPCCの最新の報告書では、地球の平均気温が3～4℃上昇するくらいでは南極の氷の融解は起きないとして、100年後の海水準の上昇を50cm程度であると予想しています。平均すると1年間で5mmの上昇になりますが、サンゴは最大でも1年間あたり8mmしか成長できませんから、この程度の海水準の上昇でも、サンゴ礁に守られている小さな島国にとっては死活問題です。

一方、この予想を上回る温度上昇が起きて淡水の7割を占める南極や北極域の氷がすべて融解すると、それだけで海水準が約67メートル上昇します。加えて、大気中に含まれる水蒸気

量の増加によって雲が生じる際に放出される熱エネルギーが増大するので、台風や洪水、高波の被害が増加すると予想されます。

森田：日本でも、名古屋・東京・大阪など、沿岸部の海拔0メートル地帯には人口が集中していますから、早急な対策が必要ですね。

ところで、ここ数年にわたって異常気象が続いていますが、これも温暖化と関係があるのでしょうか？

清：緯度の割にイギリスやヨーロッパの沿岸域が温暖なのは、極地方と赤道域の海水の温度差によって海水が循環し、赤道域で得た熱エネルギーを高緯度地方に運んでいるからです。温暖化は極地方で早く進行しますから、次第に極地方と赤道域の海水の温度差が小さくなっており、この海のベルトコンベアーが弱まっています。

大気も同様に赤道域で温められて気圧が高まり、低温な極地方に向かって移動する（温度風）途中で、地球の自転によるコリオリ力で曲げられて偏西風となっていますから、極地方と赤道域の気温の差が小さくなると偏西風が弱くなり、蛇行の波長もこれまでとは変わってきます。こうした海水や大気の流れの変化により、地球全体は温暖化しているのにこれまでよりも急激に寒冷化する地域が現れるとともに、各地域の気候が不安定になるものと予想されます。

森田：「例年と比べて」という表現が、意味を持たなくなりそうですね。毎年、同じように繰り返される四季の変化の中で生きてきた日本人には、なかなか受け入れられない事態です。

清：人為的な温暖化ガスの増加による気候の変化を受け入れられない心情は良くわかりますが、二酸化炭素が増加すれば必ず起こる事があります。

大気中の二酸化炭素が増せば、海水に溶け込む二酸化炭素の量も増加し、海水が酸性化していきます。炭酸カルシウムの外骨格をもつ海の生物（サンゴや貝、プランクトンなど）は、海水がある程度以上に酸性化すると炭酸カルシウムが溶けてしまい、生存できません。

海水の酸性化の影響が初めに現れるのは、水温が低く水圧の高い極地方の深海です。クジラ、魚や、ほかの動物プランクトンのえさになるミジンウキマイマイは、今後数10年以内に南極海から姿を消す可能性が高くなっています。

森田：体の大きなクジラはたくさん餌をとる必要があるでしょうから、影響は深刻ですね。クジラたちを絶滅の危機から救うためには、大気中の二酸化炭素の濃度をどの程度に抑えれば良いのでしょうか？

清：現在の約1.5倍の濃度（600ppmv未満）に抑えることが必要だと計算されています。この濃度に抑えるためには、直ちに二酸化炭素排出量の増加を止めて、最終的には1950年当時の排出量としなくてははいけないようです。さらに厳しく、二酸化炭素を現在の濃度（380ppmv）に抑えるためには、ただちに二酸化炭素の排出量を大幅に減少させなければなりません。現在

の社会情勢では、2倍の濃度に抑えることすら困難です。

このため、大気中の二酸化炭素を地下深くの帯水層に高圧をかけて閉じ込めてしまおうという事業が、日本を含む先進国を中心に進められています。水のあるところには生物が生息している可能性が高いというのが宇宙科学の常識ですが、この事業を進めている人たちにはそうした観点が欠如しています。

森田：二酸化炭素を送り込めば、帯水層に住んでいる生物が死んでしまうかもしれませんね。

清：地下深くの生き物のことなどどうでもよいとお考えの方がいらっしゃるかもしれませんが、地球上の生物は、目に見えないような微生物を含めて互いに補い合って1つの生命圏を形成しています。これからしようとしていることが他の生物にどのような影響を与えるのかを考えずに目先の利益だけを追求する姿勢を改めなければ、本質的な問題解決にはつながらないだろうと思われます。

森田：36億年という長い年月をかけて育まれてきた地球上の生物には、皆それぞれの役割があるということを理解して、行動を決めていく必要があるということですね。

清：事実上、人類は地球の資源をほぼ独占していますが、水や大気は人類のためだけにあるわけではありませんし、人類だけで生きていけるわけでもありません。自然科学の普及が進めば、こうしたことを理解して生活する人が増えるのではないのでしょうか。

森田：一人一人が事態を正確に把握し、何をなすべきかを考えていかなければ、温暖化の問題を解決することは困難なようですね。

名古屋の寺院に関する

木版資料について（七）

川口 高風

一、太閤山の太閤の絵図（仮題）

豊臣秀吉が誕生した遺跡である太閤山常泉寺（中村区中村町）の由緒を記した「略縁記」（本稿（一）で翻刻した）とともに出された一枚刷である。秀吉公の画像の上には「開運豊国大明神」とあり、横に「御誕生舊地」、下段には「尾陽中村太閤山」と記されている。

二、寺院肝内 案内

木版摺の一枚物である。欄外に「関通袈陌円輪寺」とあり、円輪寺（中区錦）住職の関通が出版したものかと思われる。刊行年月日は不詳であるが、福島コレクション（熱田区役所まちづくり推進室蔵）には「天保七丙年六月吉日 吉村氏」の書き入れがあり、天保七年（一八三六）六月以前に刊行されたものに

名古屋の寺院に関する木版資料について（七）

吉村氏が書き入れたものであろう。天保七年頃の名古屋寺院を寺格、伽藍で順位づけたものと思われるが、誤った寺名になっている寺院が十一カ寺みえる。それをあげると相王寺、聖得寺、政周寺、大高院、白倫寺、尊儒院、万正寺、福満院、高田本房、健中寺、天王房、功德寺、衆福院、鷲梅寺、洞仙院である。その理由は不詳であるが、尾張藩と深い関係のある寺院のため、故意に変えたのであろうか詳しいことは明らかでない。

三、本尊略縁起

浄念寺（中区丸の内）の本尊安阿弥作の阿弥陀如来の縁起であった。浄念寺は元、清須の朝日にあり、観音院と称して天台宗であった。本尊は定朝作の聖観音であったが、土方出羽守治氏の子慶恵が住持であった時、浄土真宗に帰依して蓮如上人の弟子となり、上人の六字名号などを御染筆して与えられ浄念寺と改号した。四世常真の時、源君は時々参詣され、慶長年間（一五九六―一六一四）の末頃、寺西半左衛門と本多寿甘は帰依仏に附属品などを添え納めた尊像であった。この尊像の功德や多くの靈験、御利益のあることが述べられている。元禄四年（一六九一）二月に記された縁起に、弘化三年（一八四六）十月に御門主より霊像へ宮殿を免許されたことなどの附言が加えられて木版刷されたものである。

四、粟殿森藪香物略縁記

粟殿森宮は神代に伊弉諾、伊弉尊が五穀を作って農業耕作の道を教えた神である。また、藪の香の物が生まれたわけ、それを熱田皇太神宮へ送った由来などが記されている。参詣した人々はそれを諸人へ言い伝えて敬い尊ぶことも記している。同社の社僧であった正法寺（あま市上萱津）より木版刷されたものがある。

五、尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記^(ついで)

常安寺（西春日井郡豊山町）の本尊の縁起である。本尊は赤梅檀の香木で彫刻された仏像。肥後国如来寺に安置していた本尊を応永年中（一三九四―一四二七）に溝口富之介が懇請して常安寺の本尊に安置したものである。一枚刷で「春日井郡一色庄豊場村」とあるところから江戸期のものであろう。

六、尾州春日井郡豊場村萬松山常安寺本尊略縁記^(ついで)

(五)とは異なり、二丁冊子になっている。表紙に題があり、内容は(五)と同意文である。江戸期の刊行であるが、(五)よりは新しいものと思われる。

七、尾張准西国三十三所順礼図

江戸期の刊行で一枚刷である。尾張地方の西国三十三カ所に准じた観音霊場の順礼図である。甚目寺の観音堂を一番に、現在

の清須市新川町、名古屋市東区、小牧市、春日井市、守山区吉根、瀬古、北区味鏡、下飯田、南区笠寺、中区古渡、中川区荒子、あま市、津島市、稲沢市、一宮市、江南市の霊場を廻り、最後の三十三番は犬山市継尾の蓮台寺となっている。刊行所は不詳である。

八、大鐘再建勸募誌

明治二十一年九月に福田寺（知多市日長村）十八世杉野良宗が大鐘を再建するための勸募誌である。元禄八年（一六九五）二月に七世が建立していたが、十六世代の文政元年（一八一八）一月一日に祝融にあい、音色が悪くなって再建することになった。十一月十日に大鐘供養が行われるという。

九、曹洞宗萬松山常安寺境内之図

明治三十一年八月に東京市浅草茅町の精行社銅版部が作成したもので、「略縁起」は山腰弘道が撰述し、境内図は東濤舎の巴凌が書写している。先に紹介した(五)(六)の常安寺本尊の略縁記などからまとめられたもので、明治期の境内、伽藍の配置が明らかになる。

十、仏法双六（仮題）

坂家菩提所の得善院（現在、中区丸の内）より木版刷された「仏法双六」（仮題）である。得善院は初め靈光院と称していた

が、明治三十一年に坂文四郎（明治四十年三月十六日寂、得善院積真薬西證）によって建立され寺号を改めた。木版刷に彩色が施されており、仏教語、短歌、信善疑悪で評している。

十一、医王山成福寺薬師如来縁起

成福寺（北区瑠璃光町）の境内にある別堂の本尊の薬師如来の縁起である。大正十五年十月に薬師堂を改築し、その開帳供養記念として刊行されたもので、同寺二十四世中野擔道が記したものである。薬師如来像は身丈三尺八寸の立像で理趣仙人の作である。仙人が鳳来寺の本尊薬師如来を彫刻した同木自作といわれ、それを成福寺へ勧請された理由は不詳である。江戸期には南西の新道沿にあったが、土侍が落馬したり怪事が多いことから、信者らは薬師堂を境内の西南東向に新築して薬師如来を移し、本堂には別に釈迦如来像を請して本尊としたところ怪事はなくなったという。明治二十四年の濃尾震災によって堂宇は潰倒したが、薬師如来や十二神将像は損傷がなかった。その後、改築がなされて大正十五年十月に入仏供養が行われた。

十二、尾張瀬戸靈利大龍山雲興寺之全景図

雲興寺（瀬戸市白坂町）の全景図である。瀬戸電の「尾張瀬戸駅」が載っているところから、駅ができた以後の刊行であろう。しかし、明確な刊行年月日は不詳である。著作代表者は磯村力松、発行兼販売者は熊崎住恵で、案内略符と性空石などの

所在地も記されている。

十三、知多四国八十八カ所巡礼図（仮題）

知多四国八十八カ所霊場の巡礼図である。一枚刷で各札番所から出されたものと思われるが、本紙は最後の八十八番円通寺（大府市共和町）からのものである。木版のカラー刷で、江戸期のものであると思われるが、明確な制作年次は不詳である。

十四、大布薩宣伝

昭和四年十月十一日に宝積院（知多郡内海町）で大布薩式法要が行われるため、参加を勧める宣伝の一枚刷である。

十五、天医山東高寺薬師如来之御縁起

東高寺（北区金城）の境内にある薬師如来の縁起である。薬師如来は身丈一尺二寸の座像で、聖徳太子の作。太子が大飢饉で疫病がはやり、多くの人が亡くなった時、世を憐みて彫刻したものである。江州志賀の里に一字を建立して安置され、織田信長が叡山を焼き払った時、御本尊の霊夢によって東高坊がこの尊像を奉り、生国の奥州田村郡の里へ行く時、この地の医師平手挑庵宅に止宿した。しかし、そこで病に臥し亡くなった。そのため平手挑庵は小堂を建立して祀り、志賀薬師といわれるようになった。以来、開帳が行われ、十九世近藤良範が印施した縁起書である。

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

禪黃橘	日蓮東寺	淨鎮門前	淨西南寺	淨鎮矢場	禪關新道	本西櫻陌	淨鎮南寺	日蓮法花	禪關南寺	禪曹門前	禪關門前	
護国山東輪寺	妙日山妙蓮寺	正覺山阿弥陀寺	永照山西光院	德壽山清淨寺	玉峯山海福寺	荷上山興善寺	重寶山養林寺	啓運山法花寺	東海山白倫寺	興國山大高院	景陽山惣見寺	
淨西日蓮	淨鎮東田	淨鎮上高	淨鎮南寺	淨鎮法花	淨鎮東寺	淨鎮中下	天台西水	淨鎮東寺	本西入江	本東櫻陌	淨鎮南寺	
法皇山法然寺	延壽山本成寺	護念山證誠寺	長久山園頓寺	永陽山法藏寺	等覺山本正寺	撰取山遍照院	高木山宝周寺	不老山八角堂	宏綱山養蓮寺	轉輪山長園寺	大永山淨教寺	五臺山尋盛寺
高日禪本	日蓮運曹											
車花マ	山法玉											
至壽東覺淨本	照元泉正運要	常遠照瑞藏	普瑞藏	延文廣立雲	本瑞高顯	同瑞高顯						
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺
日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本	日禪同禪本禪本
光山南	山法玉											
妙行盛雲香西連泉眞受乘宝漸永龍行泉泉昌照源屋立安勝	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺											
本禪淨同禪淨禪本淨禪日禪本同同同同禪本淨禪同日本	東南平サ万	三コヤ	廣住井吉寺	東長吉寺								
宗宝平祥金傳雲福東真法久眞大照宝洞大善隆金本顯万	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺											
清淨黃同同日	涼久出桜古法	山ヤ末渡花	同禪同同淨禪淨禪禪本禪眞淨眞禪									
榮誓大本遠靈常	國願龍寺通所寺	國願龍寺通所寺	東陽業卷清法泰自正淨眞長法林觀曹									

關連系圖輪寺

寺院案内

天長山尊儒院

持名山高七ッ院

東高掛所

德興山健中寺

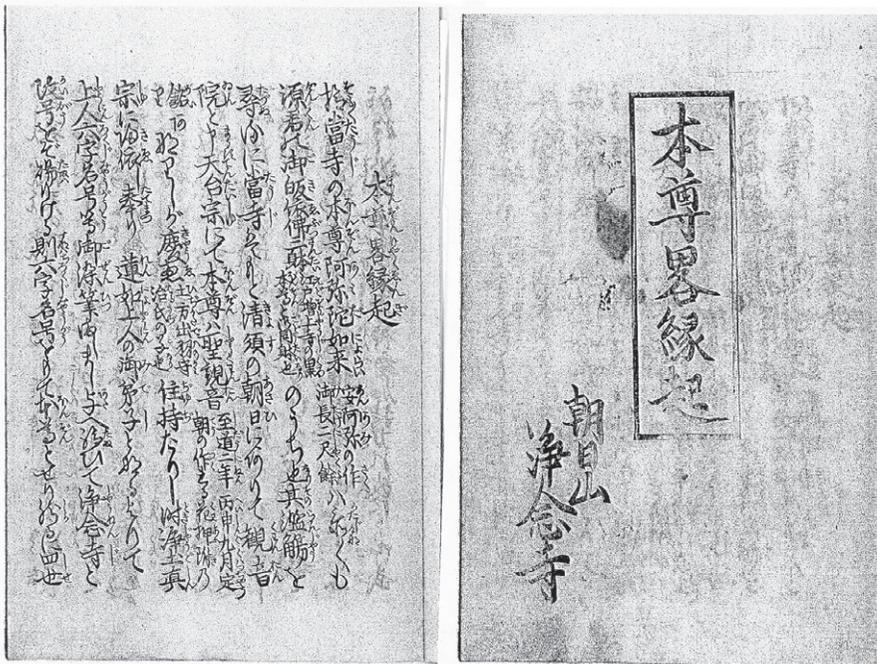
龜尾山天王房

真言大須	淨鎮光明	禪曹東寺	禪曹東寺	禪曹門前	日蓮法花	本東住吉	淨鎮門前	禪關伏見	禪關南寺	本東富沢	淨鎮山口				
北野山眞福寺	終南山光明寺	鸞嶺山含笑寺	泰岳山永安寺	靈松山善篤寺	本覺山長榮寺	渡辺山守綱寺	大雄山性高院	曹澤山大林寺	瑞雲山政周寺	七寶山聖得寺	寶龜山相王寺				
日蓮淨鎮	日蓮淨鎮	淨西淨鎮	本東淨鎮	本東淨鎮	淨西淨鎮	本東淨鎮	本東淨鎮	本東淨鎮	本東淨鎮	本東淨鎮	日蓮淨鎮				
法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺	法花東寺				
壽量山妙本寺	淨長山光照寺	源頭山情妙寺	龜松山德林寺	阿原山慶榮寺	七面山妙善寺	宝岳山西願寺	教報山極樂寺	長島山崇覺寺	童江山長園寺	廣井山長德寺	朝日山淨念寺	富永山養念寺	長壽山本住寺	日秀山聖蓮寺	
本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	本東本東	
赤新道	ミソノ	セウ	伏見	新道	南寺	舍朝人	法花	南法							
心正正来	淨法淨法														
院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	院寺寺寺寺	
本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪	本眞本同眞本同禪同同本禪淨禪同天眞同本同本眞禪
袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	袋サツ	
善方善延醫安長永樂正覺天玄正千円東千淨光敬宋正善	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺														
同禪淨禪本眞禪日淨日淨禪日禪同同眞淨禪眞禪同眞本	東五笹東出シ														
衆元善松覺長安蓮觀眞慈泰法周大東運乾万功永福円	院寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺寺														
妙同同本禪淨	瑞矢具本久東														
大法乘理瑞善	光西相光														

三、本尊略縁起

本尊略縁起

抑當寺の本尊阿弥陀如来安阿弥の作御長三尺余は、忝くも源君の御帰依仏
 三牀江戸増上寺の黒本尊と御同体也のうち也。其濫觴を尋るに當寺はもと清須の
 朝日にありて観音院と申天台宗にて、本尊は聖観音至道二年丙申九月、定朝の作れる花押附の銘ありなりしが、慶恵土方出羽守治氏の子也住持たりし時、浄土真宗に
 帰依し奉り、蓮如上人の御弟子となる。よつて上人、六字名
 号等御染筆ましまし与へ給ひて、浄念寺と改号をぞ賜りけ
 る。則、六字名号をもて本尊とせり。然るに四世常真、源君
 の御かへりみ厚く、殊に當寺えをりく成せ給ひ、深き由緒
 ありて慶長の末、寺西半左衛門、本多寿甘をもて御帰依仏に
 附属せし調度を添させられ納め給ひたる尊像也。源君、勇威
 を四海に振ひ政務を万機に計らひ、久年の乱世を治め、天下
 泰平を万代に伝え給ひしも、偏に此尊像に御願をなし給ひ、
 他力の安心を極め、称名念仏怠り給はざりし御功德によれり
 とかや。仰ぎおもむ見れば禍を転じ福となし、重を軽きにう



尾州海東郡萱津邑

粟殿森藪香物略縁記

粟殿森藪香物略縁記

抑おさ此森このもりの由来ゆらいを尋たづねるに、伊弉諾伊弉册尊いさなぎいさなみのみことにして日本男女なんによの根神也こんじん。神代かみよの往古むかしに五穀ごこくを作り、初め農業耕作のうぎやうこうさくの道みちを教給おしふ御神也おんかみ。これによりて粟あはは五穀ごこくの惣名そうみやうたる故に諸しよ民にん尊たつとんで 粟殿森太神宮あはでのもりたいじんくうを崇あがめたてまつる。しかれば民にんに産業さんぎやうの道みちを教をし玉たまふ御神おんかみなるゆへに、皆尊みなたつとんで一切いっさいの作り初穂はつほを献上けんじやうし奉る。所謂御社いわゆるみやしろの傍かたはらに一つの瓶かめを置おき、茄子なす瓜大根塩等うりだいこんしほの御初穂此瓶あげへ上奉あがる于時にんわちう 人皇十二代景行天皇けいこうてんわうの御宇ごよう、皇子日本武尊わうじやまとたけのみこと、東夷御征罰あづまのみのりに趣おもむかせ玉たまふ。因ちなに此森このもりに御志願ごしげんゆへ参籠さんろうましくて神前しんぜんの瓶かめの中野菜等うちやさいとうを御覧ごらんあり有あり難がたく御頂戴ごてうだいあり。是これは藪やぶの香かうの物ものと御賞歎ごしやうたんましくてより、初はじめてて香かの物ものの名天下なめたに伝つたふ。是本朝最初これほんてうさいしよの香かの物もの也なり。夫迄それまでは世よに香かのものといふ事を知らされは其風味ふうみもしらず誠まことに御神おんかみの香かの物もの也なり。尊たつとむべきもの歎なげ。其後日本武尊そののち日本武尊は熱田皇太神宮あつたごうと成なたまふ。右熱田皇太神宮御利運りつん有ありし御吉例ごきちれいの香かのものゆへ年々りやうとつ、両度宛藪りやうとつの香かの物ものを熱田皇太神宮あつたごうへ送おく

り神具しんぐに備へ奉る。此粟殿森太神宮このもりたいじんくうは従来五穀成就じやうじゆの御神おんかみなれば諸人しよじん今日けふをおくり明日あすを樂たのしむも此御神このおんかみの御利益おんりやく也なり。

一度此森ひとたびこのもりに参詣さんけい有ありし人々は諸人しよじんへもいひ伝つたふべし。我も敬うやまひ尊たつとむへき者也なり。

尾張国萱津郷

日東山正法禅寺

五、尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺

本尊略縁記

尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記

持當寺本尊は昔一色公優闐國の大王。如來本と信心
致奉り佛りに謂く佛滅後五百年衆生のため本尊像
彫刻し奉る。まづ那律目連等の佛弟子に是を議し
法不附し摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生ずる所の香木
に摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生ずる所の香木
なり。これを得て毘首羯摩天をして彫刻せしめ、終に
如来の尊容を寫し奉れり。これ仏像の最初にして、生身の
如来に異ことあらせ給はず。西天竺に留り給ふ事千二百余
歳なり。それより仏法を弘ため震旦國に渡せ給ひて六百
年を経給へり。その後吾日本國に東大寺の奄然沙門入宋し
拜請して帰朝す。是則一條院の御時永延元年なり。今の
京城、嵯峨の本尊と和州法隆寺に仙人の像といへる出山の
釈尊を、肥後国如来寺に安置し在本尊ともに、同木同作
の靈像也。しかるに応永年中、大檀越領主藤原朝臣溝口富之
介、肥後の国に縁あるを以て、彼の如来寺の尊像を懇請
し、その報恩にとて、永樂錢百貫文如来寺に奉納し、當寺の
今從教尊像を彌留を以て之を奉る

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

尾州春日井郡一色庄豊場村万松山常安寺本尊略縁記

抑當寺本尊は、昔し西天竺優闐國の大王。如来を信心敬奉の
余りに謂く、仏滅度後五百年の衆生のために如来の尊像を
彫刻し奉る。まづ、那律目連等の佛弟子に是を議し給ふ。時
に摩利山の赤梅檀は善根力の所感によりて生ずる所の香木
にして、一度その香に触るものは、億劫生死の罪垢を脱す
となり。これを得て毘首羯摩天をして彫刻せしめ、終に
如来の尊容を寫し奉れり。これ仏像の最初にして、生身の
如来に異ことあらせ給はず。西天竺に留り給ふ事千二百余
歳なり。それより仏法を弘ため震旦國に渡せ給ひて六百
年を経給へり。その後吾日本國に東大寺の奄然沙門入宋し
拜請して帰朝す。是則一條院の御時永延元年なり。今の
京城、嵯峨の本尊と和州法隆寺に仙人の像といへる出山の
釈尊を、肥後国如来寺に安置し在本尊ともに、同木同作
の靈像也。しかるに応永年中、大檀越領主藤原朝臣溝口富之
介、肥後の国に縁あるを以て、彼の如来寺の尊像を懇請
し、その報恩にとて、永樂錢百貫文如来寺に奉納し、當寺の

本尊あんちと安置あんちし奉ほうれるもの也。かたしけなくも日本にほんに三さん体たいの靈れい像ざう一回ひと帰かへ仰おほ拝はい礼らいの輩ともから、億いっ劫じやく生せい死しの罪つみを解げ脱だつせすといふ事ことなし。於あ戯おぼろ小けの縁えんにあらず。委くわは本ほん縁えん起ぎに著いちぢやくるし。

毎年二月十五日大涅槃就當寺国中貴賤男女集会

今猶如昔、依て預略之、以施之令知之。

六、尾州春日井郡豊場村萬松山常安寺本尊略縁記

尾州春日井郡豊場村

萬松山常安寺本尊略縁記

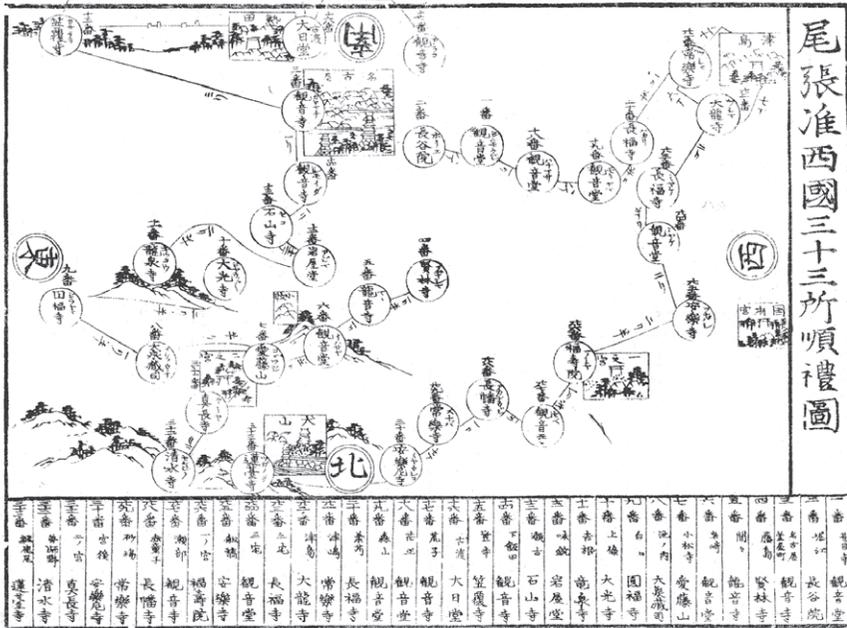
抑そも當寺まうじの本尊ほんそん釈迦しやくぢやく如来にらいは、往古むかし西天さいてん竺ぢやく優闍うてんこく国の大王おおか深ふかく如来にらいを恭敬くわんぎやく供養くうやうの余あまり謂いわらく、仏滅ぶつめつ後ご末世まふせの衆生しゆじやく仏経ぶつぎやうをき奉ほうるとも、いかんしてか如来にらいの尊容そんようを見奉みほうらんや。願ねがくはわれ尊容そんようを彫刻てうこく奉ほうり、末代まふたひ濁悪ぢやくあくの衆生しゆじやくの為ためにせんと。是こゝを大弟子だいしやくし迦葉かじやく尊者おんぎに相議さうぎし、幸さいに摩利山まりさんの名木めいぼくあり。赤梅しやくせん檀だんと称しやうす善根力ぜんこんりきの所感しよかんにして、一ひとたびその香かをきくものは、億劫いっじやく生せい死しのつみを脱のがるゝときく。即すなはち神通しんとう第一だいいち目連尊もくれんそん者じやをしてこれを得えせしめ、毘首羯摩びしゆかつま天てんに命めいじて如来にらいの尊容そんよう三十二相八十種好さんじふにじやくはちしゆしやうを彫刻てうこくし奉ほうれり。これ仏身ぶつじんを木像もくざうに移うつし奉ほうる最初さいしよなり。実まことに生身しやうしんの如来にらいに異ことならんや。西天さいてんにましまし、衆生しゆじやくを濟度さいどしたまうこと千二百余年せんにふひやくねん、震旦しんたんに渡わたらせたまひて六百余年むびやくねんを経をたたまへり。我朝われあした 一条院いちじやくいんの御宇ごう永延年えいねん中、



東大寺齋然法師入宋して拜請し奉り、帰朝後肥後国に伽藍を建立し安置し奉る。如来寺と号するは是なり。京北嵯峨清涼寺の本尊、和州法隆寺の本尊、同木同作なり。然るに応永年中當寺開基藤原朝臣溝口侯、事に因て九州に下向す。其頃如来寺大に頽廢して、如是の靈像随侍の僧なし。故に侯永樂錢百貫文を寄附し、此如来を招請、即ち當寺の本尊と仰奉る。三国に三体の尊容、不残我朝に渡り給ふ事、仏法東漸の仏勅めに疑ふべけんや。よりて一たび恭敬礼拝の衆生、生老病死の苦を解脱し速に無上正等菩提を證せん。現當両益今猶古のごとし。委くは本縁記に著明なり。

毎年二月十五日國中貴賤當寺に群集して尊容を拝するごと、今猶如昔、依て略記、以布世尔り。

七、尾張准西国三十三所順礼図



尾張准西国三十三所順礼図

一番	甚目寺	観音堂
二番	堀江	長谷院
三番	名古屋 萱屋町	観音寺
四番	藤島	賢林寺
五番	問々	龍音寺
六番	岩崎	観音堂
七番	小松寺	愛藤山
八番	池ノ内	大泉蔵司
九番	白口	円福寺
十番	上條	大光寺
十一番	吉根	竜泉寺
十二番	味鏡	岩屋堂
十三番	瀬古	石山寺
十四番	下飯田	観音寺
十五番	笠寺	笠覆寺
十六番	古渡	大日堂

十七番	荒子	観音寺
十八番	花正	観音堂
十九番	森山	観音堂
二十番	葉苺	長福寺
二十一番	津嶋	常楽寺
二十二番	津島	大龍寺
二十三番	三宅	長福寺
二十四番	三宅	観音堂
二十五番	船橋	安楽寺
二十六番	一ノ宮	福寿院
二十七番	瀬部	観音寺
二十八番	赤童子	長幡寺
二十九番	砂場	常楽寺
三十番	宮後	安楽尼寺
三十一番	二ノ宮	真長寺
三十二番	善師野	清水寺
三十三番	繼鹿尾	蓮台寺

八、大鐘再建勸募誌

大鐘再建勸募誌

夫レ大鐘ノ功德ハ廣大無邊ニシテ朝ニハ六道輪廻ノ夢ヲ醒ラシ中道實相ノ理ヲ知セ暮ニハ世間無常ノ事ヲ告ケ依之テ一日モ欠ク可キ者ナランヤ

千禧元祿八年仲春ノ日七世代志願ノ方アリテ建立セシガ其後文政元年一月一日十六世ノ時祝融ノ災ニ罹リニ十方ノ信男信女等莫ハ多少ニヨラス一俛手ヲ出シテ淨財喜捨ヲ請テ、再ビ大鐘建立ノ上仏菩薩有縁衆中並ニ二十方ノ信男信女等、冀ハ多少ニヨラス一俛手ヲ出シテ淨財喜捨ヲ請テ、再ビ大鐘建立ノ上仏菩薩功德海中ニ無漏ノ大円通ニ入テ子孫永世ナラント爾云。

明治廿一年九月 愛知県知多郡日長村 福田寺住職 杉野良宗印

徑貳尺貳寸

一金三十錢以上御志願被下候御方ハ御座次第法名俗名大鐘ニ彫刻仕候事 但古鐘並佛具古金物等御新入奉願候也

一壹番 鐘
一貳番 鐘
一三番 鐘

右之鐘ニ御座候間御志ノ多少ニヨラス奉願上候也
一當寺本年十一月十五日ヨリ多江御會並被下候御方御座候御方右大鐘供養ハ十一月十日ニ政執行候間右日限ニ御座候御方被下候事

明治廿一年九月

知多郡日長村 福田寺 印
全 備後郡代 細川金六印
全 信濃郡代 吉川徳之助印

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

大鐘再建勸募誌

おほがねさいごんすめこゝろざしのき

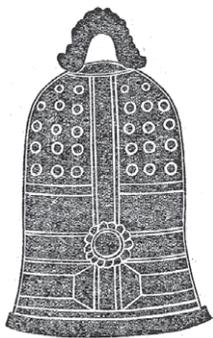
おほがね 夫レ大鐘ノ功德ハ廣大無邊ニシテ、朝ニハ六道輪廻ノ夢ヲ破リ、昼ハ中道實相ノ理ヲ知セ、暮ニハ世間無常ノ事ヲ告ク。依之テ一日モ欠ク可キ者ナランヤ。

おほがね 千禧元祿八年仲春ノ日、七世代志願ノ方アリテ建立セシガ、其後文政元年一月一日、十六世ノ時祝融ノ災ニ罹リソレカ為メ、鳴リ音悪クナリシモ自力ニ及ヒ難シ。今回有縁衆中並ニ二十方ノ信男信女等、冀ハ多少ニヨラス一俛手ヲ出シテ淨財喜捨ヲ請テ、再ビ大鐘建立ノ上仏菩薩ニ供養セント欲ス。因テ、各々善根山上ニ福寿ヲ増長シ、功德海中ニ無漏ノ大円通ニ入テ子孫永世ナラント爾云。

愛知県知多郡日長村 福田寺住職 杉野良宗印

明治廿一年九月 杉野良宗印

徑式尺貳寸



一金三十錢以上御志納被下候御方ハ、御望次第法名俗名大鐘

ニ彫刻仕候事

但古鏡並仏具古金物等御施入奉願候也

一 壹番鐘

一 貳番鐘

一 三番鐘

右之通ニ御座候間、御志ノ多少ニヨラス奉願上候也

一 當寺本年十一月十五日ヨリ冬江湖会並授戒致執行度候付、

右大鐘供養ハ十一月十日ニ致執行候間、右日限ニ御參詣可

被下候事

知多郡日長村

明治廿一年九月

福 田 寺 印

全 信徒惣代

細 川 金 六 印

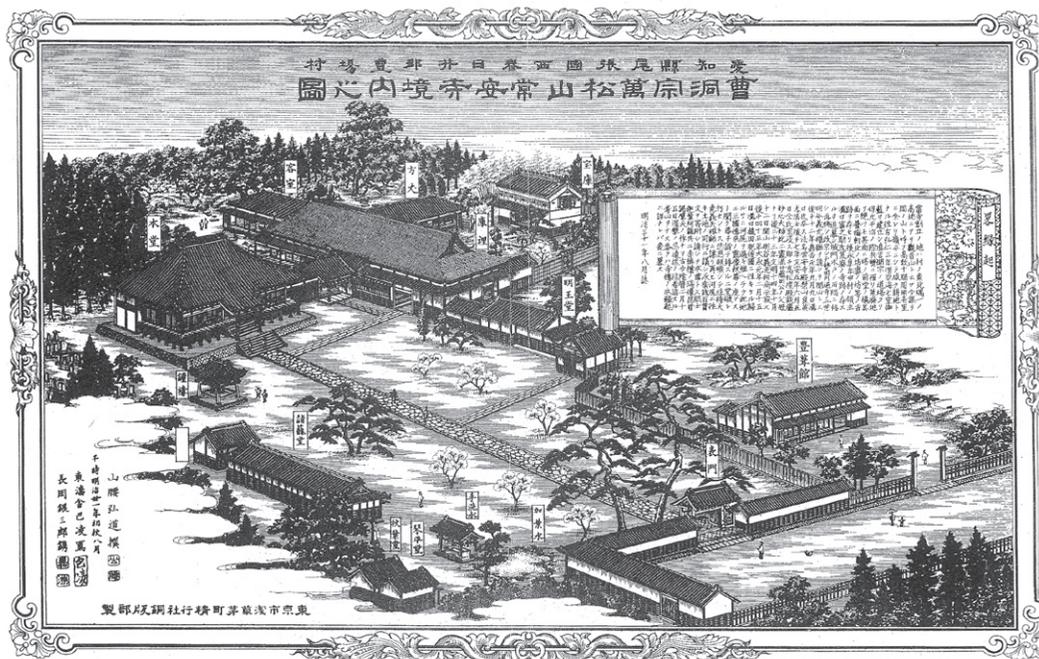
全 信徒惣代

吉 川 徳 之 助 印

九、曹洞宗萬松山常安寺境内之図

略縁起

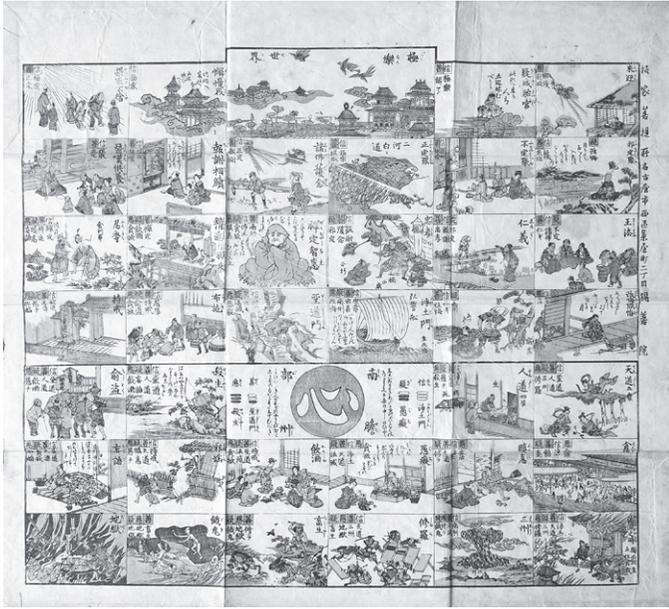
當寺創立ノ地ハ、村ノ東北隅一ノ高地ニアリ観音山ト云フ。今誤テ岡ノ山ト呼フ。高數十間周囲壹里ニ余レリ嶺平ニシテ、咸ク耕地トナル。往古弘仁三年、僧空海七堂伽藍ヲ建立シ真言開宗ノ道場タリ。保元平治ノ際、兵焚ニ罹リ荒廢地ヲ建ツモ、其南ニ塔ノ前堂ノ構、其西ニ養梅軒、北ノ坊奥ノ坊等ノ古跡ヲ存セリ。後永享年中村ノ領主溝口富之助氏荒廢ノ寺跡ノ存スルヲ追慕シ、城門木戸ノ西隅ニ移シ再興シ改宗シテ、熱田円通寺ノ二世明谷義光禪師ヲ請シテ開山トス。後チ十二年嘉吉元年九月九日溝口氏卒ス。法名常安寺殿築山良英大居士、後チ七年文安五年六月五日、全氏室没ス。即チ萬松院殿鉄巖妙心大姉、此ニ靈溝口蔵田公ノ父母ナリ。後三十三年文明十四年十月十二日開山明谷義光和尚示寂ス。後チ四十四年、大永元年二月十五日溝口蔵田肥後国に往ケル帰ルサニ、河尻ヲ過キ惟ヘラク此地ニ三国伝来ノ靈像釈尊ノ座マス



ト聞ク。尋ネ詣テ拝スルニ堂破レ朽ナントス。悲思帰順シテ
住持大堯義天禪師ニ謀リ、再ヒ河尻ニ往キ土地ノ同行ニ議シ
永樂錢百貫文ヲ寄附シ、請シテ本尊トス。脇土迦葉阿難共ニ
赤梅檀ノ瑞像昆首謁摩天ノ作ナリ。古今陰曆二月十五日涅槃
ノ忌遠近ノ信者詣スル者山ヲナス。委クハ寺伝ノ本縁起ニ詳
ナレバ爰ニ略ス。

明治三十一年八月誌

十、仏法双六（仮題）



仏法双六（仮題）

名古屋市西区茶屋町二丁目 得善院版 木版色摺60×65 cm
表紙付 一枚

十一、医王山成福寺薬師如来縁起

愛知県名古屋市東区下飯田町

医王山成福寺薬師如来縁起

當寺境内別堂本尊薬師如来尊像御身丈三尺八寸立像理趣仙人
一刀三礼の作也
抑も忝なくも御由来を案ずるに、人皇四十三代文武天皇
大宝元年辛丑勅命に依て、理趣仙人參州鳳来寺の本尊薬師
如来を彫刻し奉りし、因みの同木同作と伝へらる。何年の
頃より當寺の本尊に勧請せしやは不詳なれども、医王山と
稱するも故あるなり。然るに旧藩の時、南西の新道を駈る
土侍往々に落馬し、或は怪事多かりしと藩主怪み命じて
卜せしむ。欽み答て曰く、北方に靈仏あり不知と雖ども崇
礼せざりし故ならんと。然してより十方有縁の信者と共に堂
于を境内の西南東向に新築し薬師如来を移し奉つり、本
堂には別に釈迦如来を請して本尊となせしかば、後ち向上
の怪事なかりしとぞ。

茲に不幸なるは、明治二十四年濃尾の大震災に堂宇壊倒の厄を免かれず。然るに不思議なるは本尊薬師如来を始め十二神将の御像些の損所なし。之偏へに靈仏の応現奇瑞を末世の我等に示し給ふの然らしむる處なりと。今尚見聞の男女随喜伝称す。爾後改築の機至らず、靈感を損するの念恐れ悲しむ歳久しかりしも、今や有縁檀信の願力に依て茲に改築成就して入仏供養を厳修す。

夫れ我等清き鸞嶺の秋の月は遠く三千年の雲に隠れ馨ぼしき、龍華の春の風は遙かに五十六億万の歳を隔つる。澆季の運に生を受け身は二仏の中間に有と雖ども、忝なくも薬師如来の慈光を蒙り生死長夜の苦を逸かれ福慧を増長し無病息災子孫長久の快樂を得るは、是れ偏へに瑠璃光如来の恩光に非ずや。冀くは有縁の信者常に祈願せば、悉く水月の冥感を蒙り、現當二世の利益を得て諸願成就すること鏡に影の映るが如くならん。茲に諸人結縁のため毎歳十月十二日特に大祭法会を厳修す。伏して仰ぎ願くは薬師如来慈愍を垂れ、有縁の衆生を守護し玉へ。

薬師本願功德経 曰。

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

薬師如来本菩薩道を行ずる時十二の大願を發して諸の有情をして求る所皆得せしむと。云云又曰く。薬師如来に十二葉又大將あり。俱に各七千の眷属あり同時に声を挙て仏に白て言さく世尊我等今は仏の威力を蒙て世尊薬師如来の名号を聞くことを得たり。復更に悪趣の怖あらず、我等相率て皆同じく一心に乃至盡形佛法僧に帰依し誓て一切の有情を荷負して為に義利をなし饒益し安樂にすべしと。云云又曰く。諸の有情衆病に逼迫せられ貧窮多苦、我

南無薬師衆病悉除の願なれば

唱ふる人ぞ無病息災

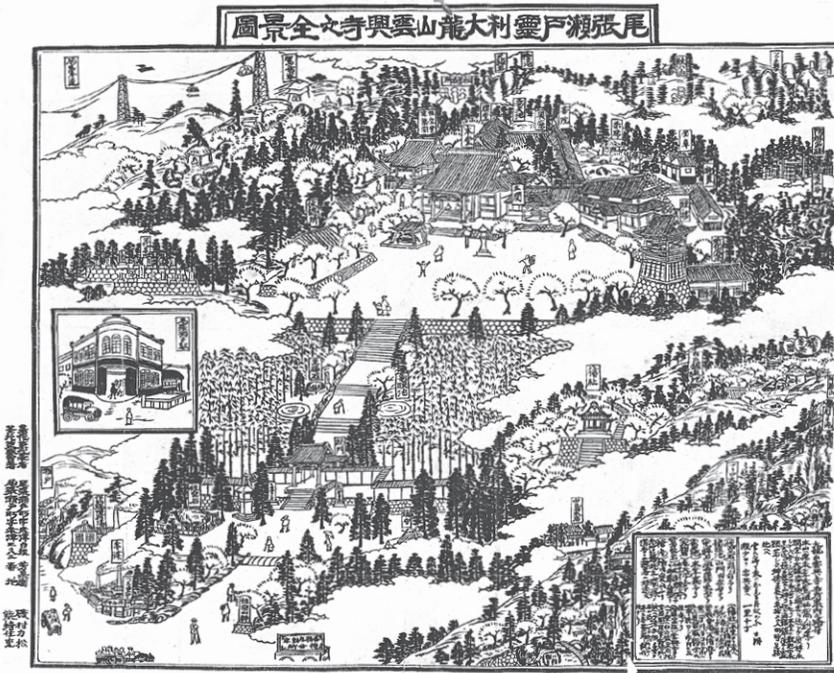
維時大正十五年十月薬師堂改築竣工紀念

全月十二日より十四日迄入仏開帳供養

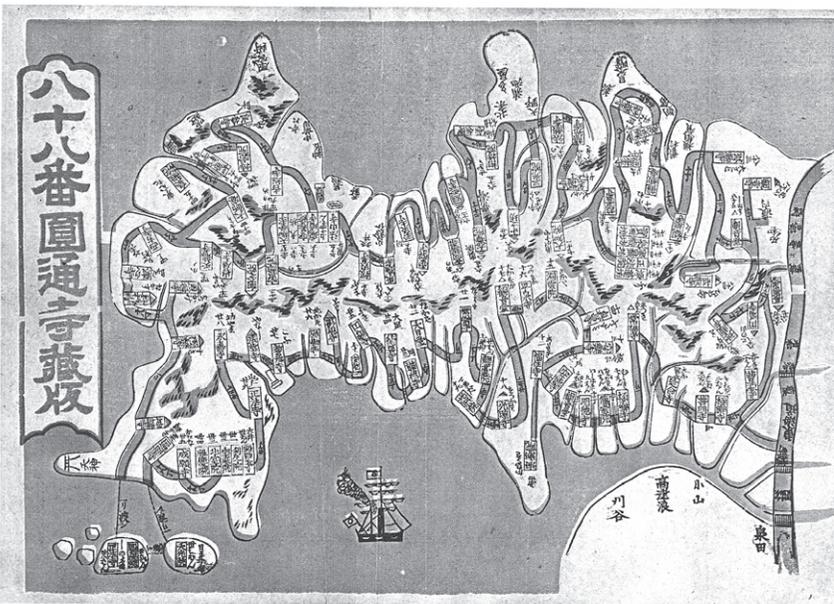
成福寺二十四世

中野擔道 謹誌

十二、尾張瀬戸靈利大龍山雲興寺之全景図



十三、知多四国八十八カ所巡礼図（仮題）



十四、大布薩宣伝

◆ 大布薩宣伝

罪有りト知ラバ、特ニ懺悔スベシ、懺悔セザレバ罪益々深シト、佛ノ訓誡シ玉フ所ナリ。吾等オ互ハ、不知ノ間ニ、無限ノ罪ヲ造リテ、苦ヨリ苦ニ入りテ決シテ他ヨリ、罪ヲ持チ來ルニ非ラズ。疑心即之罪ト、此ノ罪ヲ例ヒ一日タリトモ、拔キ去リテ、暮スノガ人生ニ活キガイ有ル生活デアアル。

今回拙院ニ於テ來ル十月十一日(舊九月節句)ニ勤ムル大布薩ノ法式ハ、等苦ヨリ暗キニ入りテ留マラザル、心馬ヲシテ快樂ナラシメ、不知ノ罪ヲ消滅シ、心身清淨ノ日送ラシテ、自己ノ希望ト願力トヲ充實ナラシメ、以テ實社會ニ有効化セシムルノ法要デアアル。

乞フ十方ノ諸賢者、一日ノ懺悔ガ、永久自己ノ生命ヲシテ清淨ナラシムルノ、元素タルコトヲ、了知セラレテ、此ノ一會ノ法雨ニ浴セラレンコトヲ希望スルト共ニ切ニ御勸メスル次第デス。

法要當日ニハ、玉の湯、壽湯ノ二ヶ所ニ香湯ガ沸シテ有リマス、御參詣ノ御方へ、香湯券ヲ差シ上ゲマスカラ隨意御入湯下サイマセ

昭和四年仲秋之日

献玉山 寶積院

十方諸賢者

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

◆ 大布薩宣伝

罪有りト知ラバ、將ニ懺悔スベシ、懺悔セザレバ罪益々深シト、仏ノ訓誡シ玉フ所ナリ。吾等オ互ハ、不知ノ間ニ、無限ノ罪ヲ造リテ、苦ヨリ苦ニ入りテ決シテ他ヨリ、罪ヲ持チ來ルニ非ラズ。疑心即之罪ト、此ノ罪ヲ例ヒ一日タリトモ、拔キ去リテ、暮スノガ人生ニ活キガイ有ル生活デアアル。

今回拙院ニ於テ來ル十月十一日(旧九月節句)ニ勤ムル大布薩ノ法式ハ、等苦ヨリ暗キニ入りテ留マラザル、心馬ヲシテ快樂ナラシメ、不知ノ罪ヲ消滅シ、心身清淨ノ日送ラシテ、自己ノ希望ト願力トヲ充實ナラシメ、以テ實社會ニ有効化セシムルノ法要デアアル。

乞フ十方ノ諸賢者、一日ノ懺悔ガ、永久自己ノ生命ヲシテ清淨ナラシムルノ、元素タルコトヲ、了知セラレテ、此ノ一會ノ法雨ニ浴セラレンコトヲ希望スルト共ニ切ニ御勸メスル次第デス。

法要當日ニハ、玉の湯、壽湯ノ二ヶ所ニ香湯ガ沸シテ有リマス、御參詣ノ御方へ、香湯券ヲ差シ上ゲマスカラ隨意御入湯下サイマセ

昭和四年仲秋之日

献玉山宝積院

十方諸賢者

十五、天医山東高寺薬師如来之御縁起

本尊志賀薬師
如来御縁起 開帳紀念

伸一絶 偈云

威徳巍々薬王地 東高堂閣聳雲霄
浄瑠璃界在_二今此_一 風雨調順冠_二聖堯_一

寛永十七庚辰年霜月吉祥日 東高寺三世祝公牛泉代

古井村 光昌院現住幽谷和南 誌之

一 三軒半ノ別堂建立 寛永十七年八月八日開帳 霜月八日閉帳

一 古本堂五間半建立天明年間 天保十四年九月八日開帳 閏八月十三日閉帳

一 六間半ノ本堂改築 大正三年五月四日開帳 同月十日閉帳

一 大正十五年四月二日開帳 同月八日閉帳

(本尊安置シテヨリ昭和七年至三百五十三年也)

愛知県名古屋市区西志賀町

天医山東高寺薬師如来之御縁起

當寺境内別堂本尊薬師瑠璃光如来の尊像は御身丈一尺二寸座像。聖徳太子二刀三札之御作也。

聖徳太子二刀三札之御作也。

御由來を尋奉るに、

人皇三十二代用明天皇

天皇の御宇、丁未の年天下大飢饉疫病はやり人畜鳥類に

いたるまで過半死に及ぶ故ゆゑに、聖徳太子世を憐

み、此の尊像を彫刻し江州志賀の里に一字を造立して御安

置あそばされ、一度拝する輩は現當二世之利益を蒙り、

諸願満足する事は鏡に影のうつるが如し。去る大同年中の

頃ろ、叡山に一人の兒子あり、過去の悪業報い来るにや癩

病を悩む百薬手を尽せども更に験なし、日々肌うるみ手

足腐りければ、兒子心に思ゑらく悪病は皆是宿世の業な

れば医薬は効なきこと道理なり。然ば仏の力を頼まんに

は然んと。即ち此薬師如来に打向い幼少心の一筋に祈け

れば既に壹百日に満れども験なければ余悲に南

無薬師衆病悉除の願を立て

名古屋の寺院に関する木版資料について(七)

身より仏の名こそをしけむ

と侍りければ、本尊御厨子の内より微妙の音聲にて

むら雨はたゞ一通り跡もなし

己が身のかさそこにぬきおけ

と詠じ玉ふ。童児奇意の思をなし心信肝に銘じ我身を顧み

れば、其病は一時に瘡り喜悅の涙たを流し、彌々信心厚く

此の如く靈験日々に新にして貴賤貧富の隔てなく専ら渴仰

し奉り。九百八十余年の間江州志賀の里に在ませし

が、人皇百七代正親町天皇の御宇、元龜二辛未の年

織田信長公叡山を焼払い玉ふ時、御本尊の靈夢に依て東高坊

此尊像を負ひ奉り。生国奥州田村郡三春の里へ御供仕

り。無仏世界の万民に如来の御利益を蒙しめんと欲て此

地迄来り、行暮を當郷の医師平手桃庵老方に止宿計らず病

の床に臥し種々良薬を用れども更に効なし。故に東高坊

も生死の一大事を明らめ、斯の如く如来の因縁並無き跡の

事まで念ごころに頼み置き、元龜二年未十月五日申の刻此尊

像に向い合掌して称名諸共に世寿五十三歳にて臨終正念

往生の素懷を遂られ、則ち法名は靈雲東高沙弥と号し、

平手桃庵老も念頃(ねんころ)に追善(ついでん)を営辨(えいぶん)会者(かいしや)は又當(またまさ)に滅すべし。会(お)ても離(はな)れざること終(つい)に得(う)べからずと。仏(ほとけ)の金言(きんげん)人間(にんげん)一生(いっしやう)は

夢(ゆめ)の如(ごと)く幻(まぼろ)しと無常(むじやう)を觀(かん)じ医療(いりやう)を専(もつぱら)とせしが、此(こ)の志(し)賀郷(がむら)に留(と)ま玉ふことは宿世(しゆくせ)の御因縁(ごいんねん)とや。薬師(やくし)如来(にらい)の御利益(ごりやく)

にて彼(か)の療治(りやうじ)も格別(かくべつ)にいたし信心(しんしん)する輩(ともがら)は立所(たてどころ)に諸(もろく)病(やまい)を癒(な)せしこと揚(あ)げ難(がた)し。中(な)就(く)昔(むかし)より乳米(にうまい)と名(な)て本(ほん)

尊(ぞん)に奉(たてまつ)る仏餉(ぶつじやうまい)の内(うち)を少(すこ)し借(かり)て粥(かき)に焚食(たきしょく)すれば乳出(ちいづ)るこ

と神妙(しんまう)なり。故(ゆへ)に信心(しんしん)帰依(きゐ)の輩(ともがら)、志(こゝろ)を一(いつ)にして小堂(こどう)一字(いち) (最初別堂(さいしよべつだう)の事)を建立(けんりやう)して此(こ)の尊像(そんざう)を安置(あんち)し奉(たてまつ)

り諸人(しよにん)呼(よ)びて志賀(しや)薬師(やくし)と申(もう)し奉(たてまつ)るなり。則(すなは)ち平手桃(ひらてと)庵老(いんらう)倅(せ)に向(むか)ひ、某(それがし)は故(こと)有(あり)て古井(ふるい)村(むら)福昌(ふくさう)院(いん)の弟子(でし)となり剃(てい)

髮(はつ)して薰庵(くんあん)芳公(ほうこう)首座(しゆざ)と号(ごう)し寺(てら)を天医(てんい)山(さん)東(とう)高(こう)寺(じ)と稱(しょう)す。漸(よう)く當郷(このむら)に御安置(ごあんち)ありしより今寛永(いまかんゑい)十七(じち)庚辰(かうしん)年(ねん)迄(まで)七(しち)十年(じゆねん)の星霜(せいそう)

を経(ふ)ると云(い)ふ雖(い)ふ靈驗(れいげん)益々(ますます)新成(あらたなる)に付(つき)、今般(こんぱん)又(また)壹宇(いちう)を改築(かいかく)して無縁(むゑん)之(の)輩(ら) 結縁(けちゑん)の為(ため)當(あた)り八月(はつがつ)八(やち)日(にち)より 同(おな)十一月(じゆいちがつ)十八(じちはち)日(にち)迄(まで)

壹(いち)百日(ひゃくじつ)の間(あひだ)開帳(あかひ)せしむるなり。忝(かたじけなく)も聖德(しょうとく)太子(たいし)御彫(おち)彫(てい)刻(かく)あらせられしより當辰(いまたつし)年(ねん)迄(まで)一(いち)千(せん)九(きゅう)十(じゆ)余(よ)年(ねん)に及(およ)ぶ。正(しょう)身(しん)の薬師(やくし)如来(にらい)を目下(もくか)に拜(おが)まし奉(たてまつ)り現當(げんたう)二世(にせ)之(の)御利益(ごりやく)を蒙(こうむ)る

ことは、偏(ひとえ)に東高坊(とうこうぼう)此(こ)の地(ち)迄(まで)御供(ごこう)致(いた)されしは誠(まこと)に根熟(こんじやく)因縁(いんねん)の然(しか)しむる所(ところ)なり。夫(それ)我(われ)等(ら)清(きよ)き鷲嶺(じゆりやう)の秋(あき)月(つき)遠(とほ)く二(に)千(せん)

類(るい)百(ひやく)の天(てん)に隱(かく)れ、馨(こう)き龍華(りゆうげ)の春(はる)の風(かぜ)は遥(はるか)に五十(ごじゆ)億(おく)万(まん)の歳(とし)を隔(へだ)つる澆季(ぎやうき)の運(うん)に生(しやう)を受け身(み)は、二(に)仏(ぶつ)の中間(ちゆうかん)にありなが

ら遭難(あわ)き仏(ほとけ)に値(あ)ひ奉(たてまつ)り生死(しじゆ)長夜(ちやうや)の苦(くる)しみをまぬか

れ、現世(げんせ)安穩(あんゑん)無病(むびん)息才(いきさい)万民(まんみん)長久(ちやうきう)子孫(しよん)繁榮(はんゑい)福寿(ふくじゆ)無量(むりやう)の快樂(からく)を得(う)ることは是(こゝろ)偏(ひとえ)に瑠璃(るり)光(こう)如来(にらい)の恩光(おんこう)にあらざや。

古德(ことく)の曰(いは)く日本(にほん)を七(しち)仏(ぶつ)薬師(やくし)の浄土(じやうど)と云(い)ふ。諸国(しよこく)を七(しち)道(だう)に分(わか)ち都(みやこ)の口(くち)を七(しち)つに分(わか)つ事(こと)も七(しち)仏(ぶつ)薬師(やくし)の浄土(じやうど)なる故(ゆへ)なり。是(こゝろ)

を以(もつ)て我朝(わがしやう)仏法(ぶつぽう)の元祖(げんぞ) 聖德(しょうとく)太子(たいし)初(はじめ)て御建立(ごけんりやう)の龍田(りゆうた)法隆寺(ほうりやうじ)も御本尊(ごほんぞん)は薬師(やくし)如来(にらい)の尊像(そんざう)を御安置(ごあんち)し玉(たま)へり。亦(また)山王(さんわう)

七(しち)社(しゃ)の内(うち)二(に)宮(みや)は本地(ほんぢ)薬師(やくし)如来(にらい)なり。此(こ)の秋(あき)津州(つしゆ)の地主(ぢぬし)なるが故(ゆへ)に地主(ぢぬし)護現(ごげん)と申(まう)す。此(こ)等(ら)の説(せつ)に依(よ)れば、身(み)を和国(わこく)に受(う)くる者は別(べつ)して有縁(うゑん)の仏(ほとけ)なれば心(こゝろ)を尽(つく)して帰依(きゐ)し奉(たてまつ)る

べきものなり。猶(なほ)又(また)女(に)人(にん)の御方(おかた)は、出產(しゆつさん)の時(とき)生死(しじゆ)の境(さか)いめなれば如来(にらい)も是(こゝろ)を憐(あは)れみ十二(じふに)の大願(だいがん)に委(く)む説玉(せつたま)へり。忝(かたじけなく)も一(いち)度(たび)拝(はい)する輩(ともがら)は洩(もら)さす述(す)い玉(たま)ふとの御誓願(ごせいがん)なれ

ば、何(いづ)れも稱名(しょうみ)諸共(しよとも)に近(ちか)ふ寄(よ)りて拜(はい)礼(らい)を遂(と)げられ與(よ)。

右は依古記録記之者也

薬師瑠璃光如来本願功德経 日(利益證明を挙ぐ)

薬師如来本菩薩道を行する時、十二の大願発して諸の有情をして求る所皆得しむると云々(十二の大願は経に依するへし)。又曰く薬師如来に十二薬叉大将あり。俱に一一各七千の薬叉あり。以て眷属となす同時に声を挙て仏に白て言く。世尊我等今は仏の威力を蒙て世尊薬師瑠璃光如来の名号を聞ことを得たり。復更に悪趣之怖あらず、我等相率て皆同く一心に乃至尽形仏法僧に帰依し誓て一切の有情を荷負て為に義利を作し饒益し安楽にすべしと云々。

東高現董十九世 近藤良範

敬誌

右為結縁供施品

名古屋市営屠場開設に至るまでの

経緯と部落問題

松浦 國弘

はじめに

幕末の開港以来、外国人の増大は日本人の生活様式に大きな影響を与えていく。特に食生活—肉食の習慣—の分野における影響は著しく、またたく間に日本人の食生活に多大な変化をもたらすことになった。

言葉を代えて言えば、それは新しい職業—特に生きた獣類（初期においては牛類が中心）を屠殺するいわゆる屠畜場（当時では屠牛場と言っていた）—の誕生を意味していた。国民に肉食の需要が増えるにつれ全国各地に屠牛場が雨後の筍のごとく創設されていった。

※生牛馬ではなく斃牛馬の解体処理（皮革製造や膠等の生産）

についてはこれまでも古くから特定の賤民集団の特権として行なわれてきたが、一八七一（明治四）年三月一九日、政府

名古屋市営屠場開設に至るまでの経緯と部落問題

は「従前穢多へ渡来ル斃牛馬等獸類自今持主ノ処置ニ任ス」（太政官達一四六号）を布達し⁽¹⁾誰でも自由に処置してよいことになった。しかし、実際はこれまでの斃牛馬解体処理の経験を生かした特定集団に負うところが多かった。

食肉需要の増大は、不衛生な屠牛場の乱立と食肉販売に伴う不正事件を誘発することにもなった。そのため政府は明治四年八月「屠牛取締方ヲ定ム」（大蔵省達第三八号）を布達し⁽²⁾、その取締を厳にしなければならなくなっていく。

※近來肉食相開候ニ就テハ屠牛渡世ノ者屠場ノ儀ハ人家懸隔ノ地ニ取設ケ病牛、死牛トモ不売鬻様厳重取締可申、就テハ左ノ二箇条相守各地方官ニ於テ雛形ノ鑑札製造致シ屠場取開ノ場所巨細取調ノ上相渡シ当省へ追テ可届出事

一、牝牛ハ蕃息ノ基本ニ付總テ屠殺不致様取締可致事
但十二、三歳以上孕牛ニ難相成分ハ不苦候事

一、諸開港場ニ於テ輸出ノ節取締ノ儀ハ其地方官ニ於テ見込相立取締可致事

但見込ノ趣追テ可申出事

右ノ通候事

実際、愛知県でも一八七二（明治五）年七月、新聞が「県下肉食大ニ開ケ屠牛場モ頗ル盛シナリ、然ルニ本場一牛ヲ屠ル毎ニ諸点数千斤ノ肉ヲ懸ケ甚タ不審シカリシカ」と⁽³⁾食文化への急激な変

化と、それに便乗した食肉解体と肉類販売に伴う不正事件を報じている。

※左ノ〇〇町旧穢多共、馬肉ヲ偽り売タルコト発覚シ、頃日左ノ通処置セラレタリ。

懲役七十日宛 高〇弥兵衛外九名(以下省略)

このため県でも一八七三(明治六)年一月、各大区正権区長へ布達を出し、屠牛場を設置する場合の要件、手続きと、営利目的に斃牛馬の肉や、前掲したように他の肉を混ぜて販売する不正販売人が増加することを懸念し、獣類の屠殺と生肉販売について次のような「規則」(規制)⁽⁴⁾を示さざるを得なくなっていく。

屠牛場之儀、是迄名古屋片端沓ヶ所ニ限り候処、当今肉食追々相開候ニ付而者、向後外ニ於テモ取設度望之者ハ人家懸隔田畑等之害ニ不相成場所ヲ撰可願出、吟味之上差許、鑑札可相渡候事

一、屠牛竝牛酪渡世之儀、会社之外差止置候処、右者取消候間、勝手次第可願出事

一、屠牛竝牛肉商売渡世之者ハ左之條々屹度可相守、万一違反候者ハ嚴重之処置可及事

規則

- 一、牝牛ハ蕃息ノ基本ニ付、可相成屠殺致間敷事
- 一、病牛、死牛之肉ハ食用ニ害有之ニ付、決テ売捌間敷事
- 一、余獣之肉ヲ取交、売捌申間敷事

- 一、屠牛之節ハ其所戸長へ相届可申事
- 一、戸長於而者精々取計之上、不都合之儀無之様嚴重取締可致事

※屠牛場は(是迄名古屋片端沓ヶ所ニ限り候)と触れられているが、この屠牛場を県下で真つ先に開設したのは某部落の元穢多頭・平野小市であった。当時の新聞は(……小市ハ手代數百人ヲ率テ屠牛場ノ総括トナリ……)⁽⁵⁾と述べているように、これまでに蓄えた財力にものをいわせて多くの人を役使し自らの道を切り拓いていったのである。片端とは現在の東区南外堀町辺り(県庁の東辺)。

一八七五(明治八)年九月二二日の『郵便報知』も、「神戸が第一位」という見出しで、(肉食がさかんなる処は神戸が第一位だと申しますが、かの地にては一ヶ月に八百頭の牛を屠り、次に横浜は六百、東京五百、大阪、名古屋は三百位、その外諸県々には二百或は一百のよしであります、追々寒が強くなりましたらまだまだたくさん殺しましやう……)⁽⁶⁾と述べ、名古屋も肉食が盛んになってきた状況を報じている。それは裏を返せば、屠牛場が県下はもとより全国各地で増加、乱立してきたことを意味していた。

県では前述した布達(明治六年の一月)だけでは対応できなくなり、一八八五(明治一八)年初頭、県令国貞廉平によって屠畜場経営者に対して甲第一号「屠獣取締規則」(全一二条)⁽⁷⁾と、そ

これらの肉を販売する営業者に対して甲第二号「売肉取締規則」(全一七条)を布達し、屠牛場の経営と、それらの肉を販売する販売業者に対し規制をより厳しいものにしていった。

※明治二〇年頃から馬肉の需要も高まり、屠牛場という名称も屠畜場、あるいは屠獸場という言葉が広く使われるようになっていく。

この屠獸取締規則によって乱立していた県内の屠畜場はある程度収斂されていくが、その後も日清戦争等を契機に、わが国の産業化と都市化の急速な発展は国民生活の洋式化をさらに深め、市民の肉食需要はさらに普及する。このような状況の中で一九〇六(明治三九)年四月一日、政府は全一九条からなる「屠場法」(法律第三二号)を制定することになる。

では屠場法が制定された頃の県内の主要な屠獸場(屠畜場Ⅱ屠場)は如何ほどあったかという点、公許された屠畜場は二一カ所あり、明治初期と比べると格段に増えている。それは県内の食肉需要が急速に増大していたことを意味していた。

名古屋市内では市民四〇万人の肉食需要を名古屋近郊の愛知郡千種町字下古井(中区門前町新尾川屋大口竹次郎経営)と同郡御器所村字御器所(東区富沢町偕楽亭梅沢辰蔵経営)の二カ所の屠畜場で賄っていたのである。

※それ以外の県内の屠畜場は碧海郡知立町、額田郡岡崎町、幡豆郡西尾町(以上町営)、豊橋市字東田、丹羽郡犬山町、渥

美郡高師村、東春日井郡坂下村、東春日井郡旭村、西春日井郡枇杷島町、中島郡一宮町、海東郡甚目寺村、海東郡佐屋村、知多郡成岩町、西加茂郡拳母町、北設楽郡本郷村、南設楽郡新城町、南設楽郡海老村、宝飯郡小坂井村、渥美郡福江村の計二一カ所存在していた。

本論

一

政府も前掲した法律をもって今後ますます増大する国民の肉食需要に対し新たな屠畜場を建設する場合(既存の屠畜場を含めて)、衛生上及び環境上からその規制を一層厳しいものにしていった。

名古屋市内では屠場法第六条を抛り所に既設の私営屠場の廃止と、今後の市の発展からくる恒久的財源の必要性から、新たに「市営」屠畜場を建設し、そこから得られる税収を目標にすることになる。

※第六条 市町村ニ於テ屠場ヲ設立スルトキハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ハ必要ト認ムル地区内ニ於ケル私設屠場ノ廃止ヲ命スルコトヲ得⁽⁸⁾

まず市は屠場市営調査委員会を設け既設の屠畜場経営者である大口竹次郎と梅沢辰蔵を市役所に出頭させ、屠場法六条の内容

(前掲)と一七条と一九条の条文を説明し今後の経営の意向を質した結果、兩人よりへ……市営として設立せられんことを希望する⁽⁹⁾との諒解を得ることとなり、同年一月一日の「市会」において、市独自で経営する「市営」屠畜場の設立が議決される。

※一七条 本法施行ノ際、現ニ存スル屠場ハ本法施行後三箇年
間ハ本法ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス 但シ本法施
行ノ日ヨリ起算シ許可期間三箇年以内ナルトキハ其ノ
期間ニ依ル

前項ノ期間終了後ハ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ

※一九条 本法ハ明治三十九年七月一日ヨリ之ヲ施行ス⁽¹⁰⁾

法律によれば、既設の私営業者も市営屠畜場が開設されるまで(最長明治四二年六月三〇日まで営業を続けることができる)営業を続けることになるが、一方、市では具体的に「市営」屠畜場の建設計画が練られることになる。

委員会は限られた時間内で屠畜場を建設しなければならないため早急に土地の選定や建設費等具体的な話し合いが続けられ、翌四一年八月、土地取得費や建設経費等九四一六円九〇銭(約五四〇坪)の土地取得費二六五〇円、屠場新設費六七六円九〇銭)が先行議決される。

予算が決定されたというものの、市ではその後、簡単そうに見えた土地選定も、法律と限られた予算と土地価格の三者が合致

しなければならず、土地選定にかなりの手間取りを見せる。

例えば当初、土地選定に愛知郡御器所村字藪田付近を買収する計画が立てられるが、(当村付近は名古屋市膨張の為一段と暴騰(土地の値上り)を来し⁽¹¹⁾) (括弧内は筆者記) いたため、限られた予算の関係上諦めざるを得ず、次に計画されたのが南区熱田町兵器廠付近に土地一千余坪を選定し県知事に認可求めるが、これも当地は東海道沿線にあたり行幸その他貴顕の通過等際に悪臭を放つ虞れがある等々の理由で不適當(明治四一年一月二七日県知事に照会、同年二月二日県より不適當の回答)と認定され、その他県への照会にまでは至らなかったが、東区芳野町付近の土地も候補に挙がるが諸般の理由により決定とまでに至らず、時のみが過ぎていく。

しかし一方、屠殺場と直接関わりをもつ売肉業者たちも、市の遅々たる態度に業を煮やし、四月八日、中区東古渡町の専売局の東方の八〇〇余坪の土地を買い上げ市に無償で提供したい旨働きかけるが、市もこの案に対し一度は触手を動かし仮契約を結ぶまでに至るが、今後の市の発展を考えた場合、県は屠場地として相応しくないと許可しなかった。期限が翌年六月三〇日に迫っているにも関わらず、このように市では屠場地選定に手間取り屠場建設など一向にその気配が見られなかった。

四二年一月に至って急遽持ち上がったのが東区古出来町の愛知郡東山村に接続する陸軍所轄地東方に位置する(市が当初買う計画の土地は五三〇坪)一一〇〇余坪の土地であった。これを知っ

た売肉商組合では生肉を扱う関係上余りにも市の東北に偏りすぎていると反対するが、市では屠場開設申請日である六月三〇日の期限も迫っていることもあり、また当地が市会議員（安藤一之助）の紹介でもあり当地を最適地と考え、県へ照会したところ一月一二日、「適当」とのお墨付きをもらい、翌二月二二日、土地の買収案が市参事会に提案され、三月一日土地の登記、三月二日買収という段取りで一気に推し進められることになった。

これを聞知した「名古屋売肉商組合」（肉販売業者と屠畜業者より構成）では、三月八日、代表者梅沢辰蔵ほか八名の代表者が市役所を訪れ市参事会、服部小十郎市会議長、その他市会議員に次のような陳情書を提出することになる。

陳情書

屠場市営実行の期、切迫したるに付ては屠場の位置を選定する事に関し理事者に於て百方苦心の結果、市内新出来町（古出来町）元陸軍臨時病院裏手に設置するの計画を立てられたりと伝聞す。若し果して然らば是れ当市の将来に対し由々しき一大事にして当市の不利益且つ亦営業者の困難一方ならず。抑も屠場市営企画の当初、屠場位置選定上に関し私共は市の中央部を以て適当とす。然り而して若し辺隅の地に設置せられんか、此の場合には極力賛成することを得ず。之れに反し市の中央にして適当なる地所に設置せらるれば双手を挙げて賛成可致と答申し置きたり。然るに意外にも今は当市の最北端なる新出来町付

近（古出来町付近）に其地所を選定せられたりと云ふに至つては私共一同実に一驚を喫すせざるを得ず。元来既往明治三十九年より今日迄遅延せしは中央部に於て適当なる地所を見出す能はざりし故なり。私共同業者の多数は営業の必要上概ね中央に店舗を有し、大曽根方面には僅々一、二名の存在するに過ぎず、且つ漸次名古屋港の繁栄を増進するに伴ひ同業者の南区に多数を占むるに至るべきは疑ひなく、要するに今日の情勢に照らし屠畜業者は主として当市南部方面に集中するに至らむ。今若し中央南部方面、築港はさて置き熱田より北端新出来町付近へ赴かんとするには往復殆んど四里以上の道程にして、夏期の如き六時間に於て新鮮なる肉を腐敗せしむるに至る哉も不計、其距離の余りに遠隔なる、寸分の時間を争ふ私共屠畜業者の到底耐ふる所にあらず。而して今や在来の私有屠畜場所在地なる御器所村及び千種町の両役場より屠場を公営して付加税を一頭に付き廿銭位と為し、十年間据置とすべき条件を以て私共へ契約締結の交渉あり。若し一理事者に於て強ひて屠畜業者に不便不利なる場所を選定して屠場に供せらる如きあらば、私共屠畜業者は自然已むを得ずして千種、御器所等付近町村役場に締結せざるべからざるに至り、随て当市財源に影響を及ぼすこと、なるのみならず、市営屠場の運命も亦甚だ不安なるを免がれざらむ。惟ふに適切な場所に市営屠場を設置せられんには当市は手を濡らさずして一ヶ年一万円以上屠畜税を収納すること容易にして屠場市営の元資金を償却し得べく当市の利益□れに加

ふるものなしと雖ども、若し其位置の選定を誤らむ乎、則ち屠業者は去て付近町村の屠場に赴き当市屠場収入は殆んど皆無に至らむ。是れ豈当市経済上の一大問題ならずとせむや。希くは予かじめ私共屠業者に於て選定せる東古渡町の地所を以て市営屠場に供せられむことを。(括弧内は筆者記)⁽¹²⁾

売肉商組合の陳情は市の建設計画地が余りにも東北地に偏りすぎ、売肉業者にとっては生肉運搬上(腐敗等を引き起こす)時間がかかり生肉を小売店(飲食店)に販売するには極めて不便であり、屠畜場はできるだけ市の中央に、出来得れば自分たちが希望している東古渡町周辺にお願いたしたいというものであった。

屠場を市の中央に造れという売肉商組合の主張は、今日の常識からすれば極めて常識はずれなもののように見えるが、それは獣肉等の生ものを保冷する技術が劣っていた時代では致し方なかった主張ではあろう。彼ら売肉商にとっては屠場を交通至便な中区東古渡町に設置をと願うのは当然の主張であった。

また、売肉商だけでなく三月二〇日、古出来町住民も町民総代鬼頭半右衛門を代表に六名の住民が市役所を訪れ高橋克守助役に面会を求め、当地に屠場を新設することは将来の同町発展にとつて妨害大なる理由を述べ、建設中止を訴える。

これに対し市は「既に新設の収用を終了し目下建築設計中なるものなれば、特別の理由なき限り位置の変更なきを意向にして到底陳情を容るゝこと能はざるべし」と突っぱねるが、鬼頭半右

衛門等は諦めることなく再三市役所を訪れ、同様の反対主旨を述べ建設中止を訴え続ける。

飽くまでも東北僻地である古出来町(新出来町)付近に拘泥する市の方針に対し、関係地域住民と売肉業者の両者も、その反対理由は異なるが、市が頑なな態度を示せば示すほど両者は結束し設置反対の姿勢を強めていった。

しかし、四月の中旬になると市の態度が一変し、「市営屠場に関して新出来町の敷地に建設せんと目下設計中なるも、(前述したように)其後同町の有志者及び屠牛商等より反対現はれ種々の陳情書を提出したると、市にても新出来町を最適当地と認め居らざる為め昨今行悩みの苦境にある」(括弧内は筆者記)⁽¹⁴⁾と市の一時期の強がりに翳りが見え始める。

それは売肉業者や地域住民からの強力な圧力が効を奏したからだけではなく、当地が屠場法に触れる虞(成蓮院という寺が存在していることが判明)が生じてきたことと同時に、それもさることながら当地の売買過程に致命的な問題が浮かび上がってきたからであった。

※「屠場ノ構造設備標準」(明治三十九年六月二十七日(内務省令第一七号)⁽¹⁵⁾)

屠場ノ位置ハ獣畜ノ搬入、屠肉ノ搬出及給水並排水ニ便ニシテ左ノ各号ノ地域外タルコトヲ要ス

一、離宮、御用邸又ハ御陵墓ヨリ五町(約五五〇m)以内ノ地

二、社寺、学校、病院、公園又ハ水道水源ヨリ二町(約二四〇m)以内ノ地

三、前各号ノ外、地方長官(東京府ニ於テハ警視總監)ニ於テ風教上若ハ公衆及獣畜ノ衛生上不適当ト認メタル地

(一、二の括弧内は筆者記)

後者の土地売買過程の問題とは土地を斡旋した市議員である安藤一之助が(其親族の名義を以て右候補地を一坪一円九十銭内外にて買取し、直ちに之を市に対し三円九十五銭にて売付け、安藤氏は之に因り少なからざる利益を占めた……)という疑惑が発覚したことである。

このことを知った住民の代表である柴田嘉兵衛、小関勝輝、夫馬真好の三名は六月三日、市役所を訪れ高橋克守助役に面会を求め、市の屠場敷地取得における経緯に疑義があるとして市参事会及び市会議長にあて、新出来町岡田理馬吉を総代表に東北部十七カ町三〇余名が連署した土地転がしの経緯を記した「建議書」^[17]を提出する。

建議書

一、市営屠牛場設置の爲め本年三月中、古出来町に於て其敷地千六十四坪を一坪三円九十五銭の高価にて買取し市有財産に編入せられたり。之が不当価格なるを左に開申す。

・本件敷地は古出来町字北ブシに属し、地主は同町柴田半左

衛門にて大樹木付一坪一円五十銭にて佐藤則光に売却せり。

・佐藤則光は未登記の俣一坪一円八十五銭にて奥村統三郎に売却せり。

・奥村統三郎は又未登記にて之を一坪二円九十銭にて安藤銀三郎に売却せり。

・安藤銀三郎は一坪一円八十五銭にて直接柴田半左衛門より買受たる如く装ひ登記を経たり。

・安藤銀三郎は登記の翌日、樹木悉皆を伐採する約束にて土地のみを前記の一坪三円九十五銭にて市に売却せり。

・樹木の評価は低価に見積るも百円以上なり。故に安藤銀三郎は登記の翌日、僅に一夜の中に一坪一円四十五銭の暴利を占めたり。此暴利合計千六百四十二円八十銭也。

・本件敷地の隣地は現価一坪二円なれば買取容易に整ふ。

・安藤銀三郎は市の公職者中錚々の聞えある安藤一之助の父なり。伏して惟ふ。市会は神聖にして常に厳格に慎重を加へ案件事毎に反覆審議せらるる故に、幸に其職権により深く審査を遂げ急速其顛末を明確にし、市費は勉めて冗費を省き不当支出を杜絶し、市民をして安堵せしむべき措置せられん事切望の至りに堪へず。

関係住民から、このような土地の不正売買を暴露した建議書が提出されては市もこの問題を等閑しておくわけにもいかず、六

月一四日、市会において大論議が交わされることになる。市会の冒頭、石黒警委員長はこれまでの土地取得の経緯を次のような報告した。

最初東区古出来町地内ニ敷地ヲモトメ、理事者ハ其手續ヲ急ギ一月十日県警察部ヘ照会シタ処、当局ハ其近傍ニ人家ガアリ少シク注意セヨト云フコトデアッタ。処ガ他ニ適地ナク（この地を）ヲ買収シヨウト云フコトにナッタ。其持主ノ一筆ハ伊藤五郎吉、他ノ二筆ハ柴田スミノ所有デ、申込ンダノハ安藤一之助君デ、拙者ガ扱ヘバ必ズ売ラセテ市ノ所有ニサセル、買ツテハドウデアアル、ト云フ事デアッタ。安藤一之助君ハ信ズベキ市會議員デアルカラ——今カラ或ハ信ジ過ギタカモ知レヌガ、土地ノ価格ヲ取調べナカッタノデアアル。取調べニ理事者ハ好マレナカッタノデ、信ズベキ人ニ私ハ問合せタ結果、安藤一之助君ノ内ノ安藤銀三郎ヘ三月一日ニ登記ガ移ッタ。市ノ買ツタノハ三月二日デ、値段ハ三円九十五錢デアアル。最初ノ売主ハ二月デ一円五十錢デアツテ、安藤一之助君ハ始終関係シタ人デアアルコトハ事実ラシイ。屠場費ヲ市会ガ決議シタトキ五百三十坪ヲ一坪五円デア買フ事ニナツテ居タ。然ルニ此度市ノ買ツタノハ四百九十九円十六錢六厘デ、不足額一千五百九十九円十六錢六厘ヲ予備費カラ支払ツタ事ニナツテ居ル。ナンノタメ千坪以上買ツテ、マタ金ヲ殖シタノカ理事者ノ所為ハドウデアラウ。併シ結局土地ハドウナラウ。屠場法ノ構造設備準則ニヨルト、神社、仏閣若クハ学校等ヨリ二町以内ノ区域ニ設置ヲ許サヌノ

デ、其処ニ屠場ヲ設ケラレナイコトニナッタ。更ニ此場合二月二十二日付ニ提出シ、二十三日市参事会ノ裁決ヲ受ケタ書面ヲ見ルト、屠場建設候補地位置変更ノ件トナツテ居ル。本文ニハ「屠場候補地トシテ前ニ当市東古渡町字大井戸四十八番地畑地外二筆、此坪数四百四十五坪、政略上尾崎才市名義ヲ以テ買収ノ件決裁ノ上、既ニ代金仮払中ノ処、追々該地所ノ周囲發展ヲ来タシ目下不適當ノ地所ト相成候ニ付、更ニ候補地選択、前記ノ場所ヲ適當ト認メ本県ニモ照会云々」ト云フ事ニナツテ居ル。既ニ四十年ノ頃、尾崎才市ノ地面ニナツテ居ル。而シテ屠場地トシテ参事会ノ決定ヲ経テ、四十年二月十四日ニ登記ヲ受ケ尾崎才市名義デ四百五十坪ノ土地ヲ買入レテアル。金ハ三千元ト云フカラ一坪六円七十四錢一厘シカナイノニ三千円使ツテ居ルガ、屠場ニナルト近傍ノ人ハ土地ヲ売ラナイ結果ラシイ。故ニ更ニ第三回ノ土地ヲ求メネバナラヌト云フノガ今日ノ実況デアル。¹⁸⁾

と、これまでの屠場敷地買収経過の報告が行なわれ、この報告後、各議員から質問が行なわれる。

青山鉞四郎議員 元来一円五十錢ノモノヲ三円九十五錢即チ倍以上デア買ツタ事ハ理事者ノ眼ハ何処ニツイテ居ルノカ。之ハ衛生課長ノ責任ノミナラズ市参事会員諸君モ責任ヲ衛生課長ニ負ハセテ傍観シテ居ル訳ニハ参ルマイト思フ。予算外ノ支出ヲシテ予備費カラ支出スルニハ甚ダ不都合デアアル。市会ヲ開イテ協議ヲ求ムベキ筈デアアル。然ルニ得手勝手ニ予算外ノ

支出ヲシタノハ理事者ニ於テ責任ガアラウ。今後ノ善後策ニツキ損ヲ致サヌト云フ一片ノ答弁ヲ以テ市會議員タルモノガ黙ツテ聴ク訳ニ行カヌ。

これに対し加藤市長はつぎのように答弁する。

加藤重三郎市長 結果ヲ見レバ如何ニモ御尤モデアルガ、此価格ハ不当デアルマイ。各所ヲ探シテモイヅレモ五円位デ買ヘル所ハナイ。高イノ八十円カラノ申出ガアツタノニモ拘ラズ三円九十五銭トカ四円ト云フノハ如何ニモ廉イト云フノデアイニ喜ンデ飛付イテ確定シタルヤウナ次第デアル。現場ニハ如何ニモ寺ガアルガ、併シ寺ト云フヤウニ見受ラレヌガ、藪蔭ニ小サイ寺ガアル。一見藪デモ中ヘ這入ツテ見ナケレバナラヌノニ唯藪デアツタ位デハ言訳ニナラヌ。兎ニ角不注意デアラウ。未ダ如何ニ処置スルカ決定シテ居ナイガ、相当ノ処置ヲ致サナケレバナラヌト考ヘテ居ル。

また、水野寅吉議員はこの市長の答弁に対し、次のような質問を行なっている。

水野寅吉委員 市長ハ如何ニモ才ナイ答弁ヲセラル、ガ、当該課長ノ失態ニ非ズシテ市参事会ノ失態デアラウト思フ。其寺ト云フノハ今ヲ去ル百四十年前明和六年ニ出来タノデ、昨今産レタモノデハナイ。偶然ノ過失デナイ。之ハ不親切ノ結果デアルト断言シテ憚ラズ。其証拠ニハ市参事会員ハ一人モ視察ニ往ツテ居ラヌ。全然当該課長ヲ信ジ当該課長ニ紹介シタル安藤其人ヲ信頼シテ茲ニ至ツタノデ、本員ハ第一ノ喫驚

トスル。第二ニ市会ニ五百三十坪ト云フ予算ヲ立テ、アル以上、若シ足ラナケレバ更メテ何故市会ニソレヲ諮ラレヌ。マタ東古渡ハ四十年ノ二月ニ売買シテ居ル。之ハ追ツテ市会ノ承認ヲ経ル条件デ市参事会ノ決定ヲ経テ居ルニ拘ラズ市ノ所有トナツタ報告ガナイナド実ニ不親切ナル扱方ヲ為スニ至ツテハ吾々ハ驚カザルヲ得ス。単ニ本問題ニ付テ疎漏トカ怠慢トカ云フ意味デナク兎ニ角越権不法ノ所為デアラウ。本員ハ之ニ対シ問責案ノ緊急動議トシテ提出スル¹⁹⁾。

等これまでの経緯の不透明な点が追及され市政の混乱が続く。

※富山泰造衛生課長は屠場設置に関しその位置、内務省令の規定に抵触することに気付かず市に土地買収を勧めた廉(職務上の過失)で八月二〇日付をもって罰俸一〇分の一の懲戒処分¹⁹⁾に処せられる。また高価な価格で買わされた古出来町の土地は市の水道資材置場に使用されることになった。

議会においても、関係住民の指摘においても土地売買過程の疑義や屠場法に沿わない土地選定であったこと等が浮かび上がった以上、市にとって到底当地での市営屠場の開設は断念せざるを得ず、市民の肉需要の対応に支障を来たすことになった。

このため市では屠場法による設置認可の効力が失する六月三日をもって廃止されることになっていた中区門前町・大口竹次郎経営の愛知郡千種町の屠場と東区富沢町・福沢辰蔵経営の同郡御器所村の両屠場を市営屠場が新設(市では一月三十一日までに屠

場完成を期し早急に土地選定に入る)されるまで延長営業が許可されることになる。

※屠場法第一七条(期間終了後ハ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ)により延長が許可される。

二

次の候補地を選定するにおいても一定の期限内(一月三一日)という制限が課せられている以上、市も悠長に構えておるわけにはいかなかった。市理事会では市民の肉食需要に対応するため、手っ取り早く大口竹次郎所有の愛知郡千種町大字下古井の私設屠場を買収しようという案が持ち上がる。

当地の敷地は六〇〇余坪の狭い屠場であったが、さいわい隣接地が大口氏の所有地であったため、その一部四〇〇坪余りを買取り一〇二八坪の土地を買収しようとするものであった。

問題は坪単価が古出来町の土地よりも倍近い一〇円余りと高く、買収するには土地買収費(一万円余)と新設費(一万五千円)合計二万五千円をもって着手しなければならず、調査委員会は八月一六日、市参事会に土地買収費と新設費の追加予算案を提出することになった。

前回の二の舞にならないためにも八月一八日、加藤重三郎市長、富山泰造衛生課長をはじめ市参事会員等が同敷地を視察し、八月一九日市参事会において審議、是認の上、二六日、予算案が市会に提出されることになる。

八月二八日、一回目の屠場敷地委員会が開かれ、石黒磐委員長は(……(愛知郡)千種町の大口屠場が、来る一〇月一日より市に編入する事になりたる結果、選定したる由なるが、某氏の如きは屠場法の法律には別段違反の箇所にあらざるも、同所は近く改修せる春庵横町線の西端にして共進会場へは僅か百三十間(約二三〇m余)の距離あるのみにて、将来人家稠密ならんとする趨勢あれば、今日法規上差支えなく共、市永遠の事業としては尚他に適當の場所を見出したきものなり……)(²⁰括弧内は筆者記)との意見が述べられ、緊急措置として(一応)原案を決定することになるが、また変わり得る可能性をも示唆した。

※共進会とは「第一〇回関西府県連合共進会」のことで、一九一〇(明治四三)年三月一六日(同六月一三日)の約三ヵ月間にわたって鶴舞公園で開催された博覧会。当博覧会の参加府県は三府二八県にわたり約一三万点が出品され、入場者数も約二六〇万人の多きに達し、明治一六年、第一回共進会が開かれて以来最も大規模な博覧会と言われた。

八月三〇日、二回目の屠場敷地委員会が屠場委員七名と富山衛生課長等が東陽館に集まり、共進会との距離、屠殺場建築設計の図取り、付近の道路、人家との関係等につき詳細な話し合いと議論が重ねられた。

九月二日、第三回の屠場敷地委員会が市役所内で開かれ、議論も平行線のまま纏まらず、再考を要すると結論づけざるを得なく

なっていく。

売肉業者たちの間には大口氏の愛知郡千種町字下古井の屠場なら従来と変わらないため悪くはないと思っていたが、九月に至っても市が未だ結論を出さなかったため、売肉業者の間にはひょっとしたら、市は新たな候補地を選定しているのではないかという疑念と同時に苛立ちが見え始める。

売肉業者の憶測通り理事者側では口入師を頼りに秘密裡に次の候補地の選定がなされていた。九月中旬に至って、西区菊井町五丁目付近に新たな土地を模索しているという情報が売肉業者に伝わるや、茲に於てか市当局者は窃かに他の某方面に候補地を選定中の由、端なくも当業者の聞知する処となりしより売肉商組合は大いに狼狽し、業者の希望し居る下古井（愛知郡千種町字下古井）を今更他に變更さるゝは一同の苦痛を感じる次第なれば、是非今回の場所を市営屠場地に選定されたし⁽²¹⁾（括弧内は筆者記）と加藤重三郎市長。服部小十郎市会議長、石黒磐調査委員長に向けて激しく抗議する。

さらに組合は九月二〇日、東区富沢町の桔梗亭において秋季総会を開き役員の変更と、目下問題となっている屠場の位置問題に関して「屠場は従来使用し来りし千種町字下古井私設屠場所を以て市営屠場の候補地とするの件」を満場一致で可決し、〈若し之に反し運搬不便なる地を以て候補地を決定さるゝに於ては極力反対運動を為すこと⁽²²⁾〉とし、この問題に直接関わる人々を再度役職者に人選した。

名古屋市営屠場開設に至るまでの経緯と部落問題

※総取締御器所村の屠場経営者梅沢辰蔵、取締役に千種町の屠場経営者大口竹次郎以下七名と、相談役二名を決定する。

このように市と売肉業者（売肉商組合）との激しい攻防が続くなか、市の屠場設置調査委員会は九月二二日、市役所にて会議を開き、〈千種なる予定地は調査の結果、甚だ不適當にして尚ほ他に良好なるものあるべき見込みを以て止む無く原案を否決する⁽²³⁾〉と発表、同時に新たな候補地として予てから調査していた西区南押切町字下台所（田六筆一二九五坪）の地を新屠場地と決定し直ちに地主と掛け合うことになる。

九月二六日、市では当地を市営屠場の予定地に急遽決定したため、関係地主及び周辺住民に対し翌二七日、市役所に出頭された旨呼びかける。これに対し当該地主や付近の居住民等は〈何等の沙汰なく……一昨二十六日に至り地主に対し屠場設置の予定なる旨を告げ、翌二七日出頭されたい〉とは何事かと怒り、〈屠場の如き営造物は土地の繁栄を害すること甚しい⁽²⁴⁾〉として余りにも強引ともいえる市の姿勢に不快感を示し、地主たちは二七日の市役所への召喚に応じようとしなかった。

それを横目に市では彼らの反対を予測し、県に土地収用法による土地収用の許可を求めていたが、二五日、許可を得、二九日、県公報に深野知事による告示が掲載される。

一〇月一日、市参事会が開かれ、西区南押切町下台所の地を土地収用法により買収することを決定、屠場法施行規則第一条によ

り県知事に対し即日屠場設置認可を求めることになる。

市が一〇月五日より実測設計に要する敷地測量等を始めるという報に接した地主及び住民側は「……従来各方面にて歓迎せざる屠場を最後に押切に決せしは我々幅下の市民を無視したる処置なり……」⁽²⁵⁾と憤懣。一方、牛馬肉営業者も「……位置余りに西北に失し営業上不便少なからずとて反対……」⁽²⁶⁾し、同月三日、住民側は一層の団結を図るため『反対期成同盟会』を組織する。

同盟会では菊井町総代大橋貞正と南押切町総代太田牧太郎等を代表に選り南押切に近い新道町に住む富山衛生課長を訪ね屠場設置反対を陳情、翌日四日には前記代表者をはじめ四〇名の住民が市役所を訪問、榎戸利吉助役に面会し同様の意思表示を示し、他に適当な地を模索していただきたい旨陳情する。引き続き同月九日には西北部の住民有志と売肉商組合では西区菊井町の菊井座において反対演説会を開催する。

また同月一四日には関係地主及び西北部住民有志は市役所を訪れ、服部市会議長及び市参事会にあて、当計画は屠場法に触れる虞れと屠場の設置により地域の環境が悪化する虞れありとし、次のような陳情書⁽²⁷⁾を提出する。

陳情書

- 一、屠場設置のため付近住民は自然に悪環境を受けて殺伐の気風を養ひ、
- 一、敷地の近き処に住居する森村陶器組の下工場従事の工男女

は総計二百人余あるを以て人口稠密を避くるの規程に抵触し、

- 一、高所にある鉄道線路よりは屠場内の諸設備を瞰下するを得べく、従て貴頭の御通過に際し不敬の虞れ無しとせず、
- 一、西北部発展の爲め箕瀬川改修の件は既に市当局者に建議せし処なるに、同地方の発達を阻害する屠場設置の爲め本件の前途に憂ふべき結果を来すべし

また、同月一六日にも井深基義、祖父江道雄を代表に二〇名ほどの住民が市役所を訪れ加藤市長、服部市会議長宛に陳情書を提出する。また同日夜七時から西区菊井町菊井座において屠場反対住民有志と売肉商組合員併せて三〇〇余名の参加のもと屠場反対大演説会が開催される。

同月二一日にも梅沢辰蔵、大口竹次郎を代表に売肉商組合員一〇〇余名が市役所に榎戸利吉助役を訪ね、同業者八三名が連署した陳情書⁽²⁸⁾を提出する。

陳情書

- 一、新設市営屠場は率子運搬往復の如き数倍の時間を要し、夏期の如きは或は肉類腐敗の素菌醸すやも計り難き懼れあり。
- 一、市営屠場の新設し其税金を以て名古屋市発展の財源たらしむるため市営と為すが如きは議論あるも、深野知事は現在

の旧私設位置に在つて支障なきを信じ、我々同業者も亦現
在の場所に在るを適當の位置とするを何を好んで之れを
更し、曳て一般公衆に損害を与へんとするや。

一、市営屠場として市の得る処は僅かに一万円なり。然るに屠
場新設費予算計上せられたる外に三十九年内務省令第十七
号第二項、第一号乃至第七号に設備費用一万円。尚新設屠
場付近の工場三ヶ所は数千人の職工出入し且寄宿し居る場
所なり。屠場設備の上は之れに對し衛生上危害を加ふるに
至るを以て是非共買取せざるべからず。然らば之加賠償金
約十万円を合して總計十三万円を費やし一ヶ年一萬円の財
源を得て市の發展幾何の資する処ありや。

市が県に提出した屠場新設許可願いの書類が一〇月九日、一部
不備が指摘され差し戻されるが、訂正のうえ再度県に進達、結
果、同月二〇日に至り県より屠場新設許可が下りたため、翌二一
日、市は内閣総理大臣宛に土地収用法により事業認定方を申請す
るといつた両者の攻防が一層激しさを増していく。

また、一月に入るや、牛馬豚が屠場に搬送される前に各地の
口入師や直接飼育人が持ち込んで賑わう中継地となつていた市内
の養老町、板橋町、前津小林町の商売人―飲食店や雜貨店等の
人たち―も、郡部にある両屠場が廃止されることによつて糊口
に失する虞れを憂い、市役所に「希望書」⁽²⁹⁾を、また売肉同業組合
も同時に「意見書」⁽³⁰⁾を提出し移転反対の意思表示を展開する。

希望書

一先年当地へ屠殺設置以降夫々目的を立て屠場へ出入し同所
用を弁じ、又は牛馬の飼養を為し、或は他所より曳き來たる処
の牛馬豚の売買口入れを為す等を以て營業と為し、数年間糊口
を為し居るものにして住民悉く該業に従事するものには無之候
得共、雜貨竝に飲食店等の如きは屠場へ出入する人の為め大に
名古屋市民の繁榮を助け、夫れが為め生活の道を助けらるゝ姿
に相成居り。然るに今該屠場を他へ移転する等の如き事あらば
我々調印者は其日より生活の道を失し且つ亦建物等も勢ひ移転
せざるを得ず。之れ亦我々に於ては非常なる出費と云はざるを
得ず。剩さへ糊口の道を失する有様にして他雜貨、飲食店の如
きも大に売上高を減ずる事に付、現今使用しつゝ有る屠場の移
転は絶対に反対の意見を有するに依り数年間該屠場の据置きを
希望するもの也。

明治四十二年十一月吉日

大野竹次郎 印

外五十八名

意見書

別紙希望書を按ずるに、従来屠場設置の場所に對し該場所二
丁以内の所に於て凡七十戸内外なるに、他へ移転を希望するも
の、即ち反対者は僅かに四、五名に過ぎざるものと見て支障な

からん。然るに該住民七十戸内外の内、過半以上屠場の為め衣食し居るものにして反対者四、五名の者は近頃他所へ移転せしものなれば是非もなき次第なるが、当組合の如きは従来の処に据え置かれて差障へなく且つ亦風説に依れば或る筋に於ても当分内は旧来の所にて差支えなき様聞知すると雖も、確たる実績は無之も当組合に於ては旧来の場所を希望するものに有之。尚ほ若し私設を許さるるも市へ収入の屠畜税は牛一頭に付金一円、馬一頭に付金五十銭、羊豚二十五銭づゝなるを以て今市営として数万円の費用を投ぜざるも、右税金は市の収入となるを以て手を濡らさずして税金即ち一ヶ年一万円内外得ればなり。茲を以て市は非常なる利益なるに付深く御講究有之度候也。

明治四十二年十一月吉日

名古屋売肉商同業組合 印

一月八日、屠場移転反対を掲げる養老町屠殺場周辺地域の住民（商業者等）の代表、植田音吉、白杵忠次郎等。西北部地主連を代表して野田利右衛門、加藤彦右衛門、大橋貞正、久田友吉、岡田万次郎、笹生新平、木村直謹、西浦右載。売肉同業組合からは大口竹次郎、各務菊太郎、坂野万次郎、堀田末吉、市川吉作等の三者合同の連合会を開き、次のような決議をした。

一、市内南押切町字下台所に屠場を新設するは飽く迄⁽¹⁾反対のこ
と

一、他に新設するの理由ありとすれば適当にして反対者なき土

地を選定すること

一、右三項の目的を達する迄互に気脈を通じ大々の運動を為し是非共目的を達すること

一、其目的を達する為め運動の方法は時々協定すること

一、市理事者に於て強制的に設備せらるゝ場合は内務省内閣総理大臣へ陳述書を奉呈すること

一、土地収用法を執行せらるゝ場合は訴願の手続きを為すこと

一、右事項に付協議会開会の節は各委員は前日に通知を受けたる時は必ず出席するものとす

しかし、屠場敷地は一月一〇日、土地収用法により収用することが内閣総理大臣の公告により認定公告され、一七日、次の通り深野知事より収用すべき土地の細目が公告された。

収用土地細目

名古屋市西区南押切町下台所六田、八田、二二田、二二三田、二四田

これによって一八日、市は関係地主に対し、二二日に市役所に
出頭するよう命じ土地売買の交渉に入ることになる。

二二日に出頭したのは山田又吉、山田寿と他の地主の二名の代理人として大橋貞正が出頭するが、市側は坪四円にて買収したい旨提示した。三人は即答を避け「屠場敷地としては絶対に承諾し

能はざるも、二十六日迄延期を乞ひ、更に一同熟議の上何分の回答を為すべき旨⁽³²⁾を応えて退出する。

※愛知郡千種町及び同郡御器所村の両屠場の使用期限は一月三〇日であつたが、両経営者は土地収用を含め市営屠場新設が未だ捗らないため翌四三年三月三〇日までの使用延期願を副申書を添え県庁に進達した。

その後も市と西部倶楽部とは膠着状態が続き一向に進捗しなかつたため、一二月の中旬に至り西区長辻永種が市と地主側の仲介に入り、地主側に対し「該敷地は既に内閣総理大臣より土地収用法を適用すべきものとの認定を受けたものなれば、今更頑強なる反対を為すは徒に世の嗤笑を買ふのみにて何等詮なきが故に、相当折れるべき場合には速やかに折れて出る方得策なり」と諭した。

これに対し地主側は「屠場の設置に反対なるは固より私利を営まんとするにあらず。当市西北部の繁栄に妨害あるべきを憂慮するより出でたるものなれば、市当事者にして笈瀬川の改修、道路の築造等西北部繁栄策を講ずることを予約せられんには喜んで土地の買収に応ずべし⁽³⁴⁾」と、市が一定の条件を呑んでくれさえすれば我々は頑なに反対するものではないと、区長にこれまでの市への強硬な返答とは裏腹に当たり障りのない返答をしている。

一月十九日、市内の西北部有志、富田重左衛門、太田牧太郎、大嶽辰三郎、大橋貞正、加藤彦左衛門、坪内兼吉、中島茂

名古屋市営屠場開設に至るまでの経緯と部落問題

吉、野田利右衛門、山田蔵三郎、西村有載の一〇名が発起人となり、西区新道町正覚寺において各町総代、衛生組合役員並有志者一二四名が参加し市営屠場新設に関する協議会を開き次のような決議をした⁽³⁵⁾。

一、江川警察署管内西北部各町住民一致協力、市営屠場新設に
関し反対の方針を採る事。

一、市当事者が現今行ふ処の施設は頗る一方に偏し甚だ公平を
欠くものと認む。

一、市当事者現行施設に対しては自営上相当の對抗策を採る
事。

同会は大橋貞正以下一八名の委員を選び西北倶楽部よりその範囲を拡大して堀川以西の各町全部を包含し極力一致の態度をとるよう申し合わせる事となった。

※その他の委員、里村升吉、八木直克、井深基義、青木錠太郎、神谷為吉、竹内梅三郎、阿部小兵衛、中島茂吉、服部友七、斎藤賢次郎、堀内銀作、加藤啓八、加藤彦左衛門、太田牧太郎、野田利右衛門、大嶽辰三郎、富田栄平、富田忠利

さらに二二日に至り、西北倶楽部では委員会を開き次のような決議をした⁽³⁶⁾。

一、市営屠場新設及均衡を得ざる市の新設に関し当局者の反省を
需むる為め委員は二月廿四日を期し知事、市長に陳情

すること。

一、開市三百年記念祭に関する市の勧誘に対しては絶対之に応ぜざるも、市民の義務として国旗を掲揚し祝意を表するに止むること。

しかし、このような反対論が展開されていく中で、市営屠場新設の動きは着々と具体化していく。年も明け一九一〇（明治四三）年一月一八日、県庁において本県土地収用審査会が開かれ、二五日、土地所有者に対し出頭が命じられる。

当日、土地所有者である山田又吉、中島茂吉、山田寿、樋口喜三郎の四名は市役所にて本県土地収用審査決定価格料金書（一坪四円）を受取るが、土地の強制収用に対しては是認せざるを得なかつたが、山田蔵三郎、堀田なみえ両地主だけが坪四円に納得せず飽くまで反対を貫き通した。（山田蔵三郎は脱落し坪四円にて承諾）

四月六日、堀田なみえは名古屋市を相手取り南館文一郎弁護士を訴訟代理人とし土地収用審査会が与えた裁決（坪四円）を不服とし、所有地三四六坪に対し坪一円と、一円に対する一日五朱の賠償利息金支払い請求を名古屋地方裁判所に起した。

※この裁判は堀田なみえ所有の田地、同区台所町一番、一反一畝六歩外畦畔十歩は本県土地収用審査会の裁決による一坪四円の標準価格で収用したが、該田及び畦畔は市が収用する前に於て他に坪五円で譲渡する約束をなし、既に若干の前金を

領収しているため前記所有者に対し一坪に付金五十銭の賠償金を支払うことで決着する。

一方、裁判とは裏腹に市営屠場建設は進行し三月二八日、榎戸利吉助役、仁村俊徳土木、富山泰造衛生両課長の参列のもと地鎮祭が執行され、本格的に屠場建設が始まると同時に、本屠畜場が建設されるまでの仮屠畜場が本体工事の西方に設けられ、五月一日より屠殺が開始される。

その間にも名古屋市営屠畜場建設の本工事は着々と進められ、明治四三年九月二〇日二村俊徳土木、富山泰造衛生両課長による下検査を終え、二二日午前、加藤重三郎市長はじめ市参事会員による精検を、また同日午後には県当局の検査を受け待望の市営屠場がここに完成する。

明治三九年一〇月四日、市役所において市営屠場設立に関する協議会がもたれ、四一年八月には屠場建設費等も議決されるが、その後の土地選定——売肉業者や住民による設置反対、屠場法との関係——に手間取り遅れること二年、予算も当初の五倍余にも跳ね上がったが、まる四年を費やし明治四三年一〇月一日より「名古屋市営屠畜場」として本格的に事業が開始されることになる。

この市営屠場が開かれる前（屠場法が施行された頃）の県下の屠場数は「はじめに」に掲げた通り二一カ所あったが、一市一郡一カ所の屠場法の規程により、県下では今回取り上げた名古屋市

営屠場をはじめ碧海郡知立町、額田郡岡崎町、幡豆郡西尾町（以上は公営屠場）、丹羽郡犬山町、知多郡成岩町、豊橋市、北設楽郡本郷村、南設楽郡新城町、渥美郡高師村、渥美郡福江町、葉栗郡北方村（以上は私営屠場）の一二カ所に激減することになった。

おわりに

これまで見てきたように、市営屠場を新設するための土地探しは、住民とのトラブルの中で名古屋市内を一巡（愛知郡御器所村字数田↓南区熱田町兵器廠付近↓東区芳野町↓中区東古渡町↓東区古出来町↓愛知郡千種町字下古井）し、最後に行き着いたところが県下最大部落を近隣に控えた西区南押切町に落ち着くことになる。

当事件は百年ほど前の名古屋市と住民・業者との間の屠場設置に纏わるトラブルではあったが、戦後もこの種の施設ではないが、ある種の施設の建設に伴う住民とのトラブルは拡大の一端を辿ることこそあれ一向に止むことはない。

公益が優先するか、私益が優先するか、あるいは総論賛成、各論反対等、その対象——かつては嫌忌された対象も科学の進歩や住民意識の変化によって解決されてきたものもある——こそ時代とともに変わってきてはいるが、それに伴うトラブル自体は止むどころかむしろ激しさを増している。恐らく今世紀は住民闘争——住民運動——の幕開けになるのではないか、そんな予感がする。

註

- (1) 〈從來斃レ牛馬有之節ハ穢多ヘ相渡来候処自今牛馬ハ勿論外獸類ヲリトモ總テ持主ノ者勝手ニ所置可致事〉「従前穢多ヘ渡来ル斃牛馬等獸類自今持主ノ処置ニ任ス」（太政官達第一四六号）『法令全書』一八七一（明治四）年三月一九日
- (2) 「屠牛取締方ヲ定ム」（大藏省達三八号）『法令全書』一八七一（明治四）年八月
- (3) 「無題」『愛知新聞』一八七二（明治五）年七月 一九号
- (4) 無号布達「愛知県史料（五）制度之部」一八七三（明治六）年一月 明治六年二月の『愛知週報』（第二号）には〈県下屠牛場是迄第一大区小四区南外堀町一ヶ所ニ限リシガ、肉食日ニ開クルニ付テハ向後牛及牛酪渡世所望ノ者ハ人家懸隔ノ地、田畑ノ害ニナラザル場所ヲ撰ミ願出ツベキ旨布令アリタリ〉と記されている。
- (5) 「無題」〈本県元非人権九郎、円四郎、元穢多小市、スエ女四人、近頃商方用達ニ列セリ。小市ハ手代数百人ヲ率テ屠牛場ノ総括トナリ、権九郎ハ士族ト縁組シテ近日、本町エ新店ヲ開ント企タリト……〉『名古屋新聞』（文明社）第三号 一八七二（明治五）年一月「神戸が第一位」『郵便報知』一八七五（明治八）年九月二二日
- (7) 「屠獸取締規則」
 - 第一条 屠獸営業を為さんとする者は屠獸場近傍の地形及該場構造の略図を添へ別紙第一号書式に準じ願出許可を受くべし
 - 第二条 屠獸場は一郡区内適當と認むる地にして人家を隔ること三十間以上、且汚水疎通の便宜を得、左の各項を具備するにあらざれば之れを設くるを許さず
 - 一、周囲に堅牢なる壁牆を設くること
 - 二、場内を区画して検査所、屠殺所及繫留所を設くること

三、屠殺所内は堅蜜なる鋼板を張り、其周囲には漆喰製の溝渠を設けること

四、臓腑等の汚物を除去する器具を設けること

第三条 前条の構造落成したるときは所轄警察署又は分署に届出検査を受くべし

第四条 屠獸場入口には左の雛形の看板を掲げ置くべし

免許 食用屠獸場 住所 氏名

第五条 代替並に譲受のときは別紙第二号書式に準じ新規営業を願出べし。但廃業、譲渡、改氏名は其都度届出べし

第六条 屠獸せんとするときは其前日、獸名、頭数、牝牡の別及其年齢を詳記し所轄警察署又は分署へ届出べし

第七条 屠獸日時には該獸を場内検査所に引致し、警察官吏及医員の検査を経、其証印を受くべし。但屠殺の都度其斤量及一斤の売渡代価を記し警察官吏に 差出すべし

第八条 屠獸場に於ては食用に供すべき牛羊豚の外屠殺するを許さず。但本条の獸類は場外に於て屠殺するを許さず

第九条 孕牛病並不健康と認むるものは渾て屠殺を許さず。但屠殺後と雖も有害と認むる肉は勿論不注意に依り屎尿等にて汚穢したる部分の肉は焼棄又は埋没せしむべし

第十条 屠獸場は清潔を主とし汚物は速かに取片付、屠殺所は每獸屠殺の前後洗滌して血液等の溜滞せざる様掃除すべし

第十一条 獸疫流行の節は其病勢に依り一切屠殺を停止することあるべし

第十二条 此規則に違背したるものは違警罪を以て罰せらるべし。但第八条に違背したる場合に在ては尚ほ獸肉を没収すべし

※「売肉取締規則」は省略

(8) 第六条「屠場法」(法律第三二号)『法令全書』明治三十九年四月一

一日

(9) 「屠場市営問題」『新愛知』一九〇六(明治三九)年一月五日

(10) 附則・第一七条「屠場法」(法律第三二号)『法令全書』明治三九年四月一日

(11) 「屠場市営の行悩み」『扶桑新聞』一九〇七(明治四〇)年三月九日

(12) 「屠場市営と陳情」『扶桑新聞』一九〇九(明治四二)年三月一日

(13) 「市営屠場反対と市当局者」『新愛知』一九〇九(明治四二)年三月二六日

(14) 「市営屠場の其後」『扶桑新聞』一九〇九(明治四二)年四月二四日

(15) 「屠場ノ構造設備標準」(内務省令第一七号)『法令全書』明治三九年六月二七日

(16) 「屠場問題醜聞」『名古屋新聞』一九〇九(明治四二)年五月三一日

(17) 「屠殺場と建議」『名古屋新聞』一九〇九(明治四二)年六月四日

(18) 「第十三節 屠場敷地買取問題」『名古屋市会史 第二巻』一二七五頁〜一二七七頁 名古屋市会事務局 一九四〇(昭和一五)年

(19) 同前一二七八頁〜一二七九頁

(20) 「屠場問題委員会」『扶桑新聞』一九〇九(明治四二)年八月二九日

(21) 「屠場問題の成行 当分は行悩み」『扶桑新聞』一九〇九(明治四二)年九月二〇日

(22) 「売肉商組合秋季総会」『新愛知』一九〇九(明治四二)年九月二二日

(23) 「屠場設置委員会」『新愛知』一九〇九(明治四二)年九月二三日

(24) 「新屠場指定敷地の粉訖」『新愛知』一九〇九(明治四二)年九月二八日

(25) 「屠場位置反対 反対同盟会設立」『扶桑新聞』一九〇九(明治四二)年一〇月五日

- (26) 同前
- (27) 「屠場設置陳情」『新愛知』一九〇九(明治四二)年一〇月一六日
- (28) 「屠場設置反対陳情」『新愛知』一九〇九(明治四二)年一〇月二三日
- (29) 「屠場移転反対」『扶桑新聞』一九〇九(明治四二)年一月八日
- (30) 同右
- (31) 「屠場移転反対 西北倶楽部連合会決議」『名古屋新聞』一九〇九(明治四二)年一月一〇日
- (32) 「屠場敷地買収協定」『扶桑新聞』一九〇九(明治四二)年一月二三日
- (33) 「市中宮屠場問題 解決期近づく」『新愛知』一九〇九(明治四二)年一月一八日
- (34) 同右
- (35) 「市中宮屠場問題 再解決は行悩みとなり西部会噴起して決議す」『新愛知』一九〇九(明治四二)年二月二日
- (36) 「市中宮屠場と記念祭 西北倶楽部の決議」『名古屋新聞』一九〇九(明治四二)年二月二四日

執筆者紹介

山野 明 男 (本学教授……………地 理 学)
YAMANO Akio

清 水 義 和 (本学教授……………英 語)
SHIMIZU Yoshikazu

鷲 嶽 正 道 (本学講師……………英 語)
WASHITAKE Masamichi

Glenn D. GAGNE (本学外国人教師……英 語)

北 田 豊 治 (本学准教授……………健康総合科学)
KITADA Toyoharu

松 浦 國 弘 (本学教授……………社 会 学)
MATSUURA Kunihiro

川 口 高 風 (本学教授……………宗 教 学)
KAWAGUCHI Kōhū

清 忠 師 (本学教授……………物 理 学)
SEI Tadanori

教 養 教 育 研 究 会 委 員

(会長) 稲垣正巳 (副会長) 岡島秀隆

(会計) 北村伊都子

糸井川修	※河合泰弘	小林秀一
※城貞晴	前山慎太郎	松浦國弘
八谷芳樹	※山口均	山下秀康
鷲嶽正道		

※本号編集委員

編 集 後 記

3月11日に発生した東日本大震災に起因するさまざまな混乱の中、それぞれが複雑な思いを抱えながら新しい年度がスタートしました。このような中、論文6編、資料1編、公開講座記録1編を収録できたことは、まことに意義深いものがあります。投稿下さった、諸先生に陳謝申し上げます。

いまだ、被災地では、復興もままならず、社会不安が払拭されていませんが、我々にできることは、研究・教育を通じて社会に資することではないでしょうか。(河合記)

愛知学院大学教養教育研究会会則

- 第 1 条 本会は愛知学院大学教養教育研究会と称する。
- 第 2 条 本会の事務所は愛知学院大学教養部に置く。
- 第 3 条 本会は大学設立の趣旨に則り、人文科学・社会科学・自然科学・語学・健康総合科学等の、教養教育に関する諸学の研究成果ならびに教育成果の発表を通じ、学問の水準を維持、向上せしめ教育及び社会一般に寄与することを目的とする。
- 第 4 条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正 会 員 本大学の教養部専任教員とする。
 - (2) 準 会 員 本大学の在學生とする。
 - (3) 賛助会員 本大学の卒業生及び本会の趣旨に賛同し、会長の承認を得た者とする。
- 第 5 条 本会は第 3 条の目的を達成するために次の事業を行う。
- (1) 機関誌「愛知学院大学論叢教養部紀要」の刊行
 - (2) 研究会、講演会、討論会等の開催
 - (3) その他本会の目的を達成するために必要と認められる事業
- 第 6 条 「愛知学院大学論叢教養部紀要」は原則として毎年 4 回発行し、会員に配布する。
- 第 7 条 本会は教養教育研究会委員会を置き、委員は次の者で構成する。
- (1) 会 長 1 名
 - (2) 副 会 長 1 名
 - (3) 委 員 12 名
 - (4) 会 計 1 名
- 2 会長は学長これを委嘱する。
 - 3 委員は正会員の互選により、人文科学・社会科学・自然科学・第 1 外国語・第 2 外国語および健康総合科学の各系列より 2 名あて選出する。委員の任期は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 4 副会長及び会計は委員の互選により、会長がこれを委嘱する。
- 第 8 条 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
- 2 副会長は会長を補佐し、会務を掌る。
 - 3 委員は委員会を構成し、本会の企画運営にあたる。
- 第 9 条 会長は委員会を招集し、その議長となる。
- 第 10 条 会長は本会の会務執行のため、必要あるときは実行委員会を委嘱することがある。
- 第 11 条 会員は毎年度始めにおいて会費を納入する。
- 2 新入会員は入会金を納付するものとする。
- 第 12 条 本会の運営費は、会員の納付する会費、愛知学院大学からの補助金または有志からの寄付金およびその他の収入をもってこれにあてる。
- 第 13 条 本会の会計は 4 月に始まり、翌年 3 月に終る。
- 第 14 条 本会の会則の改正は正会員の 3 分の 2 以上の賛成をもって成立する。
- 付 則

本会則は、昭和32年4月1日に制定し、即日施行する。

本会則は、昭和53年2月6日に改正し、即日施行する。

本会則は、昭和57年3月24日に改正し、同年4月1日より施行する。

本会則は、昭和58年6月17日に改正し、即日施行する。
本会則は、昭和63年4月1日に改正し、即日施行する。
本会則は、平成2年7月6日に改正し、同年4月1日より施行する。
本会則は、平成8年7月19日に改正し、即日施行する。
本会則は、平成11年12月17日に改正し、翌年4月1日より施行する。
本会則は、平成20年12月12日に改正し、翌年4月1日より施行する。
本会則の施行により愛知学院大学一般教育研究会会則を廃止する。

愛知学院大学論叢「教養部紀要」投稿規定

1988年4月1日成立・実施

〔投稿資格〕

第 一 条 この会誌に投稿する資格をもつ者は、原則として教養教育研究会正会員とする。

〔転載の禁止〕

第 二 条 他の雑誌に掲載された論文・資料・翻訳・書評などは、これを採用しない。

〔原稿の形式〕

第 三 条 投稿に際しては、次の要領に従って本文、図および表を作成する。

- (1) 原稿は、原則として原稿用紙または電子媒体による入稿とする。(電子媒体による入稿の場合プリントアウトを一部添付する。)
- (2) 原稿の量はおおむね16,000字以内とする。
- (3) 本文の前に、別紙で、次の3項を次の順序で付する。
 - (i) 和文の題目および執筆者名。
 - (ii) 欧文の題目および執筆者名。
 - (iii) (イ) 論文・資料・翻訳・書評などの区別
(ロ) その論文・資料・翻訳・書評などが属する専門領域名。
ただし、ここにいう専門領域は、人文・社会・自然・外国語・健康総合科学の5部門に区別する。
 - (iv) 教授・准教授・講師・助教・外国人教師など別
- (4) 原稿の欧文箇所は、すべて活字体で書くか、またはワープロを用いる。
- (5) 図は、白紙または淡青色の方眼紙に墨書し、縮尺を指定する。これに対する文字は鉛筆で入れる。ただし、表はこれらの限りではない。
- (6) 写真に文字または印を入れるときは、トレーシング・ペーパーを重ねてそれに書き入れる。

〔原稿の申込み〕

第 四 条 投稿希望者は、教養教育研究会委員会（以下、委員会と称す）の公示する期限までに、委員会の提示する申し込み用紙に氏名を記入する。

ただし、申し込み者が所定の数に達しないか、またはそれを越える場合には、委員会がこれを調整する。

〔提出期限〕

第 五 条 投稿は委員会の定める提出期限までにこれを行う。締切り日以後に提出された原稿は掲載されないことがある。

〔原稿組版の制限〕

第 六 条 図版・カラー写真などの掲載により一般の経費より多くかかる場合は、その必要性を各号の編集責任者に申し出て委員会を開催して審議し、承認を得ることとする。なお、承認を得られず掲載を希望する場合、その費用を別途に個人負担とする。

〔原稿修正の制限〕

第 七 条 投稿後の原稿の修正は、原則としてこれを行わないものとする。やむをえない場合は初校において修正し、その範囲は最小限度にとどめる。大幅な修正の結果、印刷費が追加されるときは追加費用を個人負担とすることがある。

〔校 正〕

第 八 条 校正は原則として第3校までとし、本文については執筆者がこれに当たり、表紙・奥付その他については編集委員がこれに当たる。

〔抜き刷り〕

第 九 条 抜き刷りは、論文・資料・翻訳・書評など各1篇につき50部までを無料とする。これを越える分については実費を執筆者の負担とする。50部以上を要する場合には、執筆者はその必要全部数を原稿の表紙に朱記する。

〔掲載論文等の複製権・公衆送信権〕

第 十 条 この会誌に掲載された論文等の電子化および公開に関わる複製権および公衆送信権は、教養教育研究会に属するものとする。

ただし、掲載された論文などの執筆者が他の機関への転載もしくは複製権または公衆送信権の行使を申し出た場合は、正当な理由がない限り、教養教育研究会はこれを拒むことはできない。

付 則

- 一、本規定の改正には、教養教育研究会正会員の3分の2以上の賛成を要する。
- 二、本規定は、1988年4月1日に成立し、即日施行する。
- 三、本規定は、1996年7月19日に改正し、即日施行する。
- 四、本規定は、1999年12月17日に改正し、翌年4月1日より施行する。
- 五、本規定は、2003年11月21日に改正し、即日施行する。
- 六、本規定は、2005年4月22日に改正し、即日施行する。
- 七、本規定は、2007年11月16日に改正し、即日施行する。

申し合わせ（教養部会 2010. 7. 16）

- 第一条の「投稿する資格を持つ者」には、以下の非正会員を含む。
 - (1) 正会員との共同執筆による投稿
 - (2) 正会員が推薦する本学教養部の非常勤講師で、本務校をもたない人の投稿
 - (3) 元正会員で、本務校をもたない人の投稿
- 上記(1)(2)(3)に該当する投稿希望者がある場合は、担当編集委員が投稿の可否を決定し、投稿希望者に通知する。担当編集委員で判断できない場合には、教養教育研究会委員会を開いて投稿の可否を決定する。
- 投稿原稿の掲載に際しては、(1)の場合の原稿料は1篇分とし、(2)(3)の場合の原稿料は支払われない。また、(1)(2)(3)いずれの場合も抜き刷り50部までは無料とする。
- 投稿者は、第三条の〔原稿の形式〕を厳守し、第四条の〔原稿の申し込み〕の時に委員会の提示する「投稿票」用紙に必要事項を記入のうえ添付して投稿する。
- 投稿された原稿について担当編集委員から検討の申し出があった場合は教養教育研究会委員会を開き、

委員会名において訂正を依頼したり投稿を断ることがある。

- 第六条「図版・カラー写真の掲載」については、紀要作成予算の範囲内と見なされる場合、その採否は紀要編集委員の決議にゆだねるものとする。ただし、予算の範囲を逸脱する、あるいは採否の決議が困難の場合は教養教育研究会委員会を開催して、決定することとする。

(注) 教養教育研究会が本会正会員の著書・論文等について書評を依頼する場合は、原稿料を支払うこととする。

平成23年7月25日 印刷
平成23年7月31日 発行

(非売品)

愛知学院大学論叢
教養部紀要第59巻
第1号 (通巻第171号)

編集責任者
稲垣正巳

発行者 愛知学院大学
教養教育研究会
〒470-0195

愛知県日進市岩崎町阿良池12
電話 〈0561〉 (73) 1111 (代表)

印刷所 株式会社あるむ
電話 〈052〉 (332) 0861

THE JOURNAL OF AICHI GAKUIN UNIVERSITY

Humanities & Sciences

Vol.59 No. 1
(Whole Number 171)

CONTENTS

Articles

- Akio YAMANO : Consideration for Prevention of Disasters in Tokai Area through the Great Earthquake
Disaster in East Japan..... (1)
- Yoshikazu SHIMIZU : Van Gogh and Shuji Terayama
—Decode *Le soleil at Death in the Country* by M. C. Escher—..... (23)
- Masamichi WASHITAKE : Quantifying Students' Reading Ability:
Lexical Density, Nominalization and Grammatical Intricaacy..... (59)
- Glenn D. GAGNE : Improving Language Acquisition Through Better Task Design..... (73)
- Toyoharu KITADA : A Study on the Drinking Behavior and Attitude in College Students..... (81)
- Kunihiro MATSUURA : The Process of a Municipal Butchery having being Established in Nagoya and
Buraku Problems..... (144)

Materials

- Kōhū KAWAGUCHI : A Study of Wood Engraving Materials in Respect of Temples in Nagoya (7)..... (124)
- A Record of Aichi Gakuin University Community College
- Tadanori SEI : Global Warming and Our Future..... (91)

Published
by

Aichi Gakuin University
Nagoya, Japan

2011